

武雄市
子どもの生活実態調査
集計結果報告書

令和3年3月

目次

1 調査概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の対象と実施方法	1
(3) 配布・回収状況	2
(4) 設問構成	3
2 子どもの養育の“困難度の高さ”の判別・類型化	6
(1) 子どもの養育の“困難度の高さ”の判別・類型化に用いた設問	6
(2) 等価世帯年収による判別	6
(3) 合意基準による判別	8
(4) 困窮経験による判別	11
(5) 3つの視点からの判別を踏まえた類型化	12
(6) 前回（平成28年）調査結果との比較	14
3 保護者向け調査の集計・分析	16
(1) お子さんからみた回答者の続柄（SA）	16
(2) お住まいの地区（SA）	17
(3) 居住形態（SA）	18
(4) 家族の人数（NA＝数量回答）	19
(5) 単身赴任等の有無（SA）	20
(6) 家族構成（SA）	20
(7) お子さんの人数（NA＝数量回答）	21
(8) 親の年齢（母親・父親）（SA）	22
(9) 親の最終学歴（母親・父親）（SA）	24
(10) 親の就業状況（母親・父親）（SA）	26
(11) 親の帰宅時間（母親・父親）（SA）	28
(12) 親の健康状態（母親・父親）（SA）	30
(13) 何番目のお子さんか（SA）	31
(14) お子さんの健康状態（SA）	32
(15) 受診が必要であるのに受診しなかった経験（SA）とその理由（MA）	33
(16) むし歯の有無（SA）とその治療中の有無（SA）	34
(17) 【小1・小5・中2・高2の保護者】生活・学習習慣の状況（SA）	35
(18) 【小1・小5・中2・高2の保護者】習い事等の状況（SA）と習い事をしていない理由（MA）	37
(19) 【小1・中2・高2の保護者】将来の進学見通し（SA）とその理由（SA）	38
(20) 子どもにとって必要な環境・モノ（SA）	40
(21) お子さんに与えられている環境・モノ（SA）	41
(22) 経済的理由による困窮経験（SA）	42
(23) 子育てについての心配や悩み事（MA）	43

(24) 心配や悩み事の相談相手 (MA)	44
(25) 【小1の保護者】小学校入学直前の通園状況 (SA)	45
(26) 【小1の保護者】小学校入学の際に困ったことや不安だったこと (MA)	46
(27) 【小1の保護者】小学校入学の際に経済的負担が大きかったもの (MA)	47
(28) 【小5の保護者】中学校進学にあたり不安なこと (MA)	48
(29) 【小5の保護者】中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの (MA)	49
(30) 【中2・高2の保護者】中学校(高校)入学の際に困ったことや不安だったこと (MA)	50
(31) 【中2の保護者】中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの (MA)	51
(32) 【中2の保護者】高校進学にあたり不安なこと (MA)	52
(33) 【高2の保護者】高校入学の際に経済的負担が大きかったもの (MA)	53
(34) 小学校・中学校・高校入学の際に経済的負担を感じた時期 (SA)	54
(35) 【中2・高2の保護者】進学のための奨学金制度の認知状況 (SA)	55
(36) 【16~17歳の子どもの保護者】お子さんの現在の状況 (SA)	56
(37) 【高2の保護者】進学を考えるにあたり不安なこと (MA)	57
(38) 【高2の保護者】進学を考えるにあたり経済的負担が大きいと思うもの (MA)	58
(39) 【高2の保護者】就職を考えるにあたり不安な事 (MA)	59
(40) 【高2の保護者】就職を考えるにあたりあれば良いと思う支援 (MA)	60
(41) 各種支援・サービスの利用経験 (SA)	61
(42) 必要と思う支援 (MA)	63
(43) 世帯の年間収入 (SA)	64
(44) 各種手当・援助の受給経験 (SA)	65
(45) 現在の生活の経済的ゆとりの程度 (SA)	67
(46) 子どものころの生活の経済的ゆとりの程度 (SA)	68
(47) 現在の幸福度 (SA)	69
(48) コロナ禍の世帯収入への影響 (SA)	70
(49) コロナ禍での子どもの生活への影響 (MA)	71
(50) コロナ禍で子育てに関して必要と思う支援 (MA)	72

4 子ども向け調査の集計・分析	73
------------------------------	-----------

(1) 将来の夢の有無 (SA) と夢がない理由 (SA)	73
(2) 将来なりたい職業 (SA)	74
(3) 将来の進学希望 (SA)	75
(4) 【16~17歳】今後とりたい資格 (MA)	76
(5) 持っている物 (SA)	77
(6) 放課後を一緒に過ごす相手 (SA)	79
(7) 放課後を過ごす場所 (SA)	80
(8) 食事を一緒にする相手 (SA)	81
(9) 平日の起床時間・就寝時間 (SA)	82
(10) 平日の時間の過ごし方 (SA)	85
(11) 休日の時間の過ごし方 (SA)	87

(12) 悩み事の有無 (SA) と相談相手の有無 (SA)、相談相手 (MA)	89
(13) ふだんの会話の状況 (SA)	91
(14) 【16~17歳】現在の状況 (SA)	92
(15) 学校生活での楽しみ (SA)	93
(16) 学校以外での学習時間 (SA)	95
(17) 学校以外での学習場所 (SA)	96
(18) 授業の理解度 (SA)	97
(19) 日常生活の中で感じていること (SA)	98
(20) コロナ禍での生活への影響 (MA)	100
(21) コロナ禍の影響で悩んでいること・困っていること (MA)	101

5 親の学歴と子どもの進学に関する分析	103
----------------------------------	------------

(1) 分析に用いた設問と選択肢の読み替え・分類	103
(2) 両親の学歴と進学の見通し・希望	104
(3) 進学見通しと進学希望のマッチング状況	105
(4) 進学の見通しと見通し理由	107
(5) 進学の見通し理由と見通し・希望のマッチング状況	108

6 前回調査との主要設問結果比較	109
-------------------------------	------------

(1) 【保護者向け】受診が必要であるのに受診しなかった経験 (SA)	109
(2) 【保護者向け】むし歯の有無 (SA)	109
(3) 【保護者向け】子どもの生活・学習習慣について (MA)	110
(4) 【保護者向け】子どもの習い事等の状況 (MA)	111
(5) 【保護者向け】子どもにとって必要な環境・モノ (SA)	112
(6) 【保護者向け】お子さんに与えられている環境・モノ (SA)	113
(7) 【保護者向け】経済的理由による困窮経験 (SA)	114
(8) 【保護者向け】子育てなどについての心配や悩み事 (MA)	115
(9) 【保護者向け】現在の生活の経済的ゆとりの程度 (SA)	116
(10) 【保護者向け】世帯の年間収入 (SA)	117
(11) 【子ども向け】持っている物 (SA)	118
(12) 【子ども向け】食事を一緒にする相手 (SA)	119
(13) 【子ども向け】日常生活の中で感じていること (SA)	120

I 調査概要

(1) 調査の目的

少子化や子どもの貧困などの問題が全国的に深刻化・顕在化していく中、本調査は、武雄市に暮らす市民が安心して子どもを育てるために必要となる取組みについて検討するにあたり、子どものいる家庭の生活状況や子どもの様子、子育ての悩みや困りごと等の実態を把握することを目的に実施しました。

なお、本市においては、平成 28 年度にも「子どもの生活実態調査」（以下「前回調査」という。）を実施しており、今回の調査はそれに続く 2 回目の調査となります。

(2) 調査の対象と実施方法

本調査においては、対象者別に次の 7 種類のアンケート調査を実施（調査期間：令和 2 年 12 月～令和 3 年 1 月）しました。

①武雄市 子どもの生活実態調査（保護者向け調査）

調査対象	調査の方法
小学校 1 年生の保護者	学校にて配布した調査票を子どもが自宅に持ち帰り、保護者は自宅でアンケートに回答し、学校に提出
小学校 5 年生の保護者	
中学校 2 年生の保護者	
16～17 歳の保護者	郵送による配布・回収

②武雄市 子どもの生活実態調査（子ども向け調査）

調査対象	調査の方法
小学校 5 年生	学校でアンケートを配布・回答し、学校で回収
中学校 2 年生	
16～17 歳	郵送による配布・回収

なお、“保護者向け調査”と“子ども向け調査”の各調査は、いずれも無記名式で実施したため、回収後に両調査票について世帯ごとの結び付けを行う観点から、それぞれの調査票に結び付けのための連番を振りました。連番は、保護者から回収した調査票とその子どもから回収した調査票を結び付けるためのものであり、個人を特定できるものではありません。

(3) 配布・回収状況

配布・回収の状況については次のとおりです。

	保護者向け調査			子ども向け調査		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
小学校1年生	413	387	93.7%	/		
小学校5年生	470	449	95.5%	470	462	98.3%
中学校2年生	435	375	86.2%	435	395	90.8%
16～17歳	499	197	39.5%	499	188	37.5%
計	1,817	1,408	77.5%	1,404	1,045	74.4%

回収された調査票は、“保護者向け調査”が1,408票、“子ども向け調査”が1,045票でしたが、これらについて世帯ごとの結び付けを行った結果、1,444件（世帯）のデータとして整理しました。

	回収数			
	保護者向けのみ 回収	両調査ともに 回収	子ども向けのみ 回収	計
小学校1年生	387	/		387
小学校5年生	1	448	14	463
中学校2年生	1	374	21	396
16～17歳	10	187	1	198
計	399	1,009	36	1,444

(4) 設問構成

各調査票の設問構成は次のとおりです。

[保護者向け調査票]

保護者向け調査	小1	小5	中2	16~17歳	
回答者と家族について					
お子さんからみた回答者の続柄	問1	問1	問1	問1	
お住まいの地区	問2	問2	問2	問2	
住居形態	問3	問3	問3	問3	
家族の人数と単身赴任の有無	問4	問4	問4	問4	等価世帯年収
家族構成	問5	問5	問5	問5	
お子さんの人数	問6	問6	問6	問6	
親の年齢	問7	問7	問7	問7	
親の最終学歴	問8	問8	問8	問8	
親の就業状況	問9	問9	問9	問9	
親の帰宅時間	問9-1	問9-1	問9-1	問9-1	
親の健康状態	問10	問10	問10	問10	
お子さんについて					
何番目のお子さんか	問11	問11	問11	問26	
お子さんの健康状態	問12	問12	問12	問27	
受診が必要であるのに受診しなかった経験	問13	問13	問13	問28	
受診しなかった理由	問13-1	問13-1	問13-1	問28-1	
むし歯の有無	問14	問14	問14	問29	
むし歯の治療中の有無	問14-1	問14-1	問14-1	問29-1	
お子さんの生活・学習習慣について					
生活・学習習慣の状況	問15	問15	問15	問35	
習い事等の状況	問16	問16	問16	問36	
習い事等をしていない理由	問16-1	問16-1	問16-1	問36-1	
将来の進学見通し	問17	問17	問17	問37●	
進学見通しの理由	問18	問18	問18	問38	
子どもを取り巻く環境・モノについて					
子どもにとって必要な環境・モノ	問19	問19	問19	問16	合意基準
お子さんに与えられている環境・モノ	問20	問20	問20	問17	
経済的理由による困窮経験	問21	問21	問21	問18	困窮経験
子育ての悩みや相談について					
子育てについての心配や悩み事	問22	問22	問22	問21	
心配や悩み事の相談相手	問23	問23	問23	問22	
小学校入学直前の通園状況	問24	-	-	-	
小学校入学の際に困ったことや不安だったこと	問25	-	-	-	
小学校入学の際に経済的負担が大きかったこと	問26	-	-	-	
小学校入学の際に経済的負担を感じた時期	問27	-	-	-	

保護者向け調査		小1	小5	中2	16~17歳
中学校進学にあたり不安なこと	—	問24	—	—	—
中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの	—	問25	—	—	—
中学校入学の際に困ったことや不安だったこと	—	—	問24	—	—
中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの	—	—	問25	—	—
中学校入学の際に経済的負担を感じた時期	—	—	問26	—	—
高校進学にあたり不安なこと	—	—	問27	—	—
進学のための奨学金制度の認知状況	—	—	問28	問34	—
お子さんの現在の状況	—	—	—	問30	—
高校入学の際に困ったことや不安だったこと	—	—	—	問31	—
高校校入学の際に経済的負担が大きかったもの	—	—	—	問32	—
高校入学の際に経済的負担を感じた時期	—	—	—	問33	—
将来の進路について					
進学(大学、短大、専門学校等)を考えるにあたり不安なこと	—	—	—	問40①	—
進学を考えるにあたり経済的負担が大きいと思うもの	—	—	—	問40②	—
就職を考えるにあたり不安なこと	—	—	—	問39①	—
就職を考えるにあたりあれば良いと思う資格、支援	—	—	—	問39②	—
各種支援・サービスについて					
各種支援・サービスの利用経験	問28	問26	問29	問19	—
必要と思う支援	問29	問27	問30	問20●	—
世帯の経済的状況について					
世帯の年間収入	問30	問28	問31	問11	等価世帯年収
各種手当・援助の受給経験	問31	問29	問32	問12	—
現在の生活の経済的ゆとりの程度	問32	問30	問33	問13	—
子どもの頃の生活の経済的ゆとりの程度	問33	問31	問34	問14	—
現在の幸福度	問34	問32	問35	問15	—
コロナ禍の影響について					
コロナ禍の世帯収入への影響	問35	問33	問36	問23	—
コロナ禍での子どもの生活への影響	問36	問34	問37	問24	—
コロナ禍で子育てに関して必要と思う支援	問37	問35	問38	問25	—

※表中の「●」印は選択肢が一部異なる設問

[子ども向け調査票]

子ども向け調査		小5	中2	16~17歳
将来の夢について				
将来の夢の有無	問1	問1	問1	
将来の夢がない理由	問2	問2	問2	
将来なりたい職業	問3	問3	問3	
将来の進学希望	問4	問4	問24●	
今後とりたい資格	—	—	問4	
持っているものについて				
持っている物	問5	問5	問5	
日常生活の状況について				
放課後を一緒に過ごす相手	問6	問6	問20	
放課後に過ごす場所	問7	問7	問19	
食事を一緒にする相手	問8	問8	問6	
起床時間・就寝時間	問9	問9	問7	
平日の時間の過ごし方	問10	問10	問8●	
休日の時間の過ごし方	問11	問11	問9●	
悩み事の有無	問12	問12	問12	
悩み事を相談できる相手の有無	問13	問13	問13	
相談している相手	問14	問14	問14	
ふだんの会話状況	問15	問15	問10	
あなたの現在の状況	—	—	問17	
学校生活の中で楽しみにしていること	問16	問16●	問18●	
学習状況について				
学校以外での学習時間	問17	問17	問21	
学校以外での学習場所	問18	問18	問22	
授業の理解度	問19	問19	問23	
日常生活の中で感じていることについて				
日常生活の中で感じていること	問20	問20	問11	
コロナ禍の影響について				
コロナ禍での生活への影響	問21	問21	問15	
コロナ禍の影響で悩んでいること・困っていること	問22	問22	問16●	

※表中の「●」印は選択肢が一部異なる設問

○次ページ以降に示す単数回答（SA）の設問で、各選択肢の合計が100.0%にならない場合があるのは四捨五入処理の関係によるものです。複数回答（MA）の設問については、基本的に各選択肢の合計は100.0%を超えます。

○グラフ中に“n=1,293”などとあるのは、その設問に回答すべき対象者数です。一部の人に回答を求めている設問などがあるため、nの値は設問によって異なります。

2 子どもの養育の“困難度の高さ”の判別・類型化

(1) 子どもの養育の“困難度の高さ”の判別・類型化に用いた設問

本調査の集計・分析にあたっては、子どもの貧困問題について武雄市における実態を把握するため、アンケート結果に基づき、子どもの養育の“困難度の高さ”という視点から世帯の判別・類型化を行いました。

“困難度の高さ”について、本調査では“等価世帯年収”“合意基準”“困窮経験”の3つの視点から捉えることとし、具体的には次の5つの設問への回答データに基づく判別・類型化を行いました。

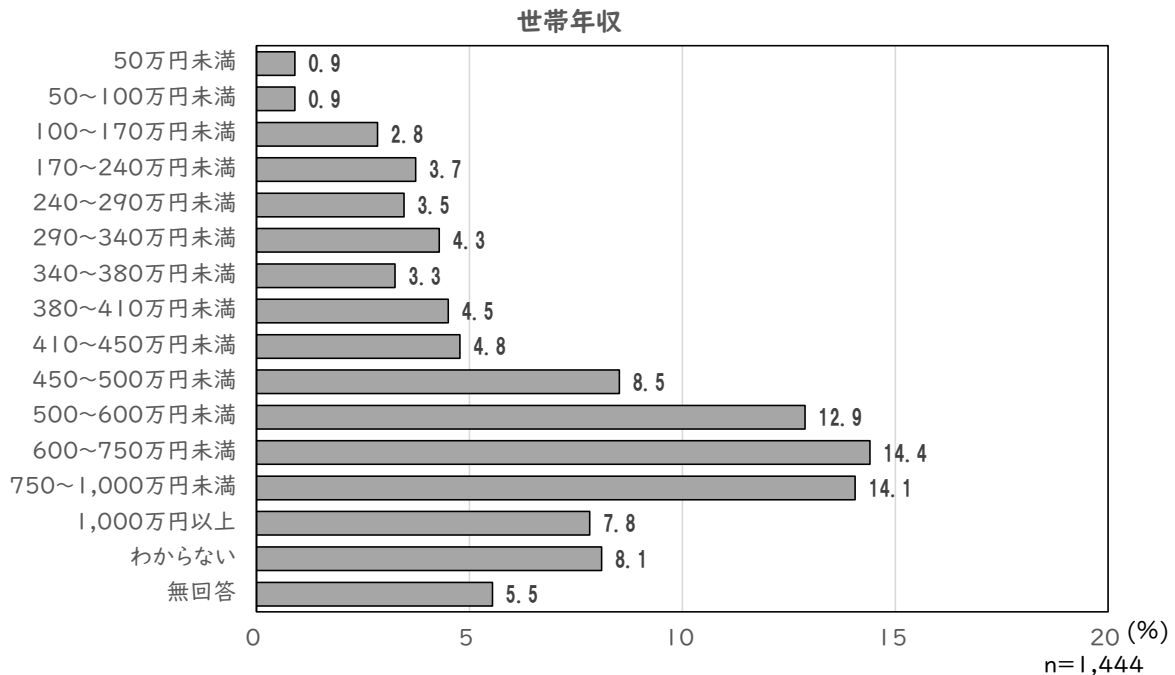
判別の視点	判別・類型化に用いた設問
等価世帯年収	生計を共にしているご家族の人数
	世帯の年間収入
合意基準	子どもにとって必要な環境・モノ（14項目）
	お子さんに与えられている環境・モノ（14項目）
困窮経験	経済的理由による困窮経験（6項目）

※等価世帯年収とは、世帯年収を家族人数の平方根で除した値

(2) 等価世帯年収による判別

[世帯年収の状況]

世帯年収については、最も多い「600～750万円未満」の14.4%を含め、500万円以上が49.2%と約半数を占めています。



一方で、世帯年収 240 万円未満の世帯が 8.3%となっています。

前回調査では、世帯年収の選択肢レンジが異なりますが、世帯年収 250 万円未満 (14.6%) を“困難度が高い”と判別しました。

[等価世帯年収による判別]

等価世帯年収とは、世帯年収を家族人数の平方根で除した値であり、世帯年収による単純な判別に比べ、家族の人数状況を適切に反映した判別が可能になります。

$$\text{等価世帯年収} = \text{世帯年収} / \sqrt{\text{家族の人数}}$$

我が国の貧困線（等価可処分所得中央値の半分）は 127 万円（最新値：2018 年）となっています。ここでは可処分所得が年収の 75%と仮定することで、等価可処分所得による貧困線 127 万円は、等価世帯年収としては 169 万円程度に相当するものと考えます。

等価世帯年収 169 万円（目安）を下回る場合 ⇒ “困難度が高い”

この等価世帯年収 169 万円を踏まえ、判別を行った結果は次のとおりです。

ご家族の人数	世帯数(a)	“困難度が高い”世帯	
		世帯数(b)	構成比(b/a)
2人	41	19	46.3%
3人	122	46	37.7%
4人	364	58	15.9%
5人	379	56	14.8%
6人	180	46	25.6%
7人	107	22	20.6%
8人	43	14	32.6%
9人以上	11	6	54.5%
計	1,247	267	21.4%

※世帯年収またはご家族の人数について不明のデータは除く。

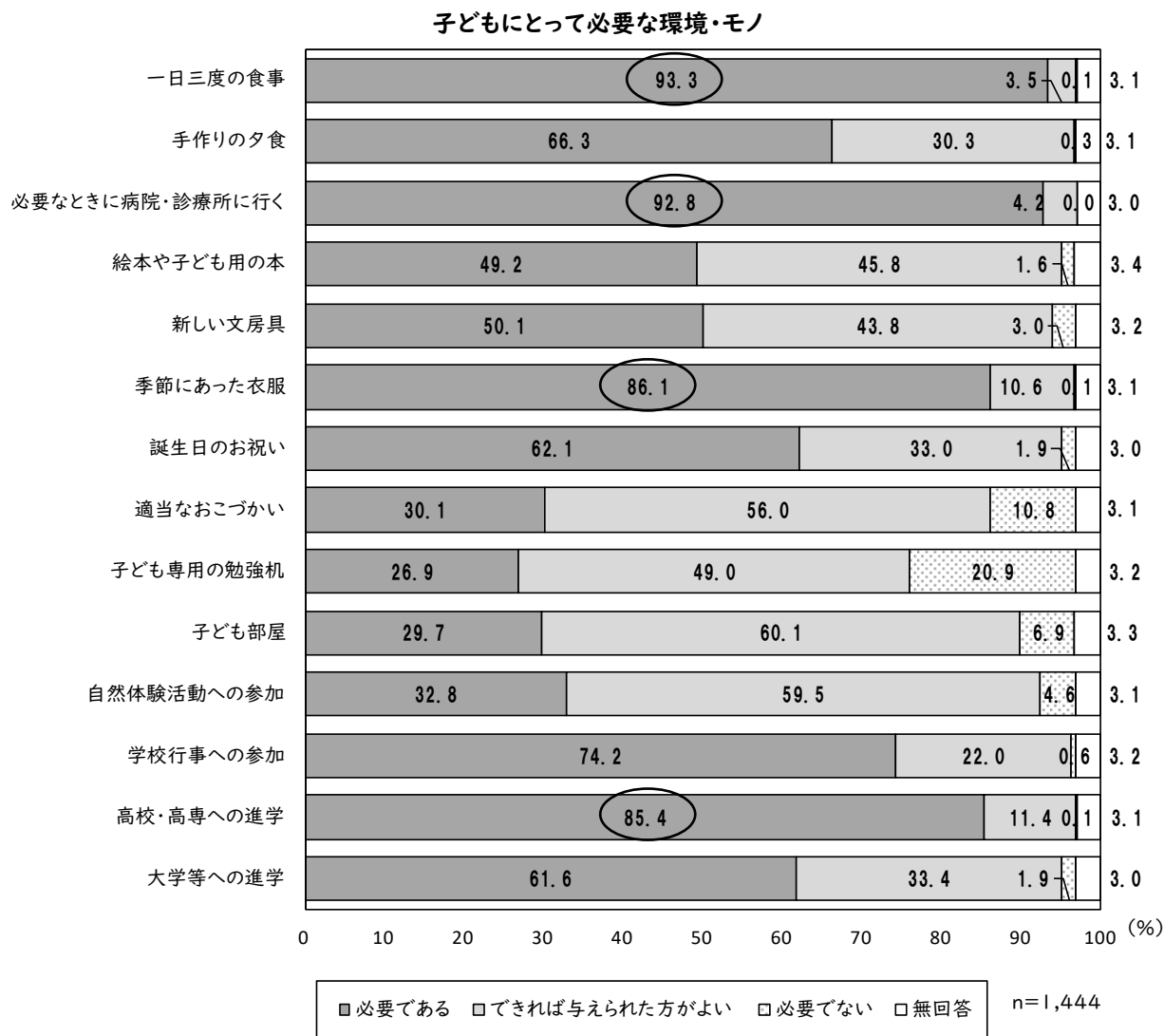
(3) 合意基準による判別

[合意基準の設定]

(※前回比較 113~114p参照)

子どもにとって必要な環境・モノについて伺ったところ、次のような結果でした。

“必要である”との回答が80%以上の項目は、「一日三度の食事」93.3%、「必要なとき病院・診療所に行く」92.8%、「季節にあった衣服」86.1%、「高校・高専への進学」85.4%の4項目となっています。



これらの4項目は、保護者の80%以上の方が子どもにとって必要な環境・モノとして捉えており、言い方を換えると、武雄市に暮らす子どもにとって欠かすべきではない環境・モノとして80%以上の方の合意があると考えられます。

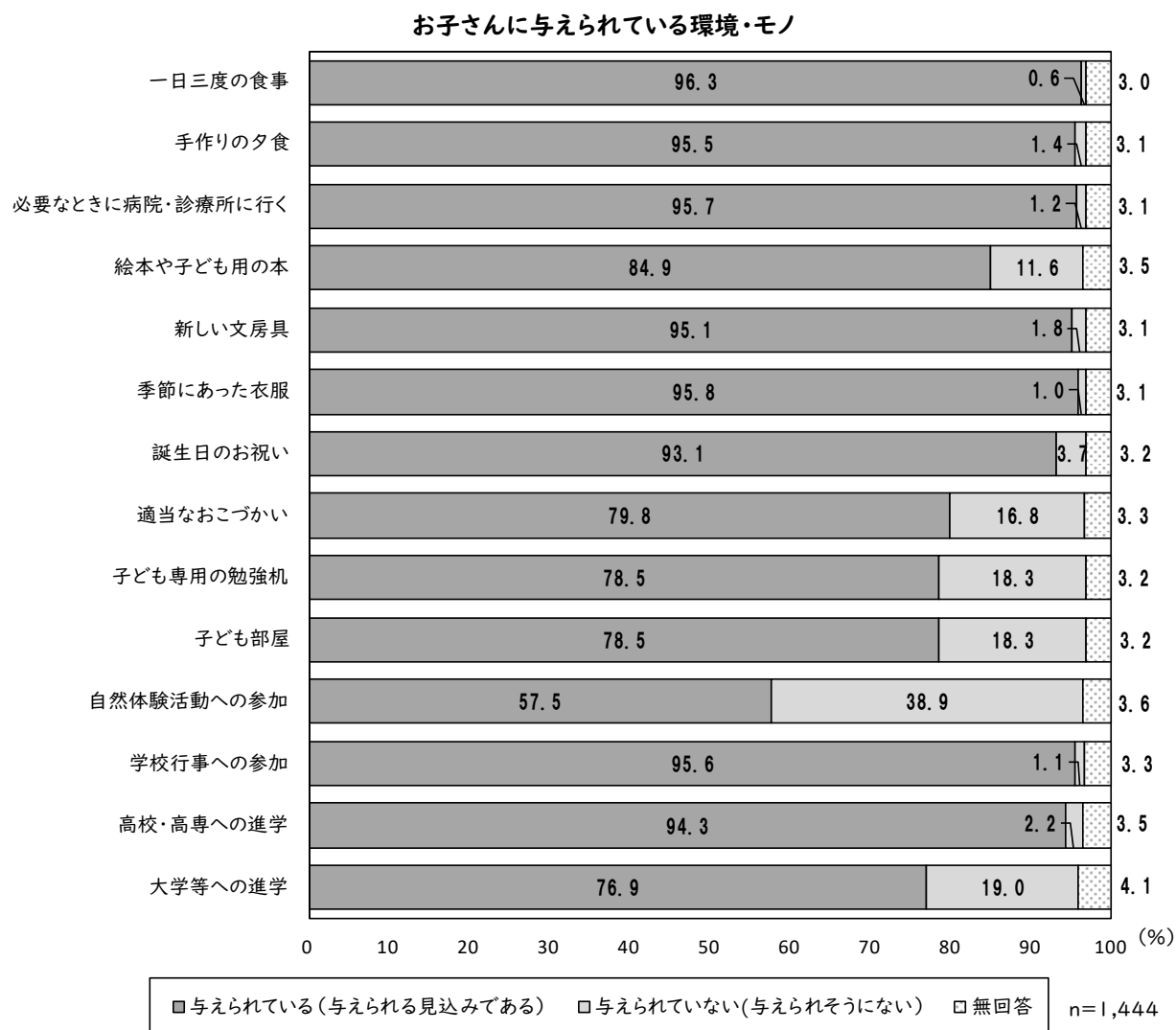
なお、前回調査ではこれら4項目に加えて、「学校行事への参加」について“必要である”との回答が80%以上となっていました。

こうした考え方にに基づき、本調査では、保護者の80%以上の方が子どもにとって必要な環境・モノとして挙げた5項目について、子どもに欠かすべきではない環境・モノとして“困難度の高さ”の判別に用いることとしました。

合意基準4項目 (子どもにとって必要な環境・モノ)	“必要である”割合
一日三度の食事	93.3%
必要なときに病院・診療所に行く	92.8%
季節にあった衣服	86.1%
高校・高専への進学	85.4%

[合意基準による判別]

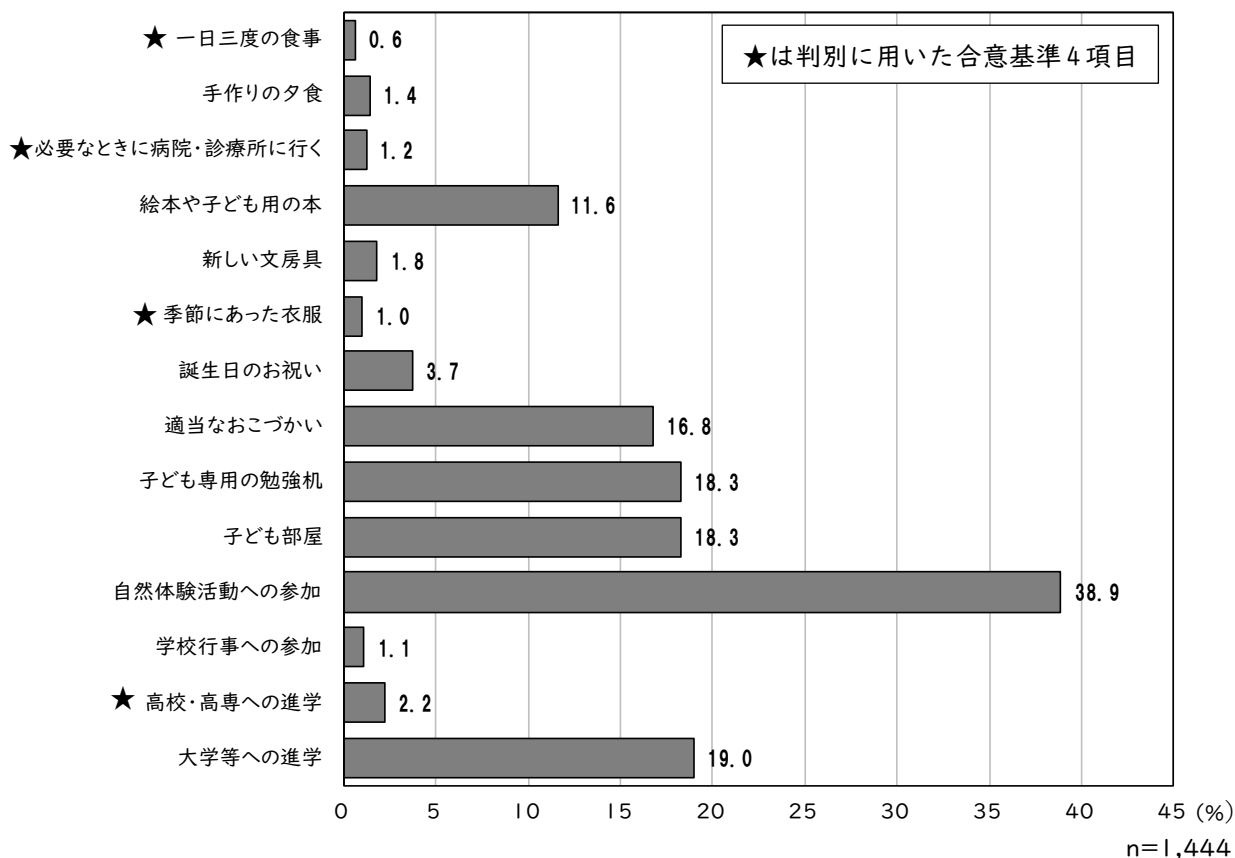
次に示すのは、お子さんに与えられている環境・モノの実態です。



「一日三度の食事」など9項目については80%以上の世帯で“与えられている”一方で、「自然体験活動への参加」の57.5%など5項目については与えられている世帯が80%未満となっています。

こうした結果について、“与えられていない”に着目してみると次のようになっています。

お子さんに与えられている環境・モノ
 〈“与えられていない”の割合〉



合意基準4項目 (子どもにとって必要な環境・モノ)	“与えられていない” 割合
一日三度の食事	0.6%
必要なときに病院・診療所に行く	1.2%
季節にあった衣服	1.0%
高校・高専への進学	2.2%

合意基準による判別として、上記4項目のいずれかが“与えられていない”世帯について“困難度が高い”と判別することにしました。

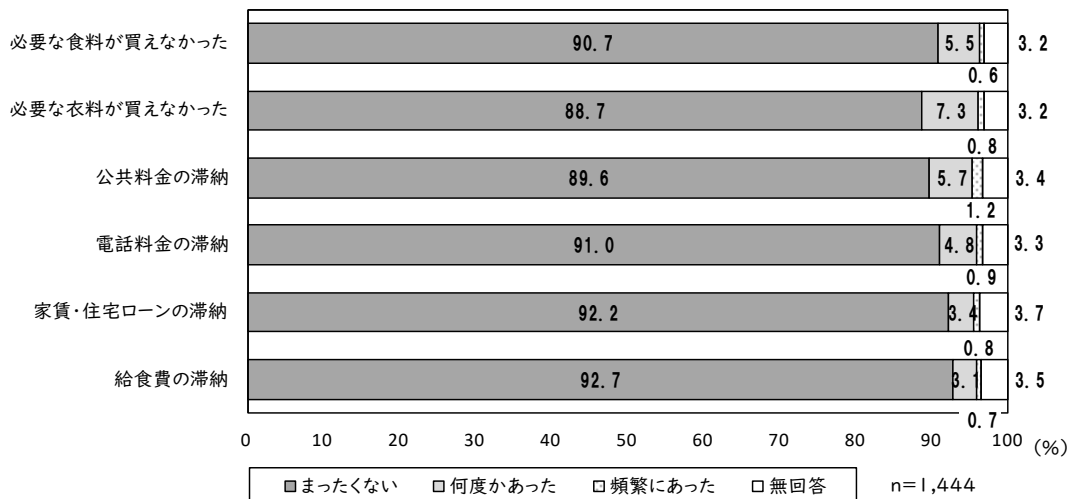
合意基準4項目のいずれかが“与えられてない”場合 ⇒ “困難度が高い”

(4) 困窮経験による判別

(※前回比較 115p参照)

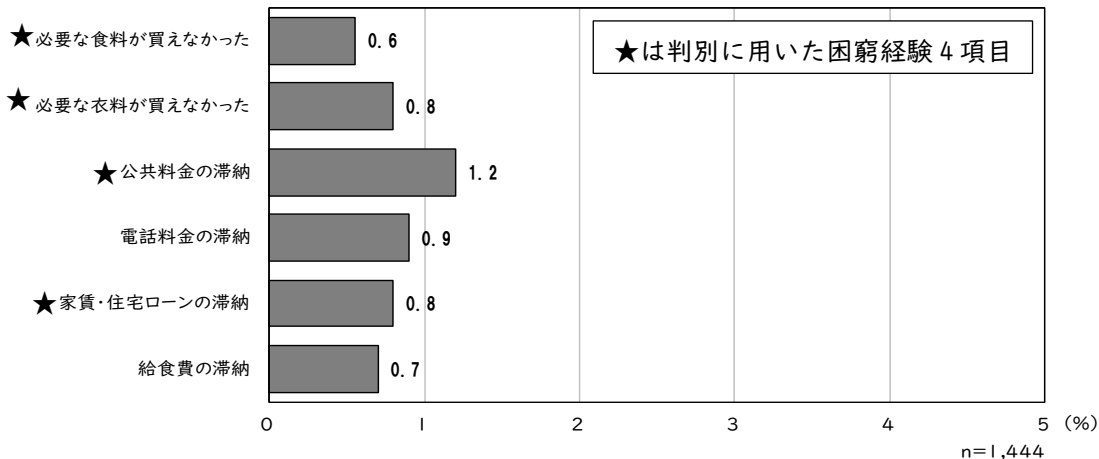
「必要な食料が買えなかった」など6項目の経済的理由による困窮経験について伺ったところ、すべての項目で“まったくない”が90%前後を占めている一方で、すべての項目で少ないながらも“頻繁にあった”との回答がありました。

経済的理由による困窮経験



これら6項目の中で、衣・食・住に大きく関わる次の4項目を困窮経験による判別に用いることとし、“頻繁にあった”に着目してみると次のようになっています。

経済的理由による困窮経験



困窮経験による判別は、衣・食・住に大きく関わる4項目のいずれかが“頻繁にあった”世帯について“困窮度が高い”と判別することにしました。

判別に用いた困窮経験4項目	“頻繁にあった”割合
必要な食料が買えなかった	0.8%
必要な衣料が買えなかった	0.8%
公共料金の滞納	1.2%
家賃・住宅ローンの滞納	0.8%

困窮経験4項目のいずれかが“頻繁にあった”場合 ⇒ “困難度が高い”

(5) 3つの視点からの判別を踏まえた類型化

ここまでに示した3つの視点からの子どもの養育の“困難度の高さ”の判別を踏まえ、次のように“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”といった類型化を行いました。

判別指標	判別基準
等価世帯年収	<p>◆等価世帯年収が169万円(目安)を下回る場合、“困難度が高い”と判別する</p> <p>◇世帯年収またはご家族の人数について不明の場合、等価世帯年収による判別は不能とする</p>
合意基準4項目	<p>◆4項目のいずれかが“与えられていない”場合、“困難度が高い”と判別する</p> <p>◇上記による“困難度が高い”世帯以外で、4項目中に不明の項目がある場合、合意基準4項目による判別は不能とする</p>
困窮経験4項目	<p>◆4項目のいずれかが“頻繁にあった”場合、“困難度が高い”と判別する</p> <p>◇上記による“困難度が高い”世帯以外で、4項目中に不明の項目がある場合、困窮経験4項目による判別は不能とする</p>



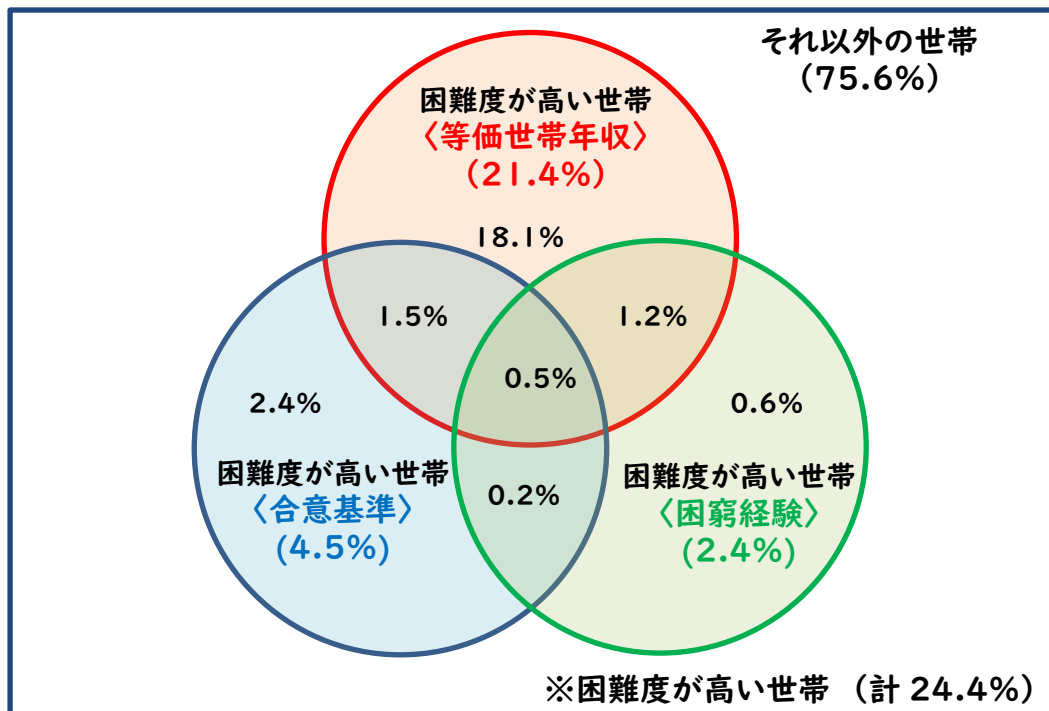
類型化	<p>◆“困難度の高さ”指標のいずれかで“困難度が高い”と判別された場合、“困難度が高い世帯”として扱う</p> <p>◇“困難度が高い世帯”として判別された世帯以外で、“困難度の高さ”指標のいずれかにおいて判別不能と判断された場合、“困難度の高さ”の判別が不能であり、集計上は“不明”として扱う</p> <p>◇上記の“困難度が高い世帯”“不明”のいずれでもない場合は、困難度が高くないことが判別されたことになり、“それ以外の世帯”として扱う</p>
-----	---



	類 型	件 数	構成比	
			全データ対象	判別可能データ
集 計	困難度が高い世帯	306 世帯	21.2%	24.4%
	それ以外の世帯	948 世帯	65.7%	75.6%
	不 明	190 世帯	13.2%	
	計	1,444 世帯	100.0%	100.0%

【世帯の類型化】

“不明”データを除くと、“困難度が高い世帯”が全体の24.4%、“それ以外の世帯”が75.6%となります。



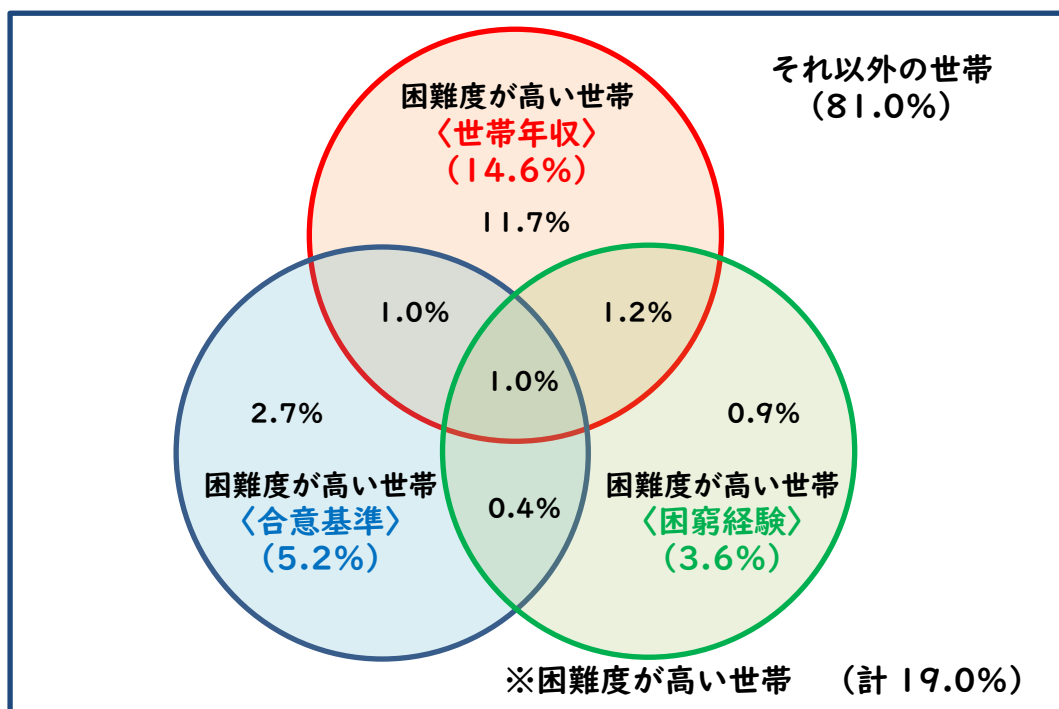
※小数点第1位以下を四捨五入の関係で、合計が合わない場合があります。

今回の調査結果で“困難度の高い世帯”と判別された24.4%については、子どもの貧困問題を国の示す貧困率のように収入（所得）だけでなく、合意基準、困窮経験を含め3つの視点で視ることにより、より幅広くその実態を捉えています。

【前回調査の類型化】

前回調査では、“不明”データを除くと、“困難度が高い世帯”が全体の19.0%、“それ以外の世帯”が81.0%となります。

なお、前回調査では、世帯年収250万円未満の世帯を判別指標としています。



(6) 前回(平成28年)調査結果との比較【困難度が高い世帯】

類型	年 収		合意基準	困窮経験	該当者
	世帯年収	等価世帯年収			
前回調査	14.6%	-	5.2%	3.6%	19.1%
今回調査	-	21.4%	4.5%↓	2.4%↓	24.4%↑

- ・前回調査と比較して、困難度が高い世帯の割合は、5.3ポイント増加しています。その大きな要因は、合意基準、困窮経験は前回よりそれぞれ0.7%、1.2%減少している一方で、等価世帯年収による該当者割合が6.8ポイント増加したことによります。
- ・前回調査では単純な250万円未満の世帯年収による判別であり、今回は家族の人数状況を適切に反映した等価世帯年収による判別としているため、単純比較はできません。
- ・しかし、今回調査結果を前如同様に、世帯年収を基準とした場合、前回250万円を上回る290万円未満の世帯で判別した場合でも、次のように大きく減少することがわかります。

【等価世帯年収・世帯年収による該当比較】

今回調査	前回調査
(等価世帯年収) 21.4%	-
(参考：世帯年収 290万円未満) 11.8%	(世帯年収 250万円未満) 14.6%

- ・世帯年収で比較すると、今回調査は世帯年収290万円未満の世帯が11.8%、前回調査では、世帯年収250万円未満の世帯が14.6%で、世帯年収は全体的に上がっています。
- ・このように、単純に世帯年収を基準とした場合、前回調査よりも収入面では改善していると言えますが、等価世帯年収として世帯年収と併せて世帯人員を考慮に入れ細かく見ていくと、21.4%の世帯が困難度の高い世帯に分類され、依然厳しい状況にあることがわかります。

■国民生活基礎調査(2019)による子どもの貧困率との違い

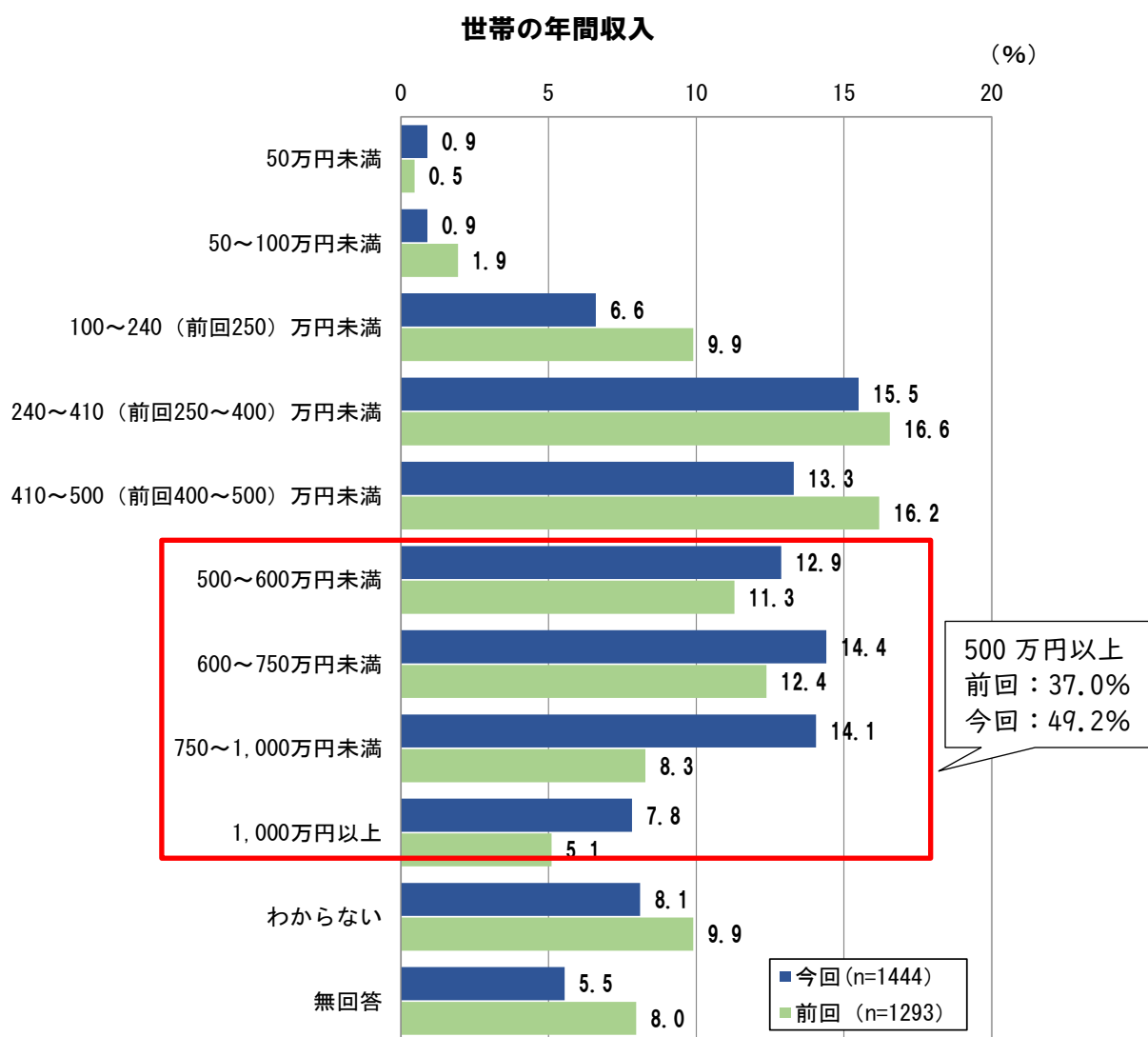
我が国の子ども(17歳以下)の貧困率は13.5%(最新値:2018年)となっています
 国民生活基礎調査(国):等価可処分所得=世帯の可処分所得を世帯員数の平方根で割った値
 こどもの生活実態調査(市):等価世帯年収=世帯の世帯年収を世帯員数の平方根で割った値

※所得と年収の違い、調査対象年齢等異なることから国民生活基礎調査による子どもの貧困率とは、直接比較できるものではありません。

※可処分所得とは、所得から所得税、住民税、社会保険料、固定資産税・都市計画税及び自動車税等を差し引いたものであり、手取り収入に相当します。国民生活基礎調査では、詳細な所得票に記載していただくことにより可処分所得を把握しています。

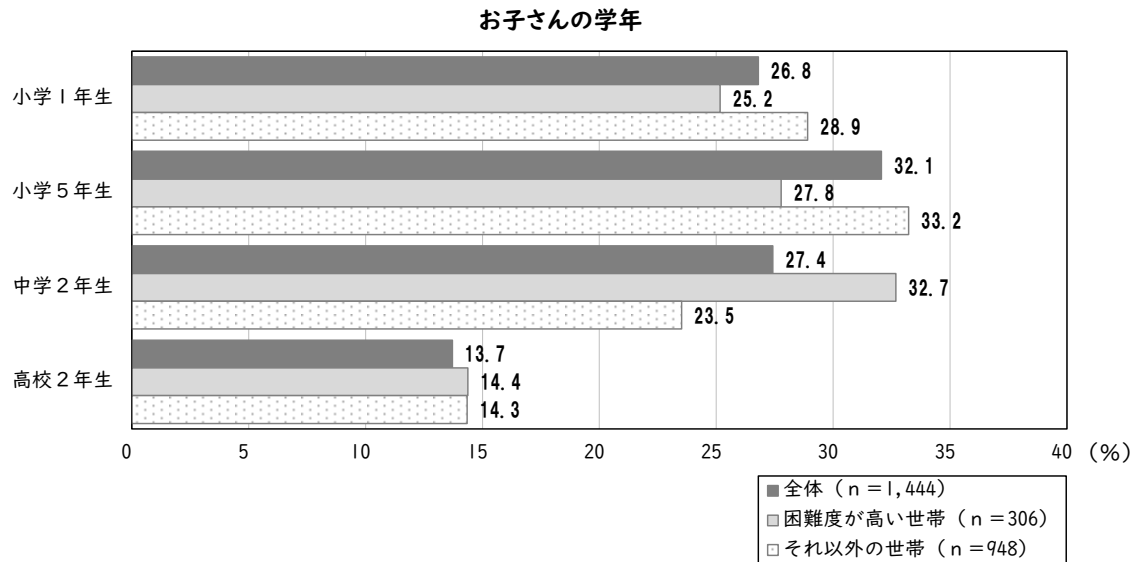
参考：【保護者向け】世帯の年間収入 (SA)

- 世帯の年間収入については、「240～410万円未満」が15.5%で最も高く、次いで「600～750万円未満」が14.4%、「750～1,000万円未満」が14.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、『240万円未満(前回250万円未満)』は、今回は8.4%、前回は12.3%で3.9ポイント減少、「750～1,000万円未満」が5.8ポイント増加、「1,000万円以上」が2.7ポイント増加しており、500万円以上の割合の増加が目立っています。



- 次ページ以降、原則として類型化した“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”別の集計を基本とします。
- 集計結果を示すグラフには、“全体”“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”それぞれが示されており、“全体”には“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”の類型化ができなかった“不明”を含んでいます。

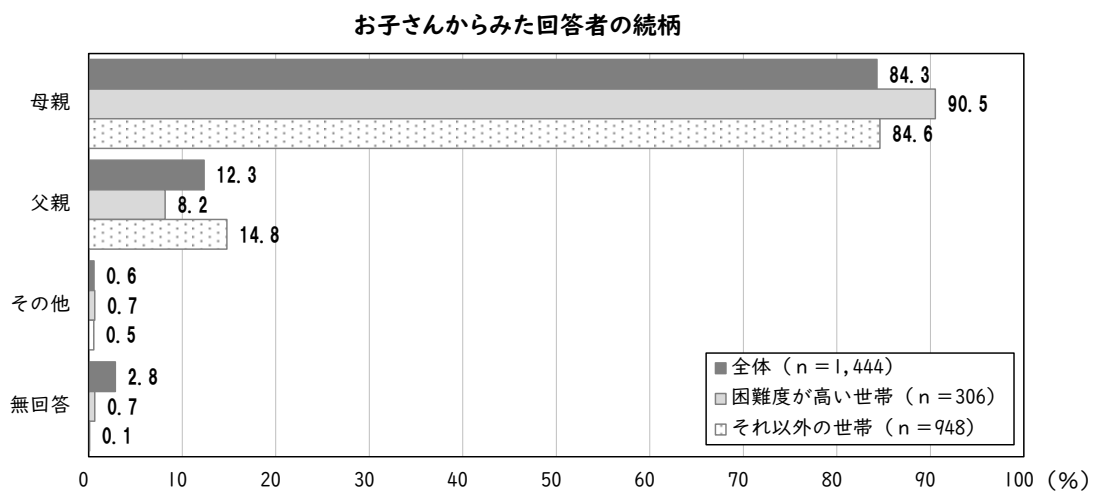
3 保護者向け調査の集計・分析



(1) お子さんからみた回答者の続柄 (SA)

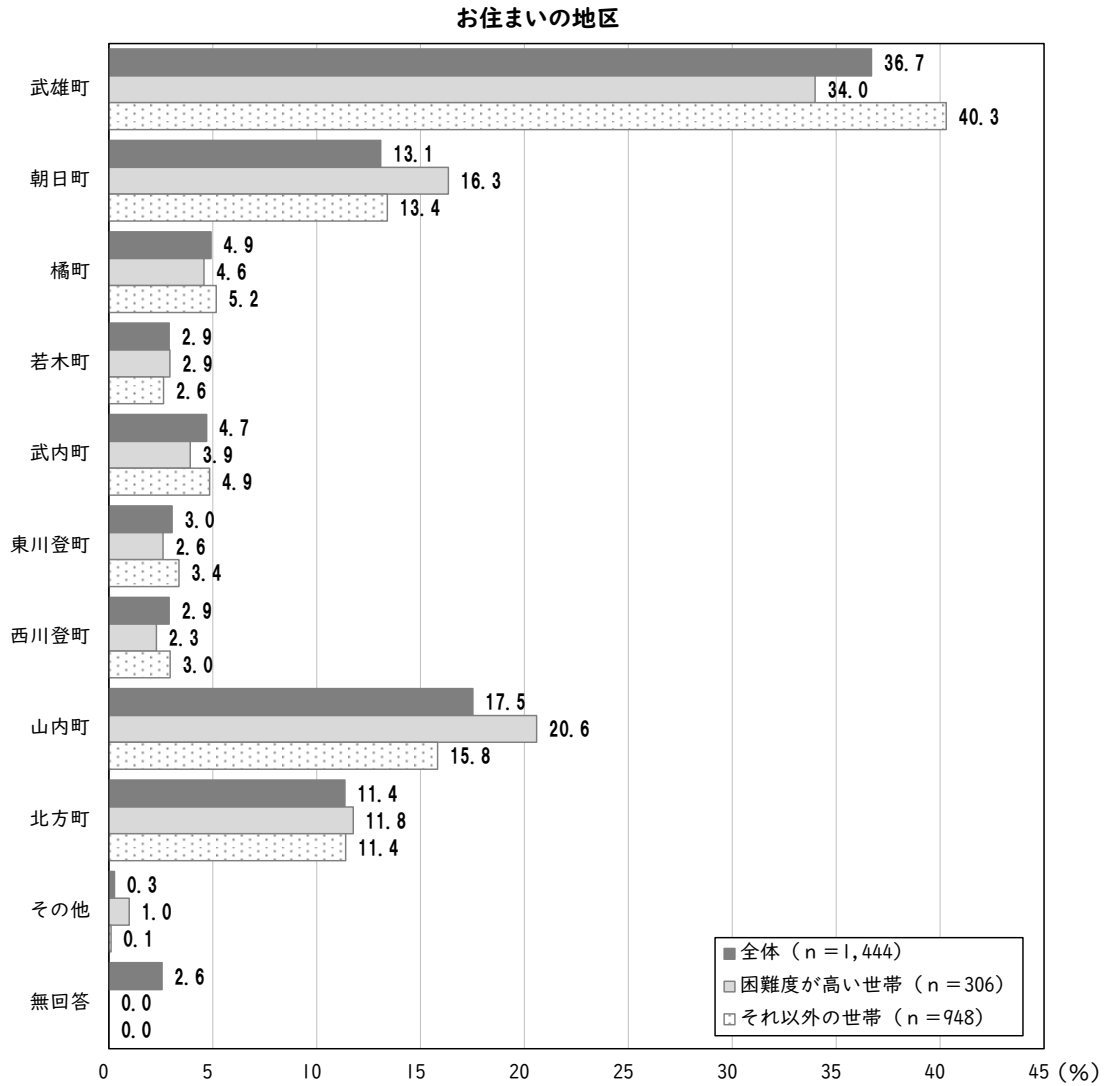
お子さんからみた回答者の続柄については、「母親」が最も多く、「全体」では84.3%、「困難度が高い世帯」では90.5%、「それ以外の世帯」では84.6%となっています。

“困難度が高い世帯”では、“それ以外の世帯”に比べ、回答者の続柄として「母親」がやや多く、「父親」が少なくなっています。



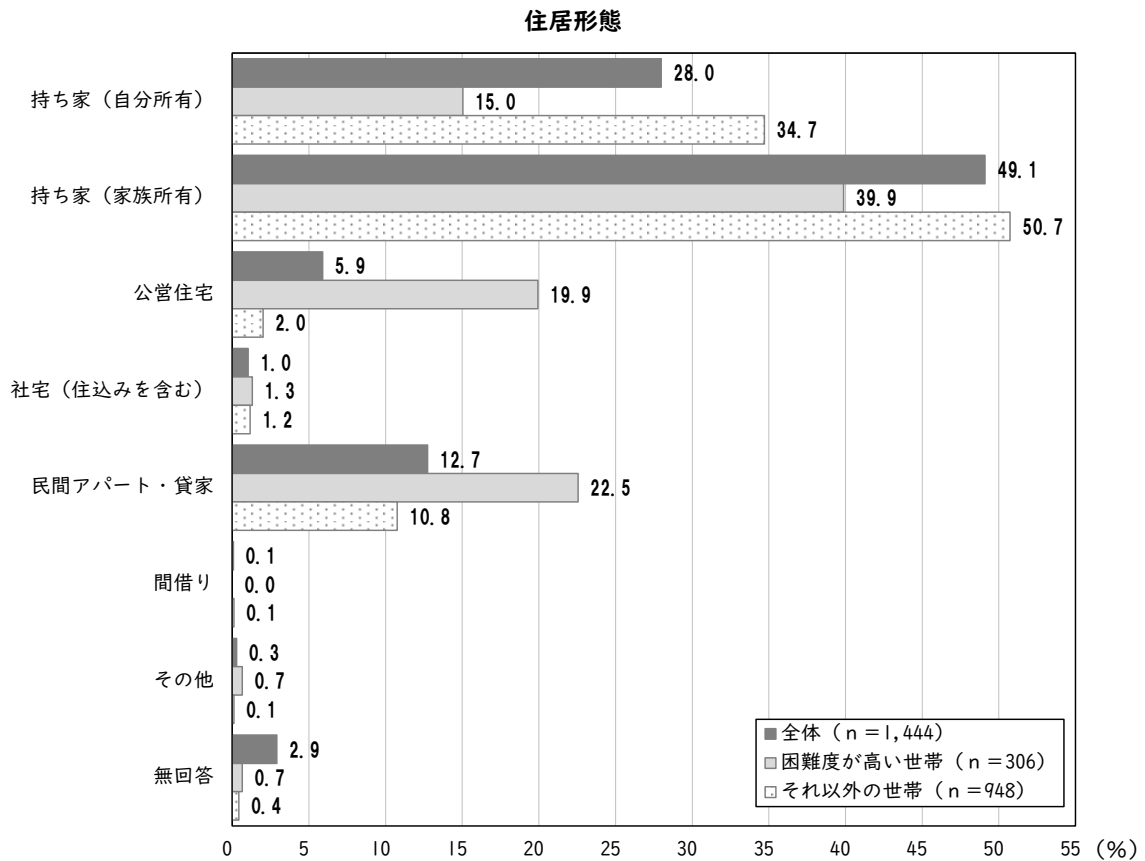
(2) お住まいの地区 (SA)

お住まいの地区については、「武雄町」が最も多く、「全体」では36.7%、「困難度が高い世帯」では34.0%、「それ以外の世帯」では40.3%となっています。



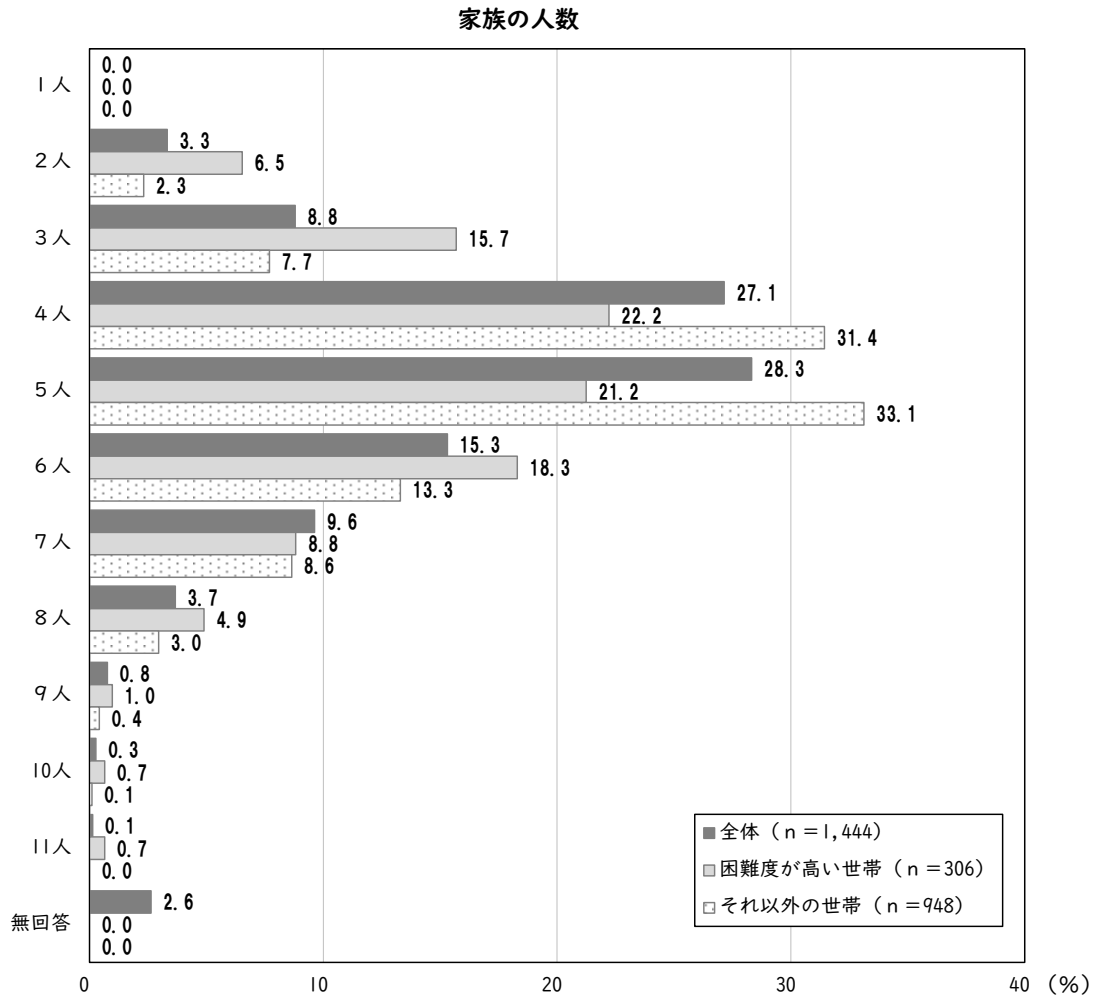
(3) 居住形態 (SA)

居住形態については、「持ち家（家族所有）」が最も多く、“困難度が高い世帯”で39.9%、“それ以外の世帯”では50.7%となっていますが、次いで多いのは“それ以外の世帯”では「持ち家（自分所有）」34.7%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では「民間アパート・貸家」22.5%となっています。



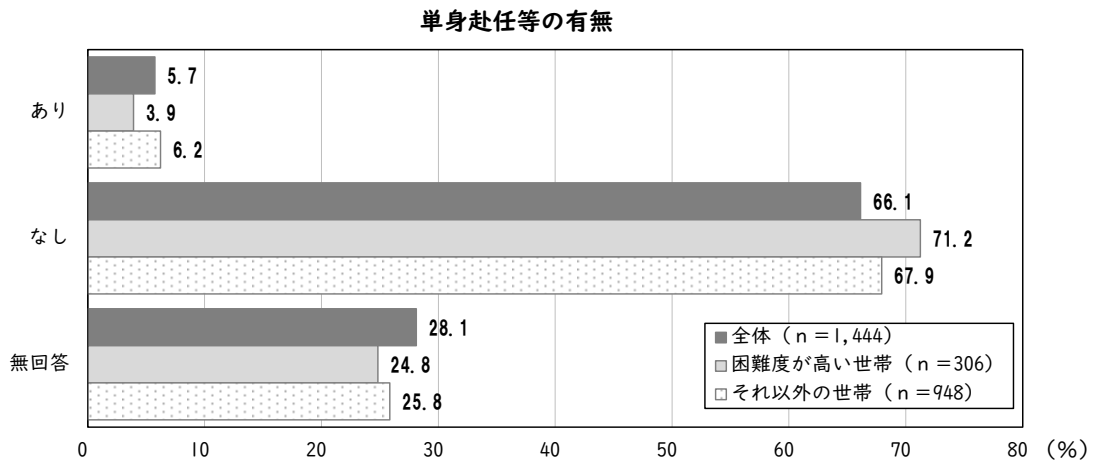
(4) 家族の人数 (NA=数量回答)

家族の人数（回答者本人の他、単身赴任等の別居の親も含む）について、“困難度が高い世帯”では「4人」が最も多く22.2%、“それ以外の世帯”では「5人」が最も多く33.1%となっています。



(5) 単身赴任等の有無 (SA)

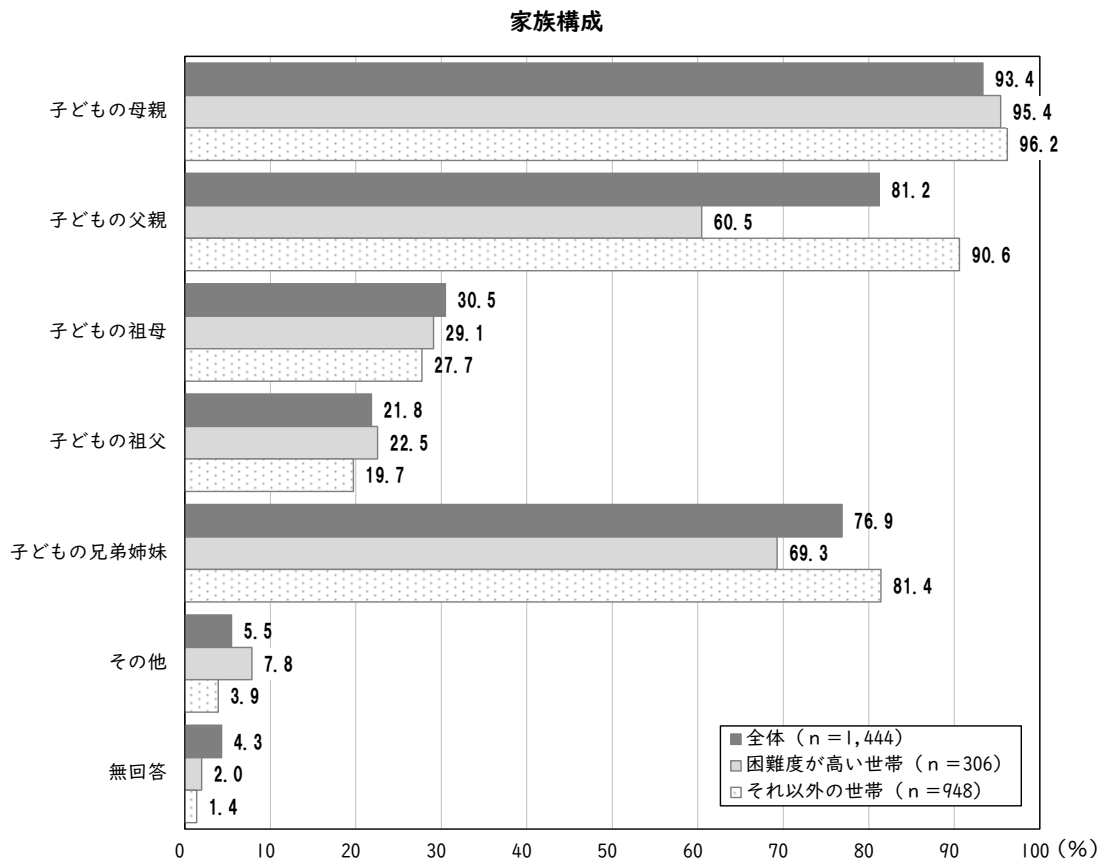
単身赴任等により別居している親の有無について、「あり」は“全体”で5.7%、“困難度が高い世帯”では3.9%、“それ以外の世帯”では6.2%となっています。



(6) 家族構成 (SA)

家族構成についてみると、「子どもの父親」がいる世帯が“それ以外の世帯”では90.6%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では60.5%と大幅に少なくなっています。

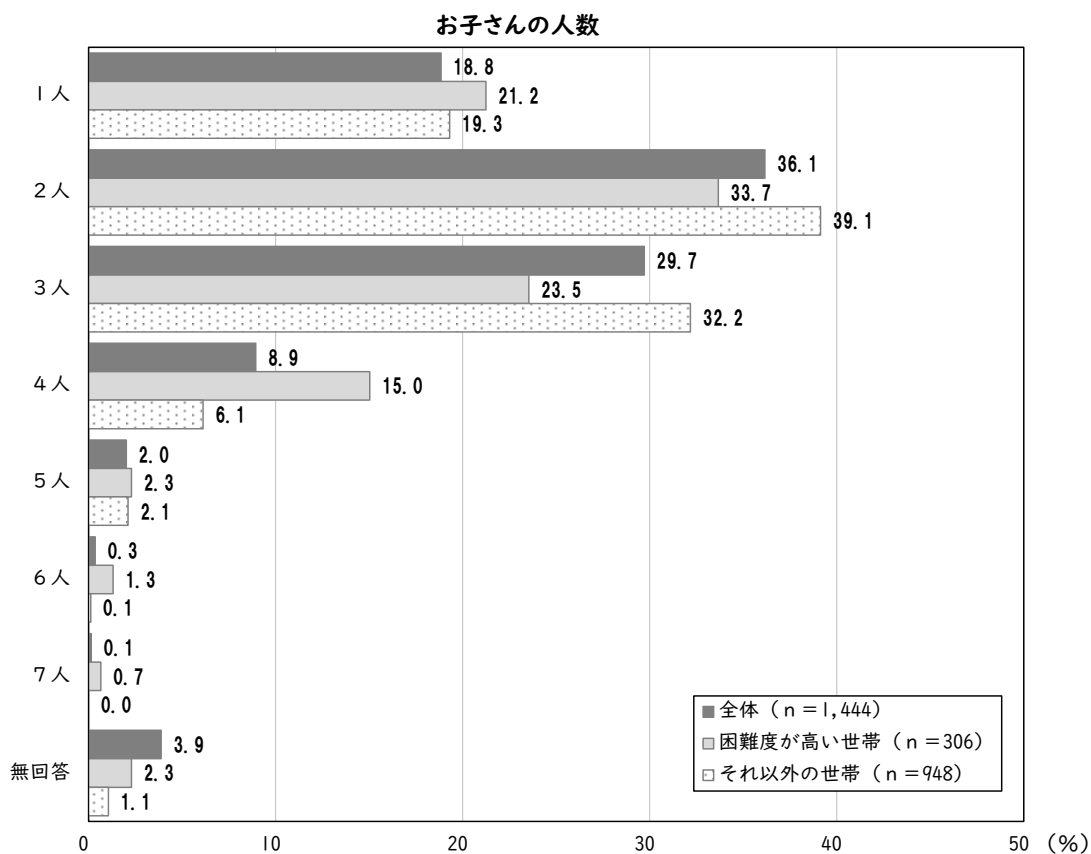
その他、「子どもの兄弟姉妹」がいる世帯が“それ以外の世帯”では81.4%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では69.3%と少なくなっています



(7) お子さんの人数 (NA=数量回答)

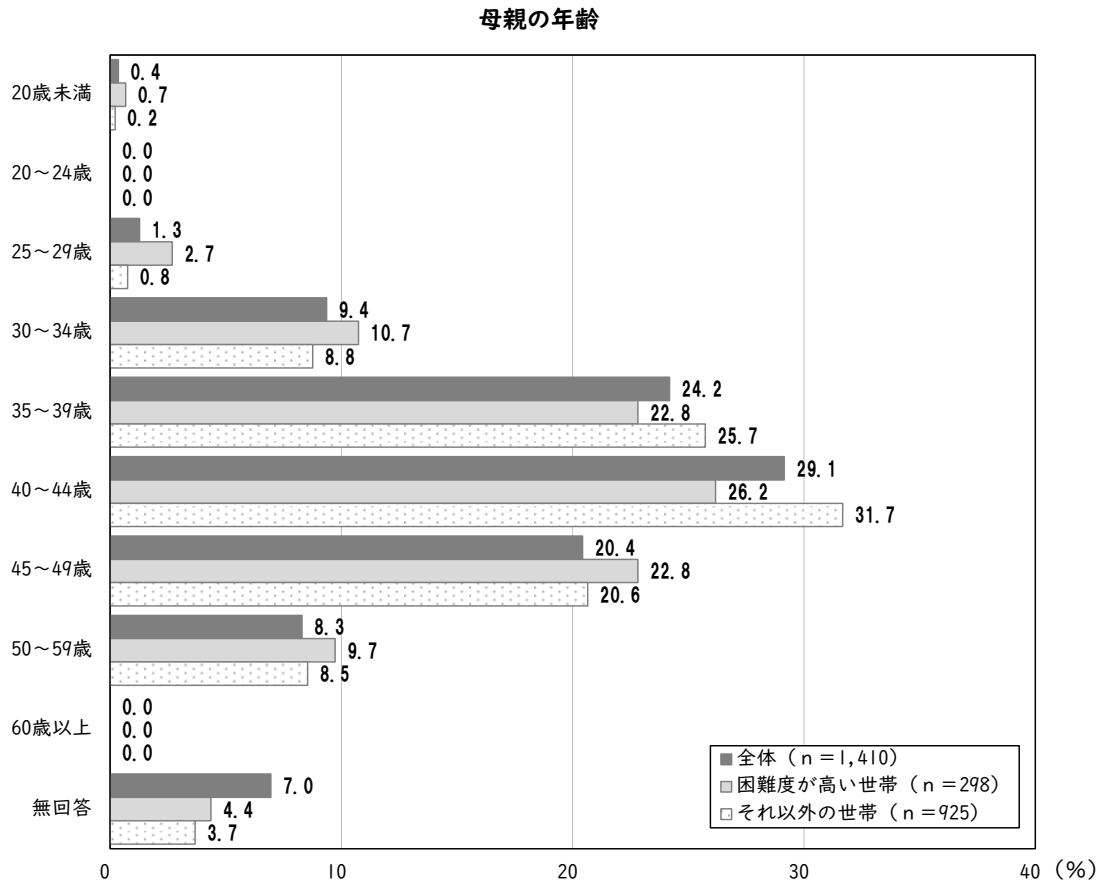
お子さんの人数について、「2人」が最も多く、「困難度が高い世帯」で33.7%、「それ以外の世帯」では39.1%となっています。

回答に基づき、お子さんの平均人数を算出すると「困難度が高い世帯」では2.43人、「それ以外の世帯」では2.30人となります。



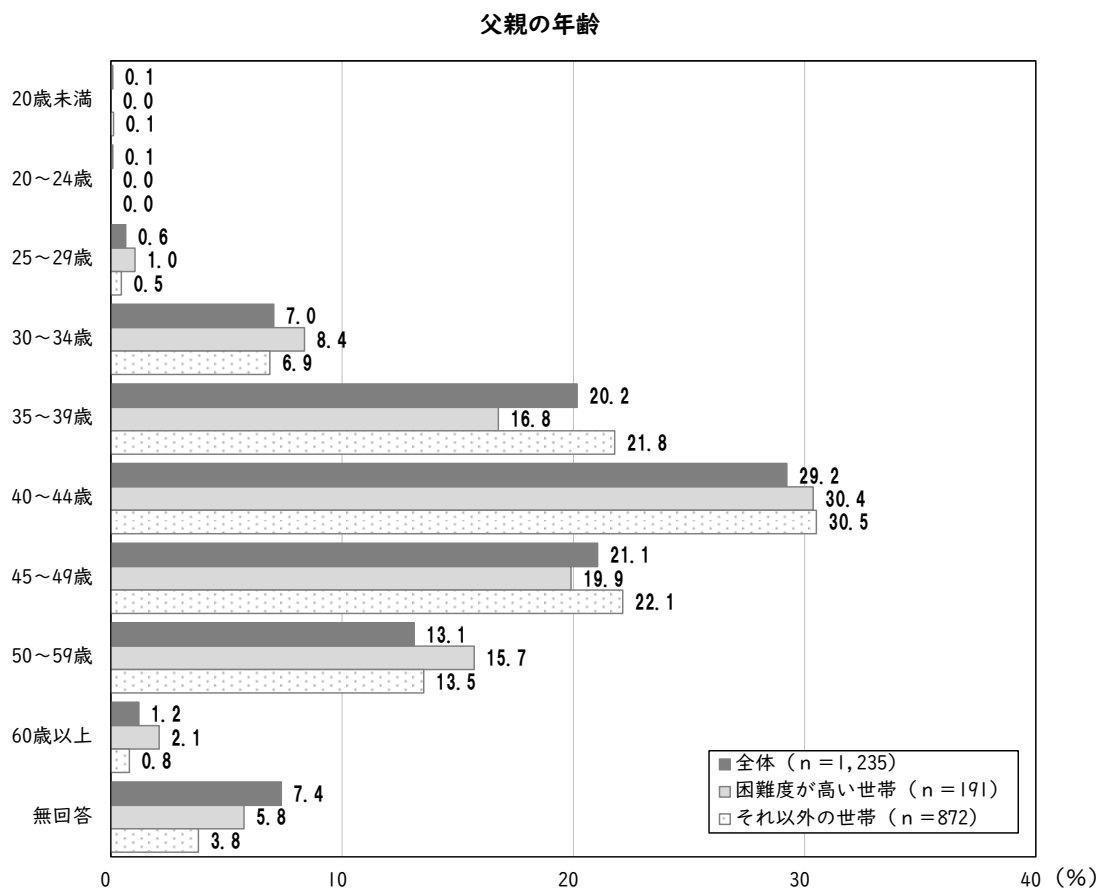
(8) 親の年齢(母親・父親) (SA)

母親の年齢について、「40～44歳」が最も多く、「全体」では29.1%、「困難度が高い世帯」では26.2%、「それ以外の世帯」では31.7%となっています。



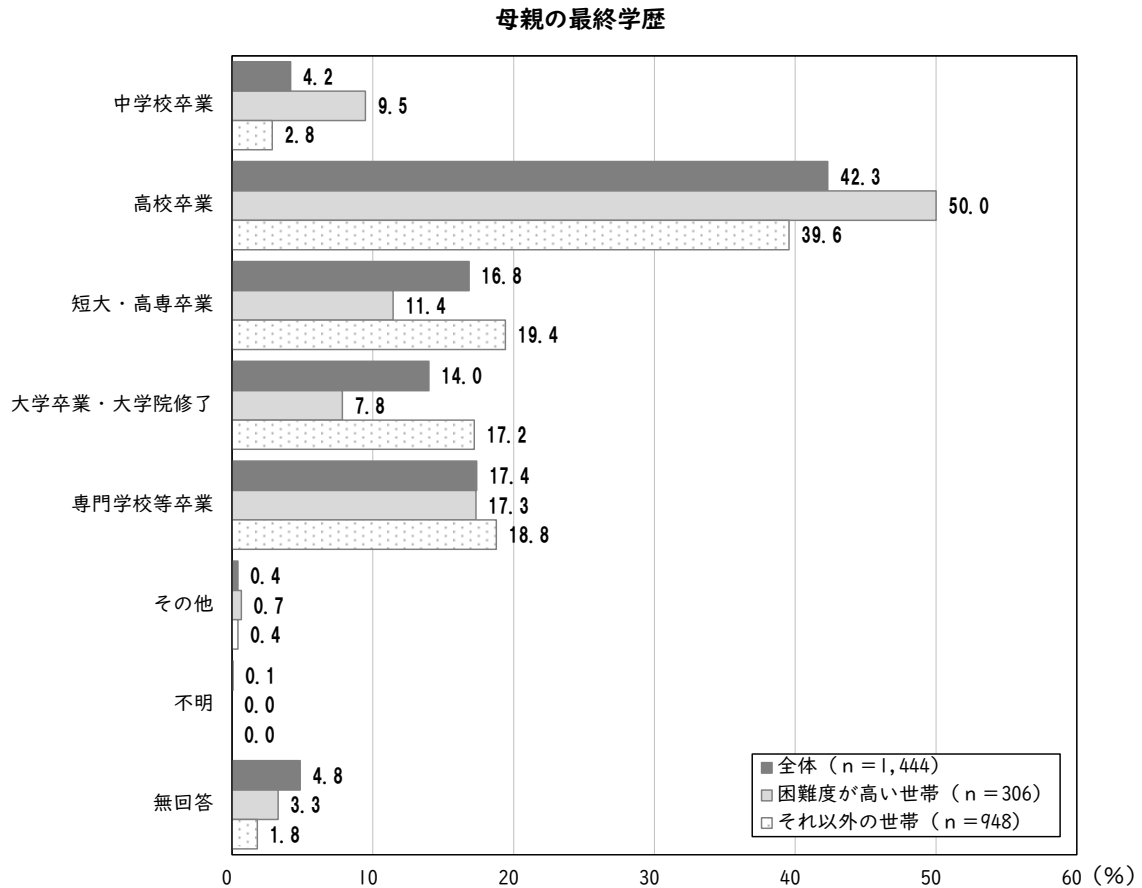
父親の年齢についても、「40～44歳」が最も多く、“全体”では29.2%、“困難度が高い世帯”では30.4%、“それ以外の世帯”では30.5%となっています。

“困難度が高い世帯”の『50歳代以上』（「50～59歳」、「60歳以上」の合計）についてみると、母親9.7%に比べ、父親は17.8%と多くなっています。



(9) 親の最終学歴(母親・父親) (SA)

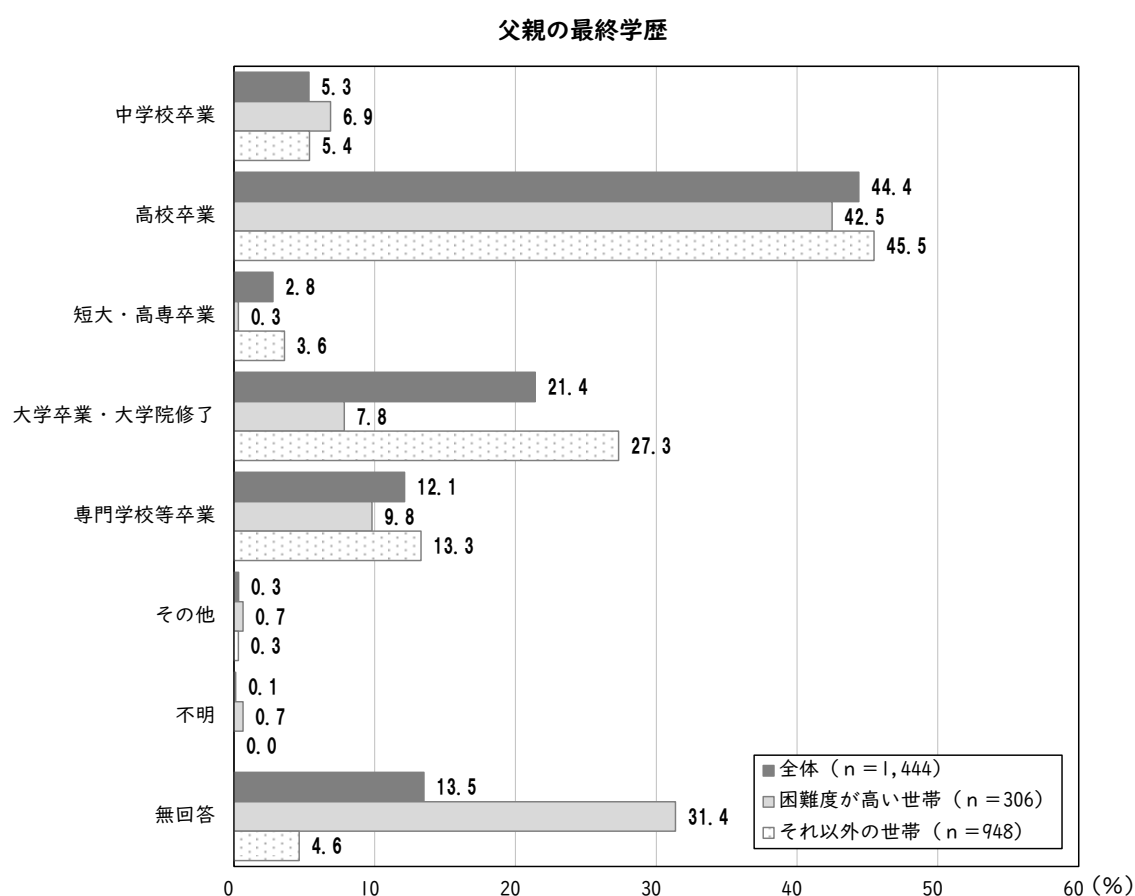
母親の最終学歴について、「高校卒業」が“それ以外の世帯”では39.6%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では50.0%と多く、一方、『短大以上卒業』（「短大・高専卒業」、「大学卒業・大学院卒業」の合計）は“それ以外の世帯”では36.6%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では19.2%と少なくなっています。



父親の最終学歴について、“困難度が高い世帯”では「無回答」が31.4%と多くなっています。

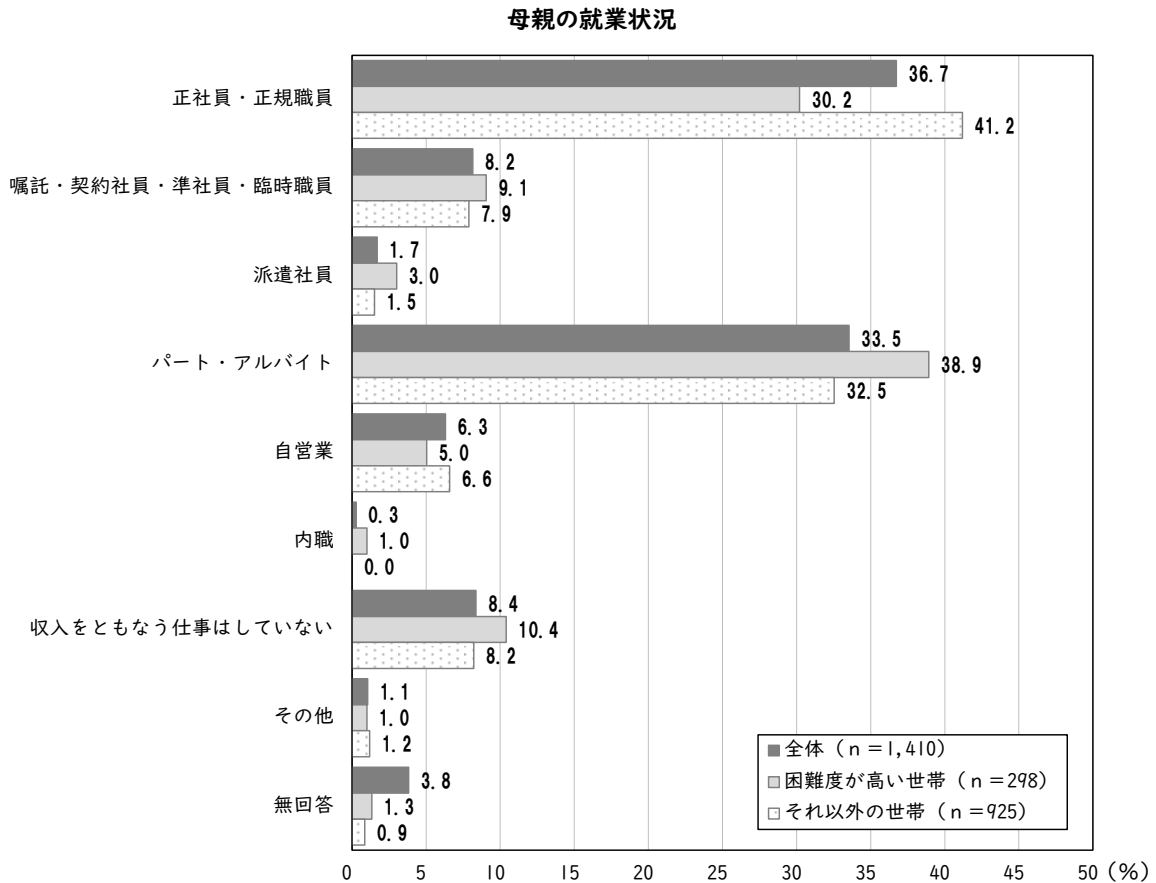
これは、本設問については母親・父親それぞれの有無に関わらずわかる範囲でその最終学歴を回答いただくこととしていたため、父親のいない世帯でその最終学歴がわからない場合など、「無回答」となっているためと考えられます。

したがって、「高校卒業」について“それ以外の世帯”の45.5%に対し、“困難度が高い世帯”では42.5%と少なく、一方、『短大以上卒業』は“それ以外の世帯”の30.9%に対し、“困難度が高い世帯”では8.1%と少なくなっていますが、“困難度が高い世帯”の「無回答」31.4%を除く残りの68.6%を全体として捉えてみると、例えば「高校卒業」の42.5%は全体の過半数を占めていることになります。



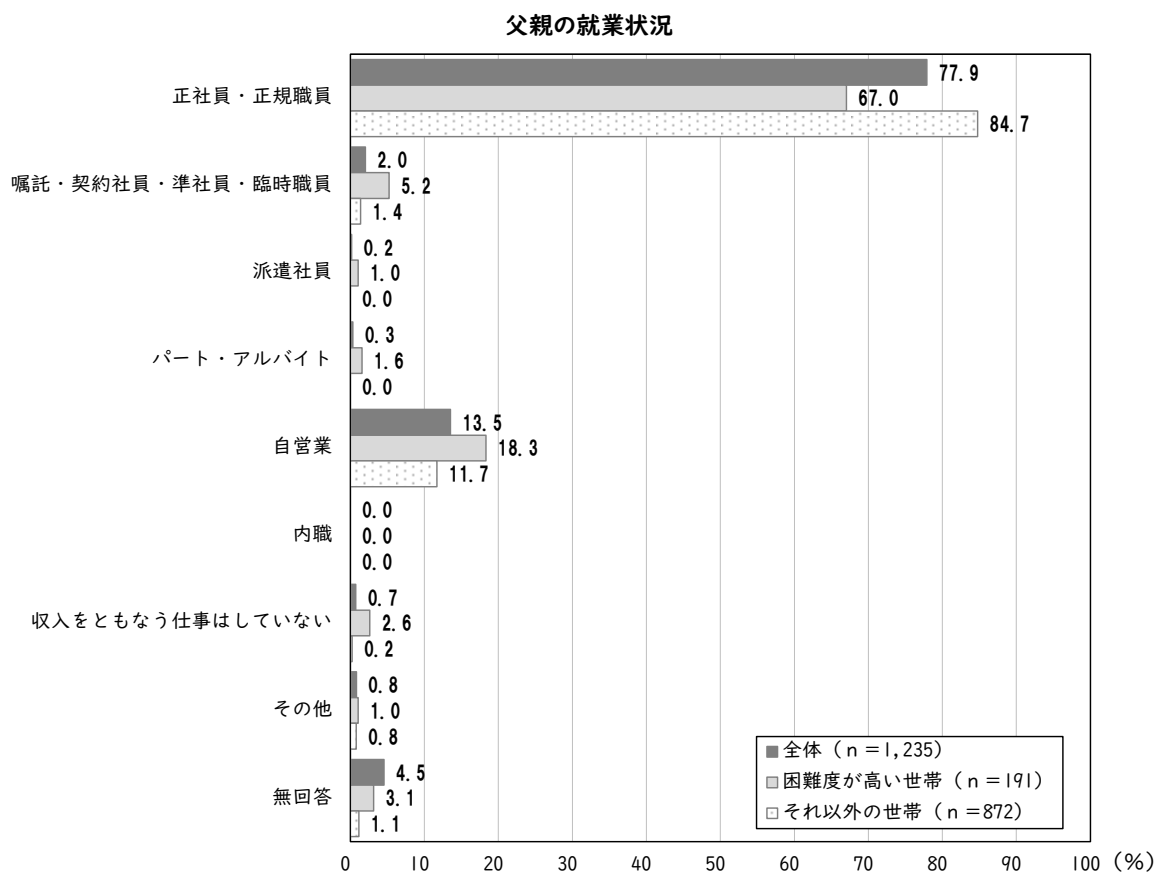
(10) 親の就業状況(母親・父親)(SA)

母親の就業状況については、“それ以外の世帯”では「正社員・正規職員」が41.2%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」32.5%となっていますが、“困難度が高い世帯”では「パート・アルバイト」が38.9で最も多く、次いで「正社員・正規職員」30.2%となっています。



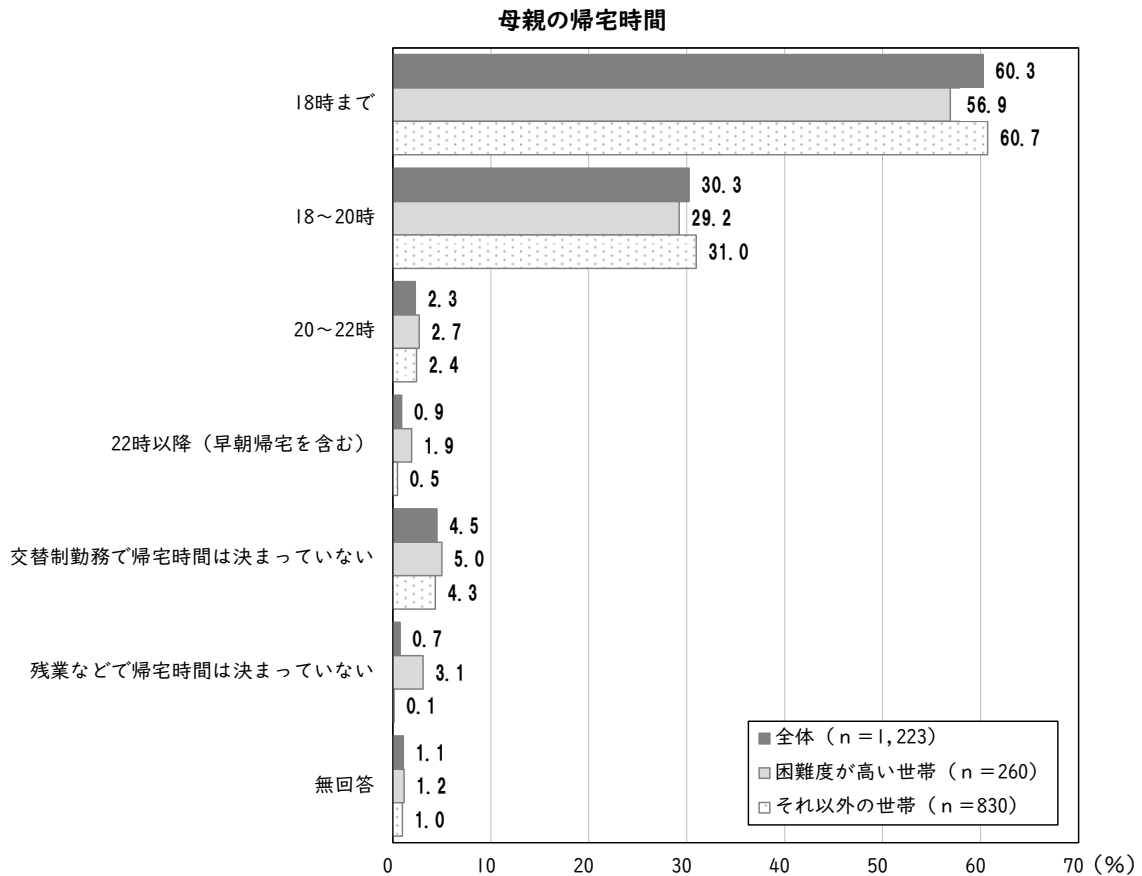
父親の就業状況については、「正社員・正規職員」が最も多く、「困難度が高い世帯」で67.0%、「それ以外の世帯」では84.7%となっています。

“困難度が高い世帯”では「正社員・正規職員」が“それ以外の世帯”に比べ少ない分、「嘱託・契約社員・準社員・臨時職員」5.2%や「自営業」18.3%などがやや多くなっています。

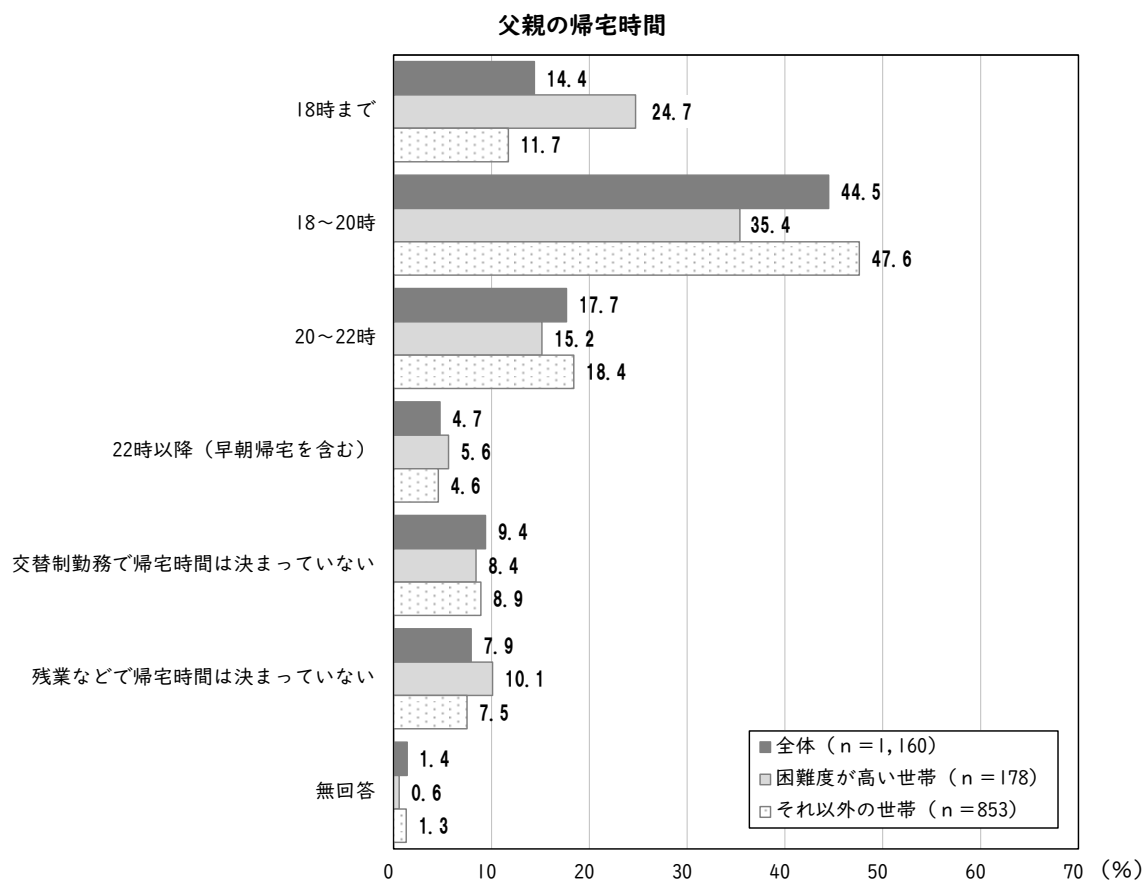


(11) 親の帰宅時間(母親・父親)(SA)

母親の帰宅時間について、「18時まで」が最も多く、「困難度が高い世帯」で56.9%、「それ以外の世帯」では、60.7%とどちらも過半数を占めています。また、「22時以降(早朝帰宅を含む)」が「それ以外の世帯」では0.5%であるのに対し、「困難度が高い世帯」では1.9%とやや多くなっています。

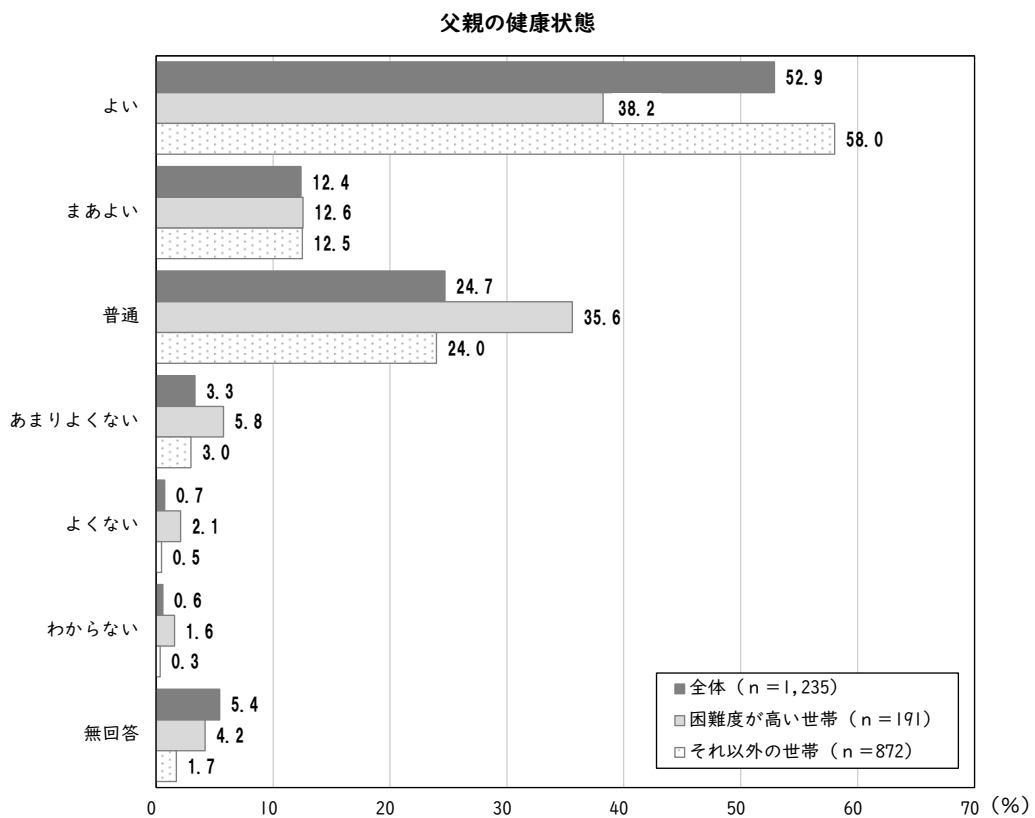
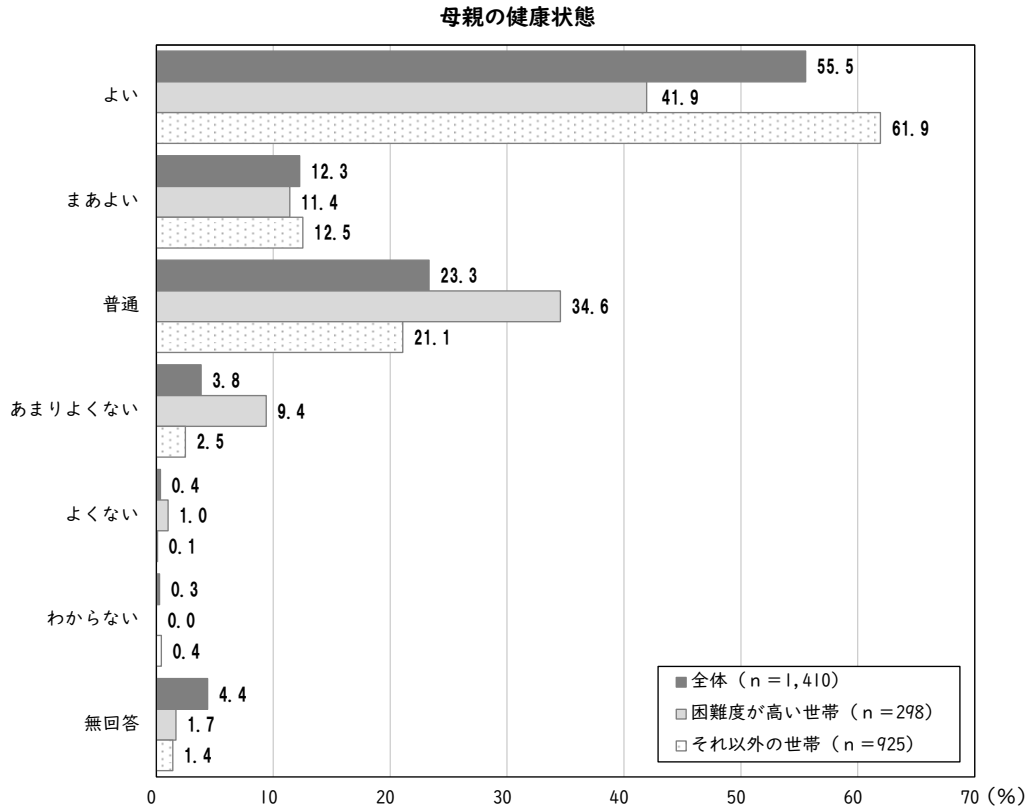


父親の帰宅時間については、“困難度が高い世帯”・“それ以外の世帯”ともに「18～20時」が最も多くなっていますが、“それ以外の世帯”の47.6%に対し“困難度が高い世帯”では35.4%と少ない分、「18時まで」が“それ以外の世帯”の11.7%に対し“困難度が高い世帯”では24.7%と多くなっています。



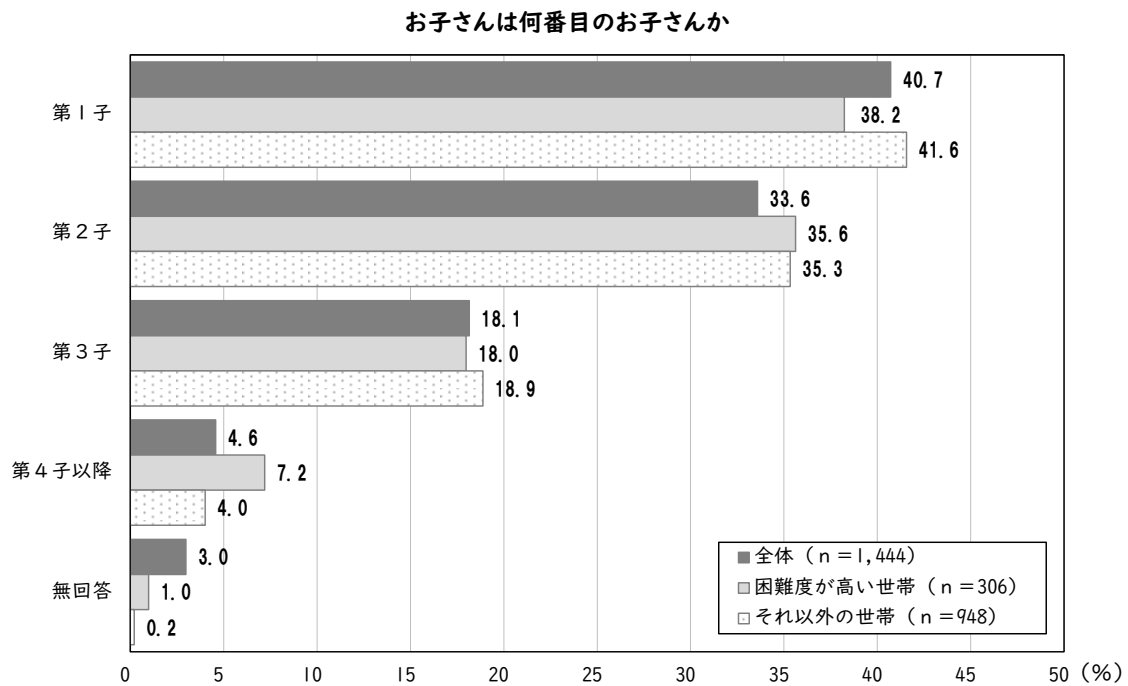
(12) 親の健康状態(母親・父親) (SA)

健康状態について、母親・父親ともに“それ以外の世帯”に比べ“困難度が高い世帯”では「よい」が少なく、「あまりよくない」・「よくない」が多くなっています。



(13) 何番目のお子さんか (SA)

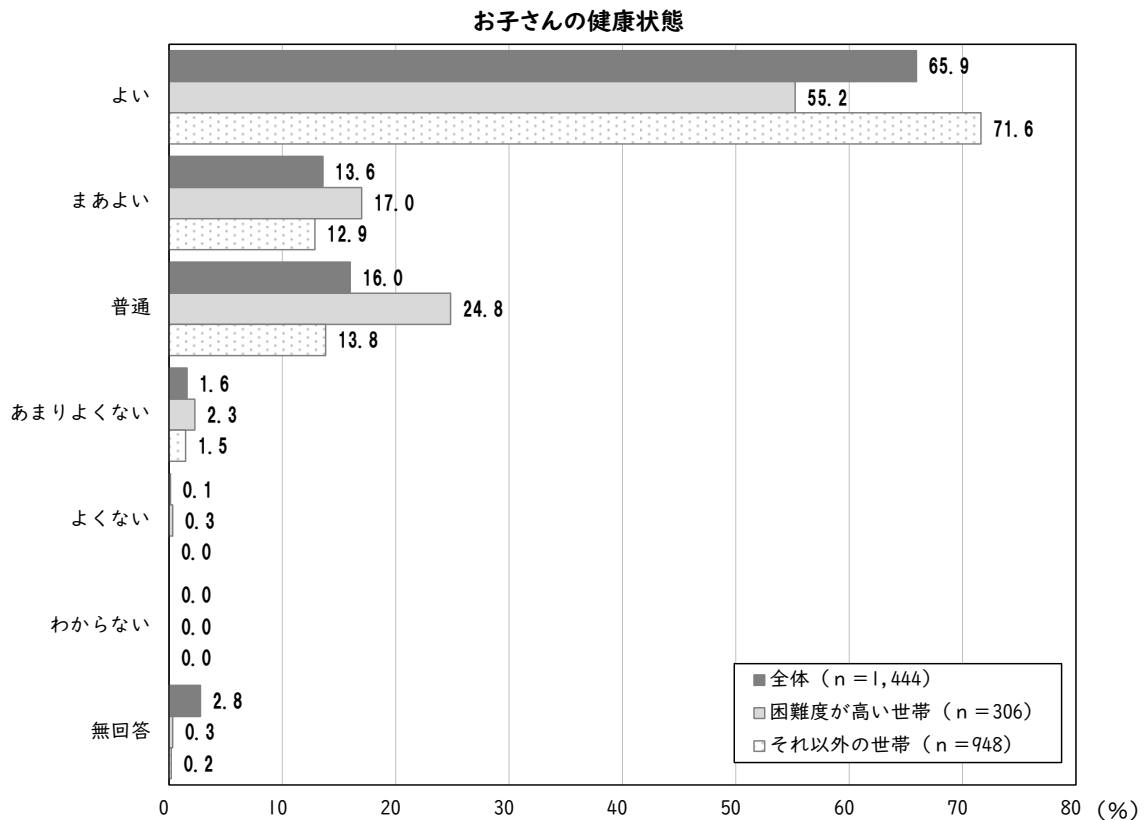
(調査対象の) お子さんは第何子かについて、「第1子」が最も多く、“困難度が高い世帯”で38.2%、“それ以外の世帯”では41.6%となっています。次いで「第2子」、「第3子」となっています。



(14) お子さんの健康状態 (SA)

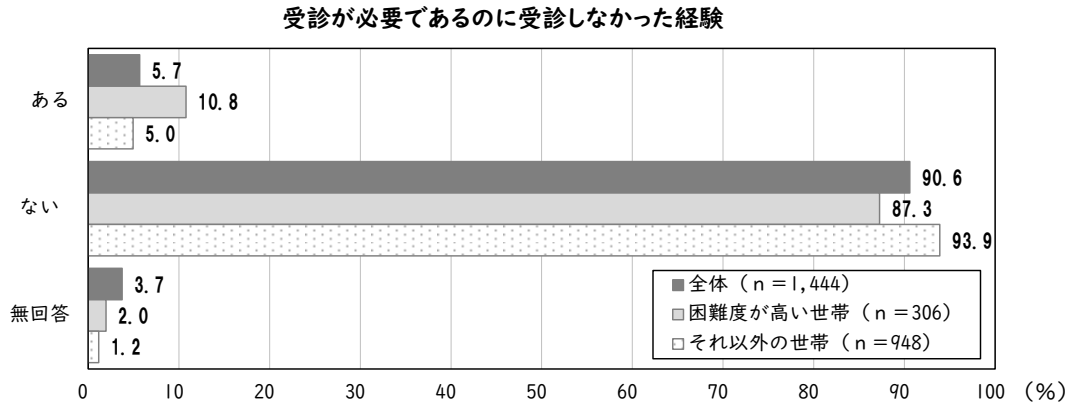
お子さんの健康状態について、“困難度が高い世帯”・“それ以外の世帯”ともに「よい」が最も多くなっていますが、“それ以外の世帯”では71.6%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では55.2%と低い状況です。

その分、“困難度が高い世帯”では「まあよい」・「普通」が“それ以外の世帯”に比べ多くなっています。



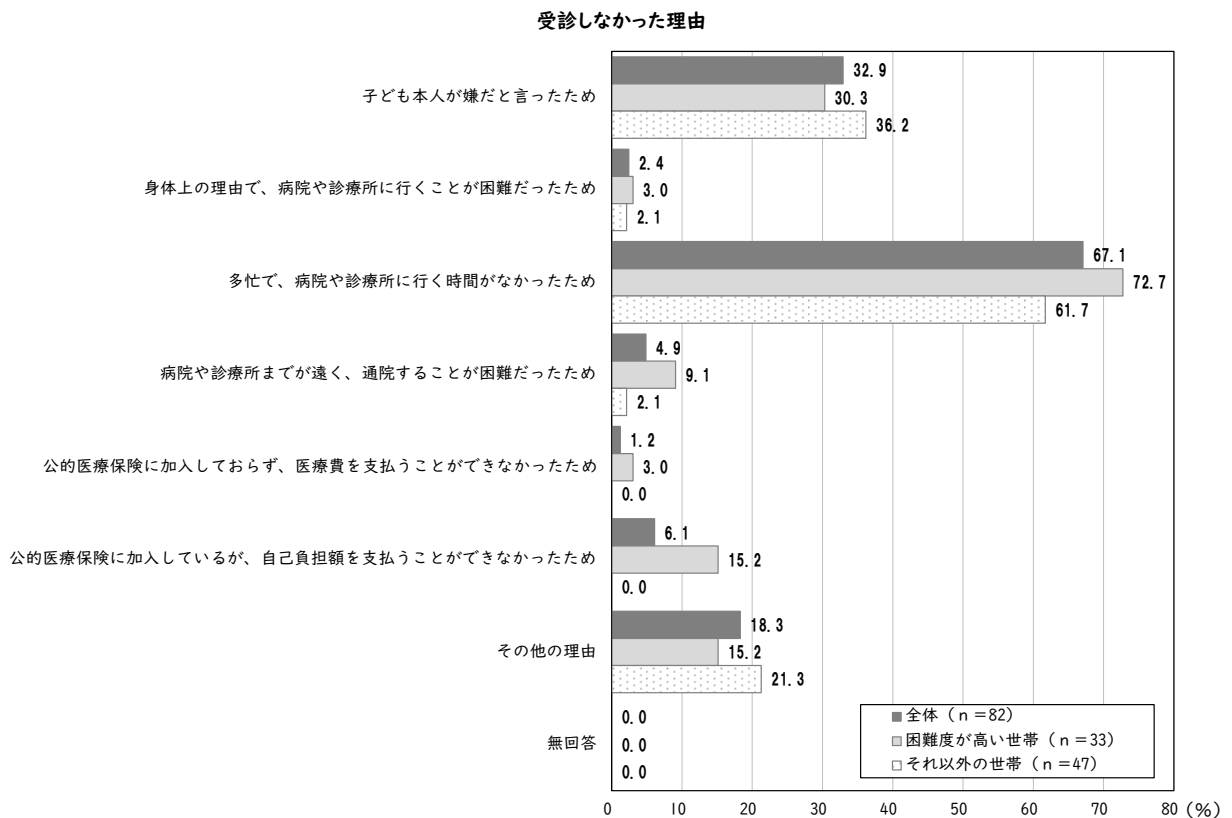
(15) 受診が必要であるのに受診しなかった経験 (SA) とその理由 (MA)

お子さんに受診が必要であるのに受診しなかった経験について、「ある」が“それ以外の世帯”の5.0%に対し、“困難度が高い世帯”では10.8%と、約2倍になっています。



受診しなかった理由としては、「多忙で、病院や診療所に行く時間がなかったため」が最も多く、“困難度が高い世帯”で72.7%、“それ以外の世帯”では61.7%となっています。

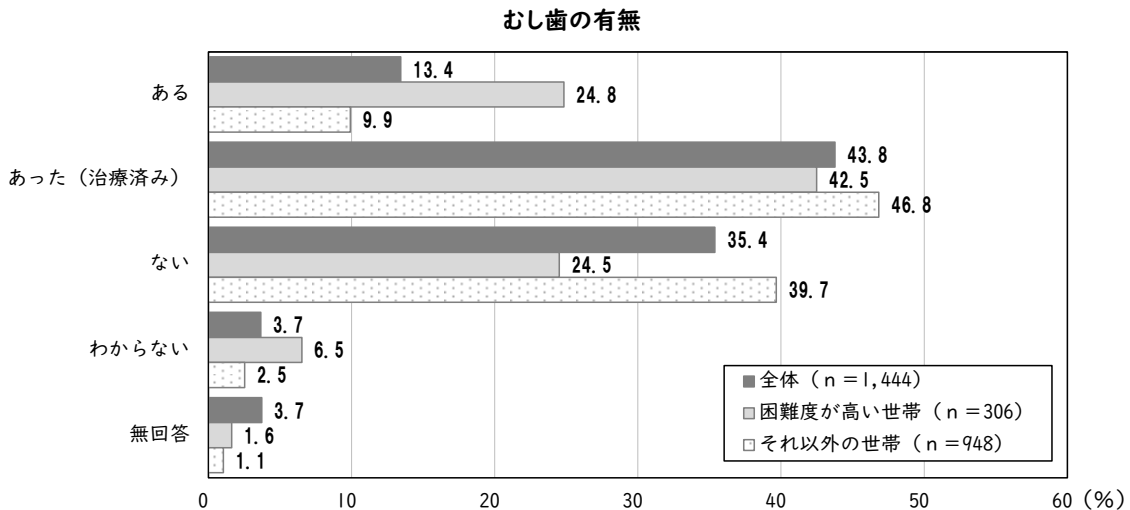
“困難度が高い世帯”では「公的医療保険に加入しているが、自己負担額を支払うことができなかったため」15.2%が“それ以外の世帯”0.0%と比べ多くなっています。



(16) むし歯の有無(SA)とその治療中の有無(SA)

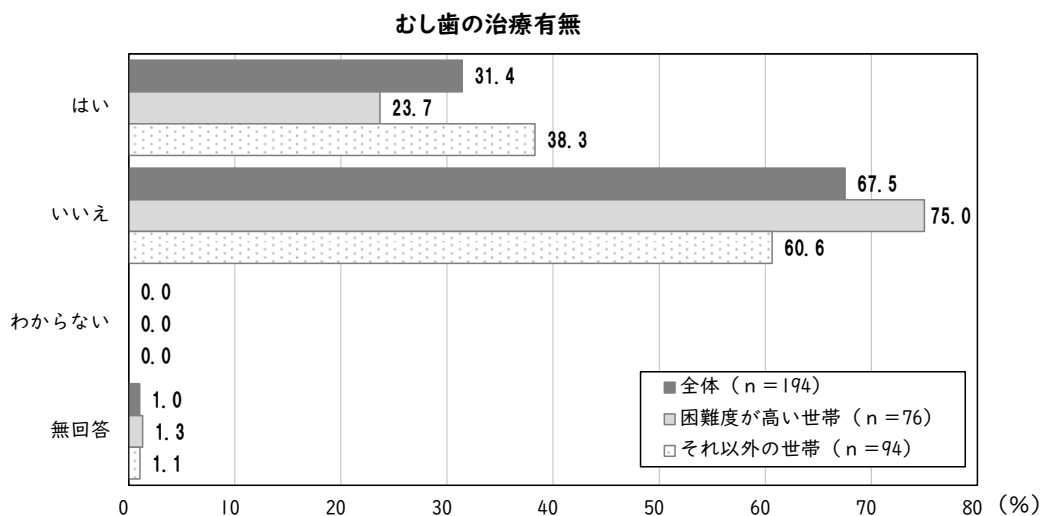
お子さんのむし歯の有無について、「あった(治療済み)」が最も多く、「困難度が高い世帯」で42.5%、「それ以外の世帯」では46.8%となっています。

次いで多いのは、「困難度が高い世帯」では「ある」24.8%、「それ以外の世帯」では「ない」39.7%となっています。



むし歯が「ある」お子さんの治療中の有無については、「いいえ」が最も多く、「困難度が高い世帯」で75.0%、「それ以外の世帯」では60.6%となっています。

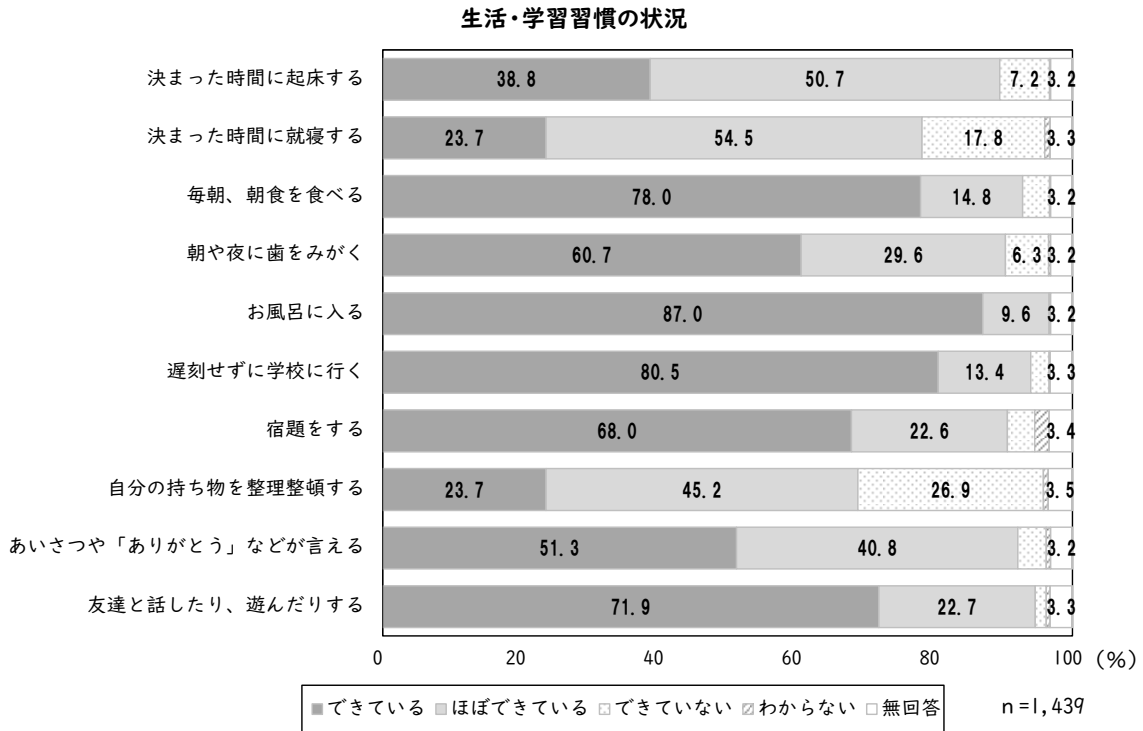
また、「それ以外の世帯」では「はい」が38.3%であるのに対し、「困難度が高い世帯」では23.7%と少なくなっています。



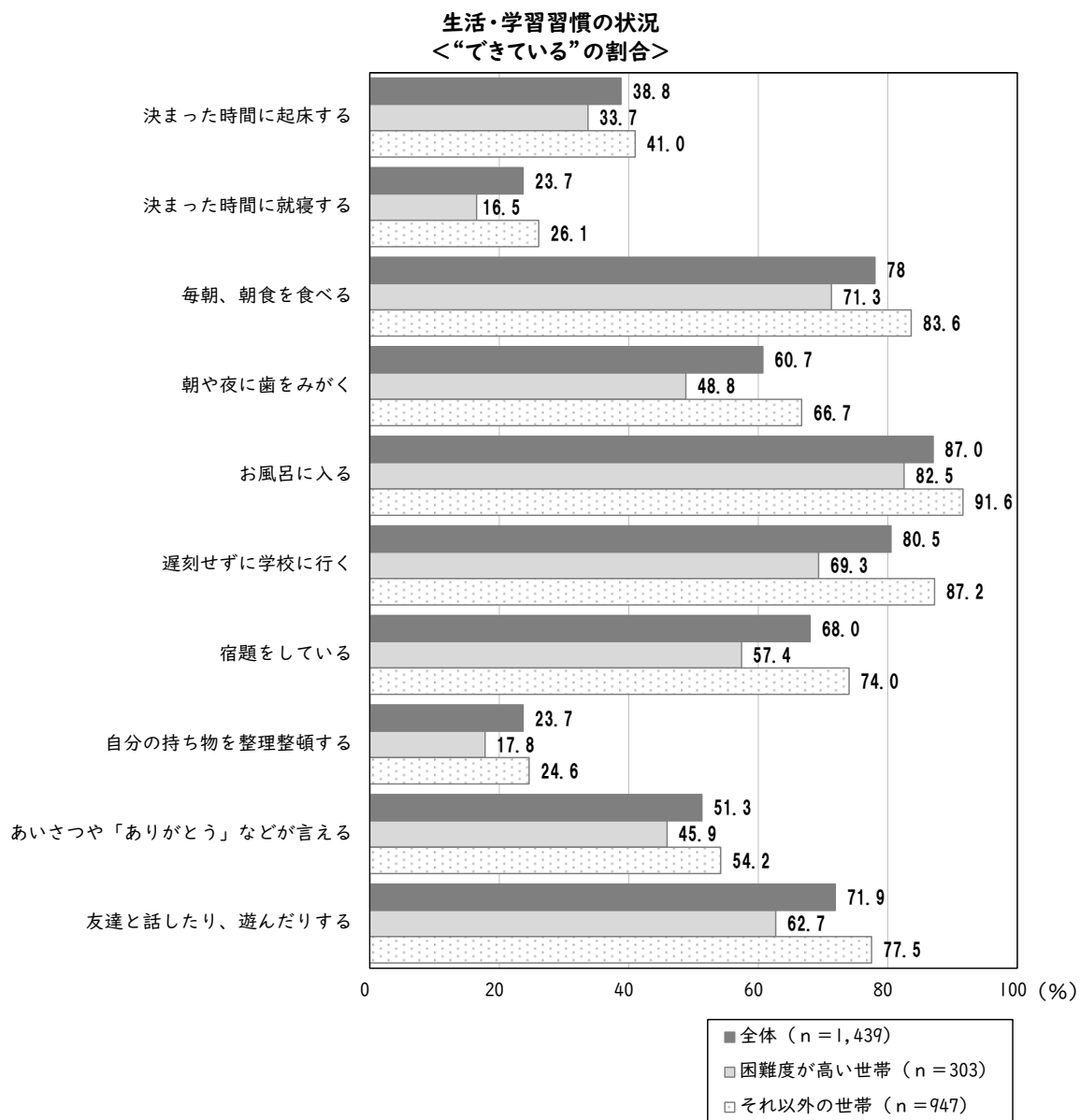
(17) 【小1・小5・中2・高2の保護者】生活・学習習慣の状況 (SA)

生活・学習習慣の状況についてみると、「できている」が多いのは“お風呂に入る” 87.0%、“遅刻せずに学校へ行く” 80.5%，“毎朝、朝食を食べる” 78.0%などで、これらを含め 10 項目中の 7 項目で「できている」が 50%以上となっています。

「できている」が 50%未満の項目は、“決まった時間に就寝する” 23.7%、“自分の持ち物を整理整頓する” 23.7%、“決まった時間に起床する” 38.8%の 3 項目となっています。

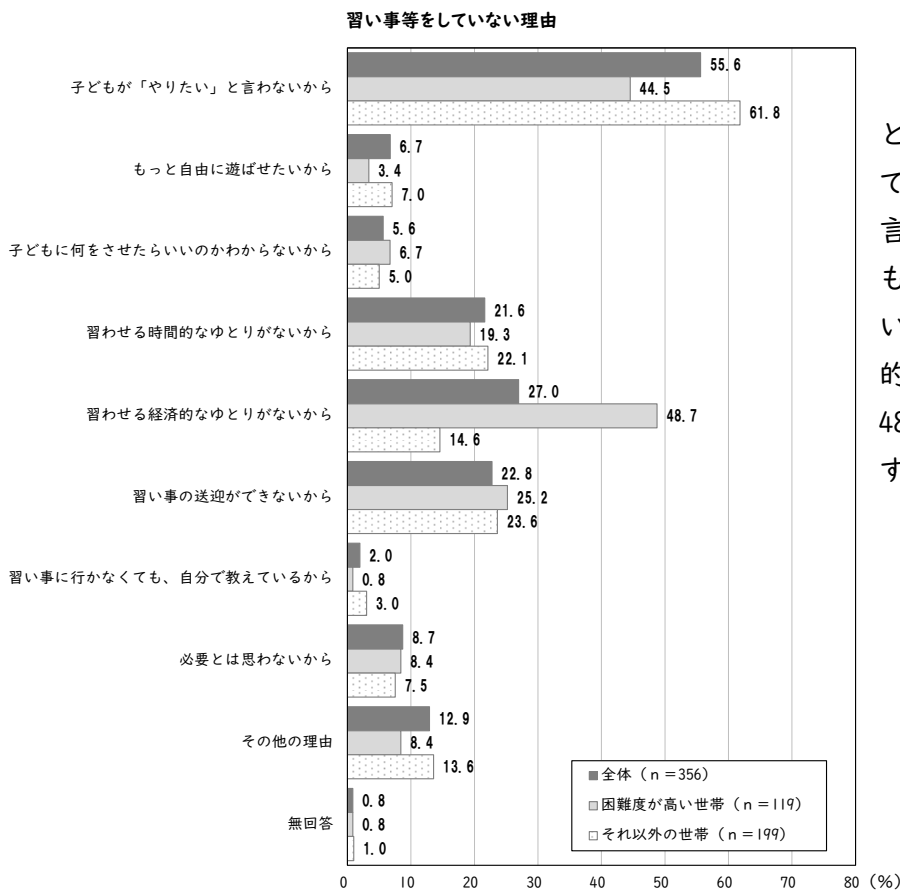
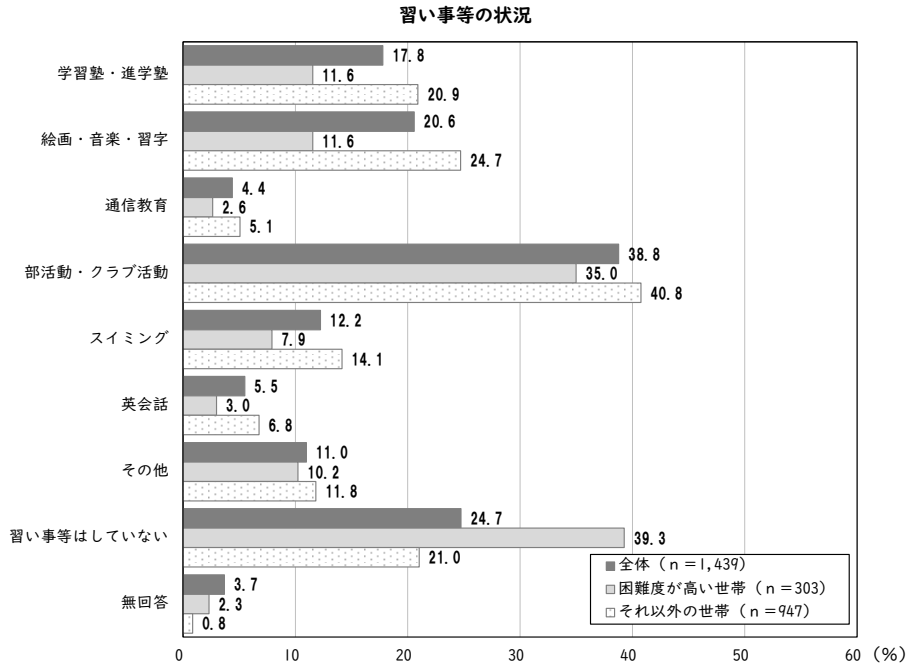


“朝や夜に歯をみがく”が“それ以外の世帯”では66.7%「できている」のに対し、“困難度が高い世帯”では48.8%と少ないのを始め、すべての項目で“困難度が高い世帯”の方が「できている」割合が少なくなっています。



(18)【小1・小5・中2・高2の保護者】習い事等の状況(SA)と習い事をしていない理由(MA)

習い事の等の状況について、“困難度が高い世帯”では「習い事等はしていない」が39.3%で最も多く、“それ以外の世帯”では「部活動・クラブ活動」40.8%となっています。

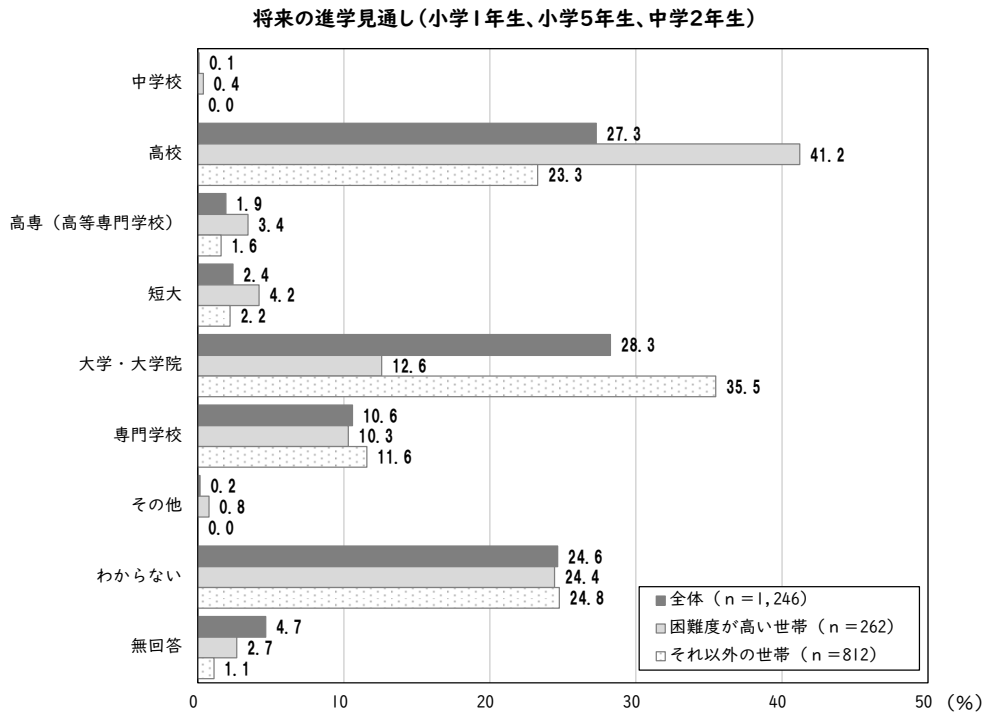


習い事をしていない理由としては、“それ以外の世帯”では『子供が「やりたい」と言わないから』が61.8%と最も多いのに対し、“困難度が高い世帯”では「習わせる経済的なゆとりがないから」が48.7%で最も多くなっています。

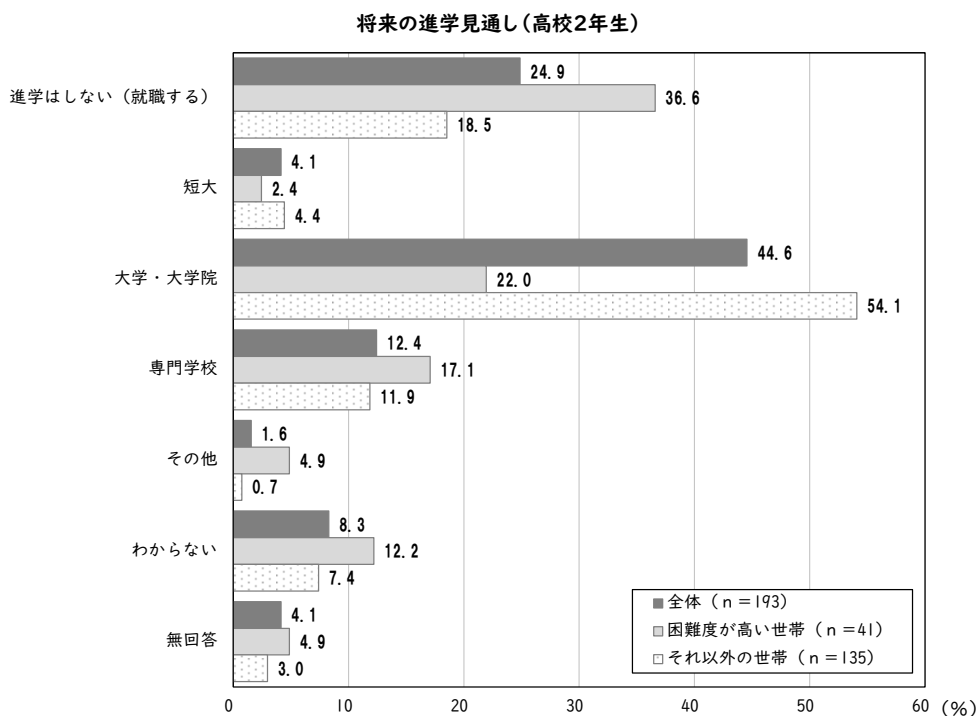
(19)【小1・中2・高2の保護者】将来の進学見通し(SA)とその理由(SA)

小学1年生・小学5年生・中学2年生のお子さんの将来の進学見通しについて、“それ以外の世帯”では「大学・大学院」が35.5%で最も多いのに対し、“困難度が高い世帯”では「高校」が最も多く41.2%となっています。

また、“困難度が高い世帯”・“それ以外の世帯”ともに「わからない」が約25%となっています。

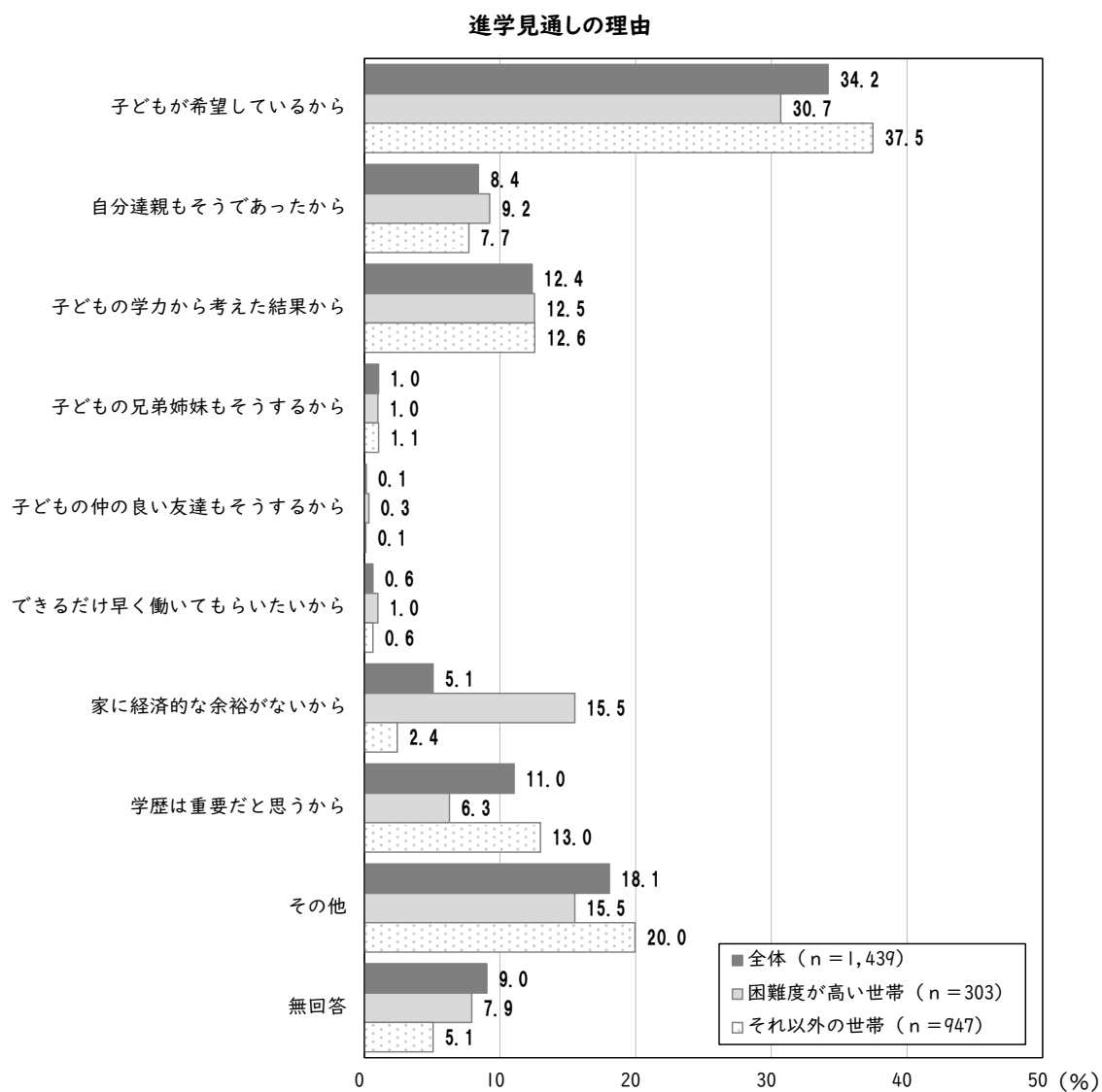


高校2年生のお子さんの将来の進学見通しは、“それ以外の世帯”では「大学・大学院」が54.1%で最も多いのに対し、“困難度が高い世帯”では「進学はしない(就職する)」が最も多く36.6%となっています。



進学見通しの理由をみると、「子どもが希望しているから」が最も多く、“困難度が高い世帯”で30.7%、“それ以外の世帯”で37.5%となっています。

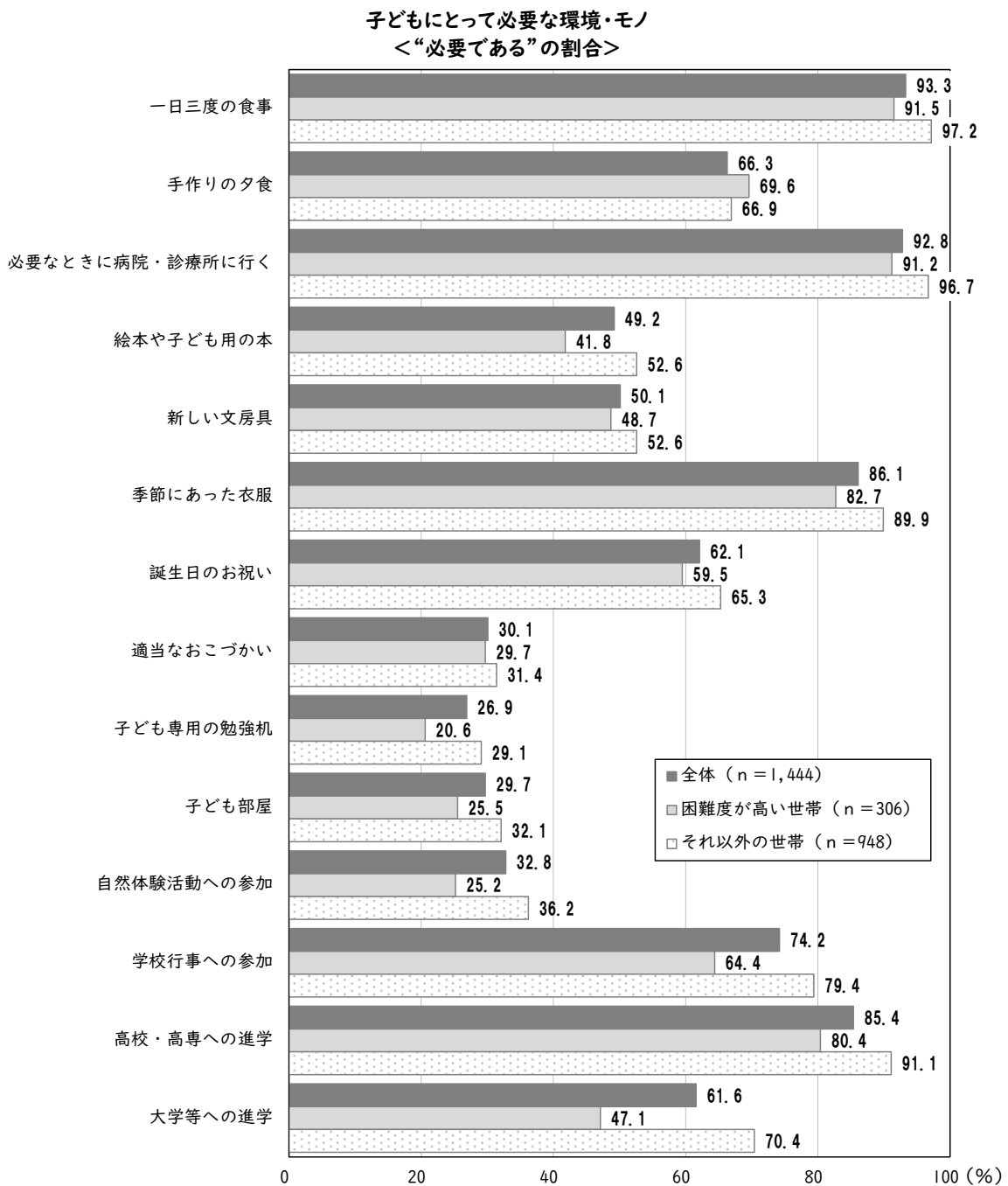
“困難度が高い世帯”では、「家に経済的な余裕がないから」15.5%が“それ以外の世帯”2.4%と比べて、13ポイント以上多くなっています。



(20) 子どもにとって必要な環境・モノ(SA)

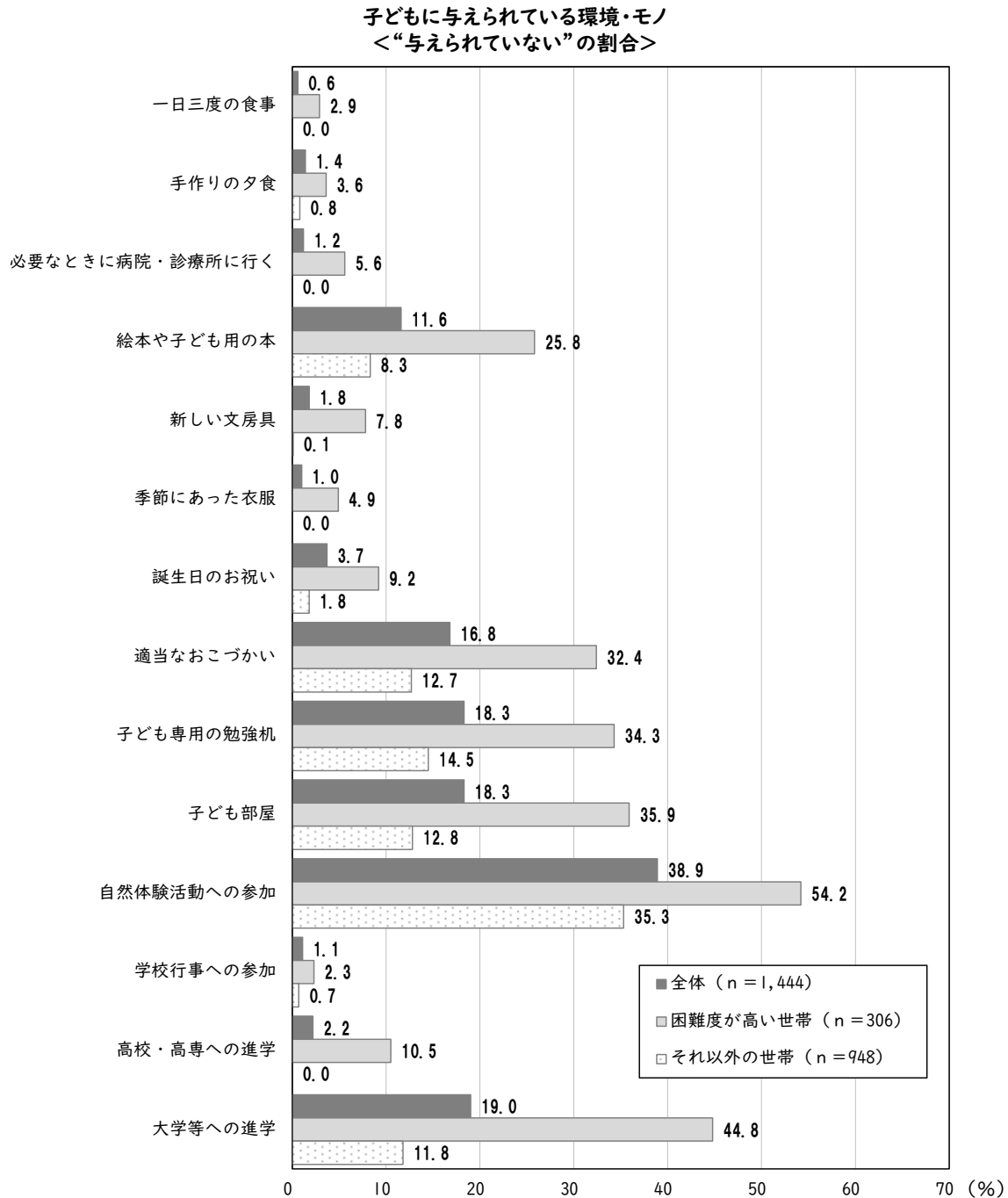
子どもを取り巻く14項目の環境・モノについて、「必要である」と考える割合をみると、“困難度が高い世帯”の方が“それ以外の世帯”に比べ多くの項目で低くなっています。特に、“大学等への進学”で、“それ以外の世帯”では70.4%が「必要である」と考えているのに対し、“困難度が高い世帯”では47.1%と20ポイント以上の差がみられます。

また、“全体”で「必要である」が80%を超えているのは、“一日三度の食事”93.3%、“必要なときに病院・診療所に行く”92.8%、“季節にあった衣服”86.1%、“高校・高専への進学”85.4%の4項目となっています。



(21) お子さんに与えられている環境・モノ(SA)

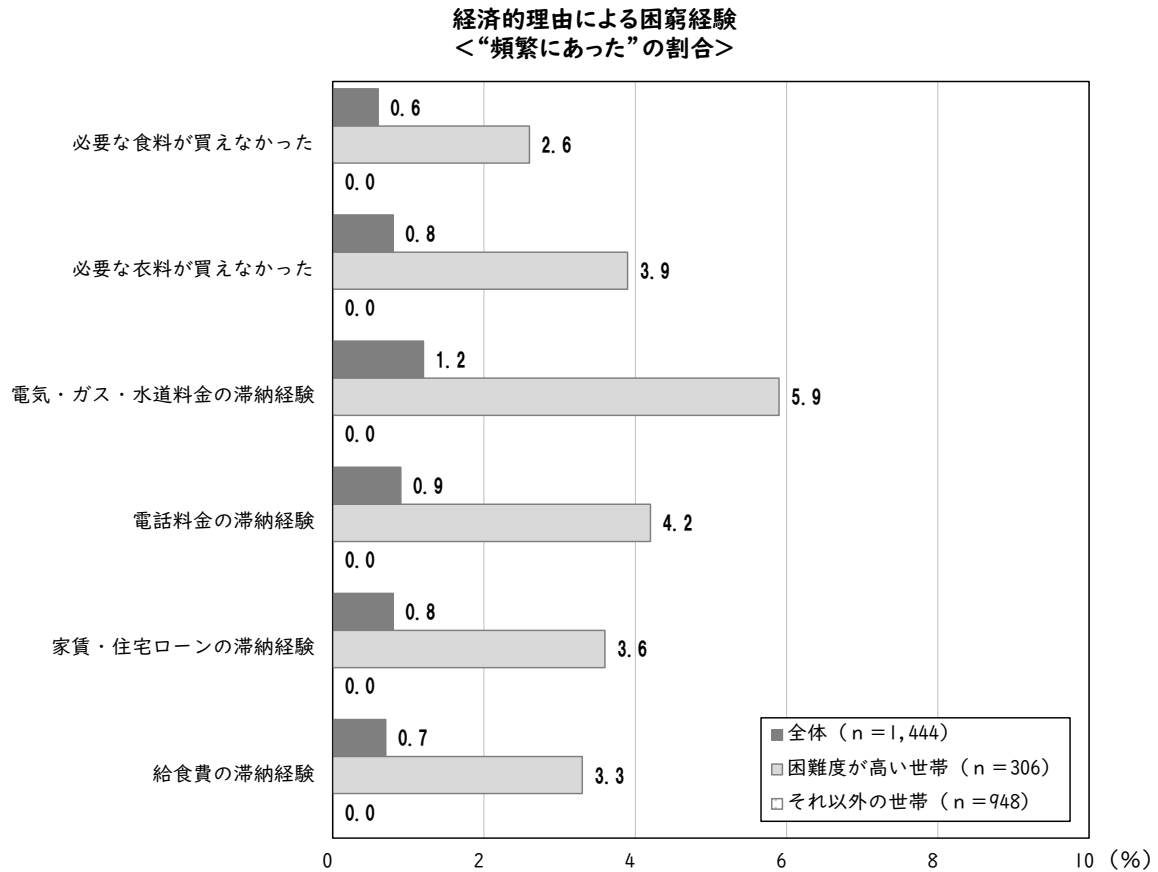
お子さんに与えられている環境・モノについて、「与えられていない（与えられそうにない）」割合をみると、「困難度が高い世帯」の方が「それ以外の世帯」に比べ総じて高くなっています。特に、「大学等への進学」で、「それ以外の世帯」では11.8%が「与えられていない」のに対し、「困難度が高い世帯」では44.8%と大きな差がみられます。



(22) 経済的理由による困窮経験 (SA)

経済的理由による困窮経験について、「頻繁にあった」割合をみると、「困難度が高い世帯」では“電気・ガス・水道料金の滞納経験”5.9%、“電話料金の滞納経験”4.2%が高くなっています。

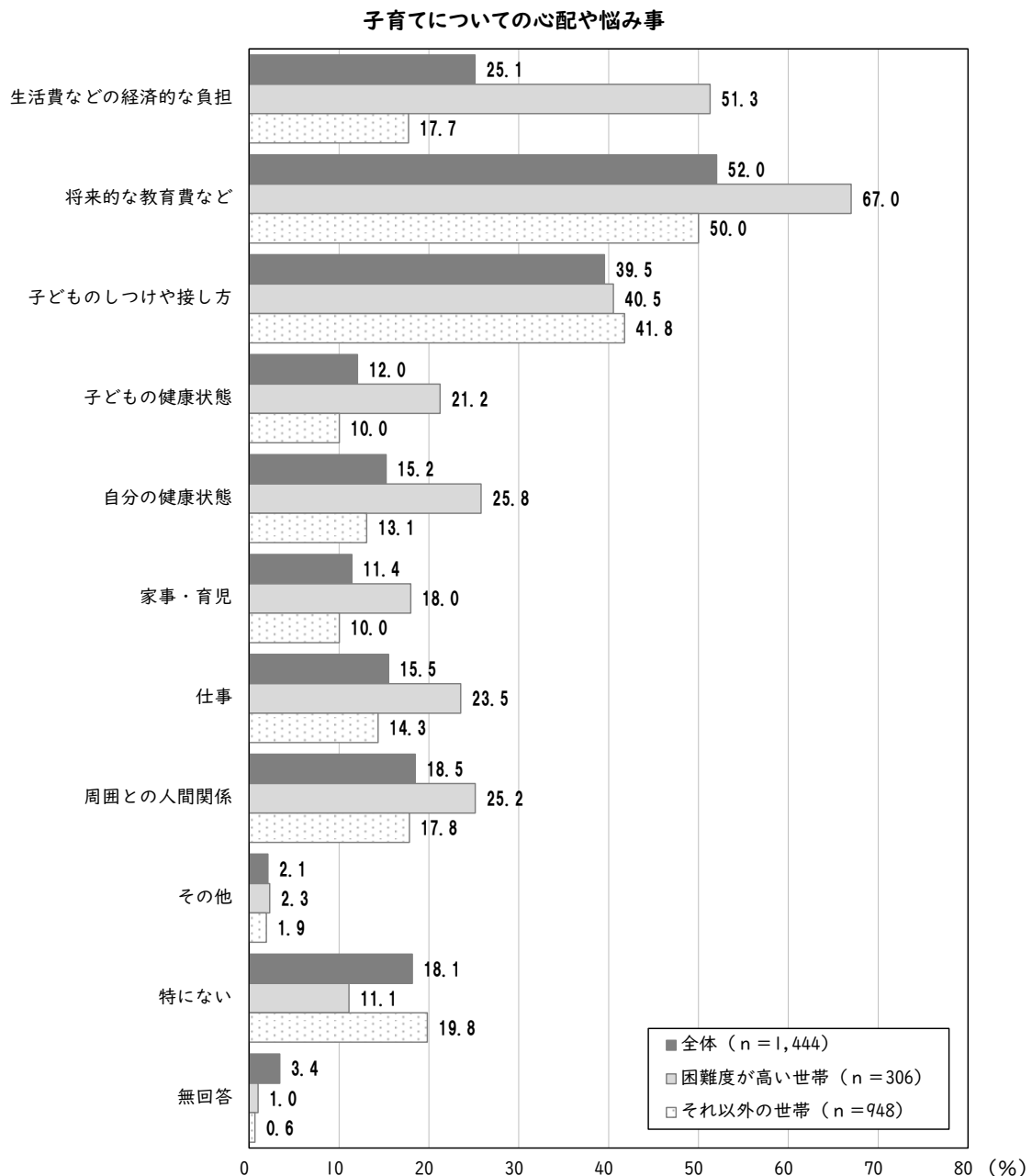
“それ以外の世帯”では、すべての項目で0.0%（経験なし）となっています。



(23) 子育てについての心配や悩み事 (MA)

子育てについての心配や悩み事について、“それ以外の世帯”では「将来的な教育費など」が最も多く 50.0%ですが、“困難度が高い世帯”では「将来的な教育費など」67.0%、「生活費などの経済的な負担」51.3%が過半数を占める心配や悩み事として挙げられています。

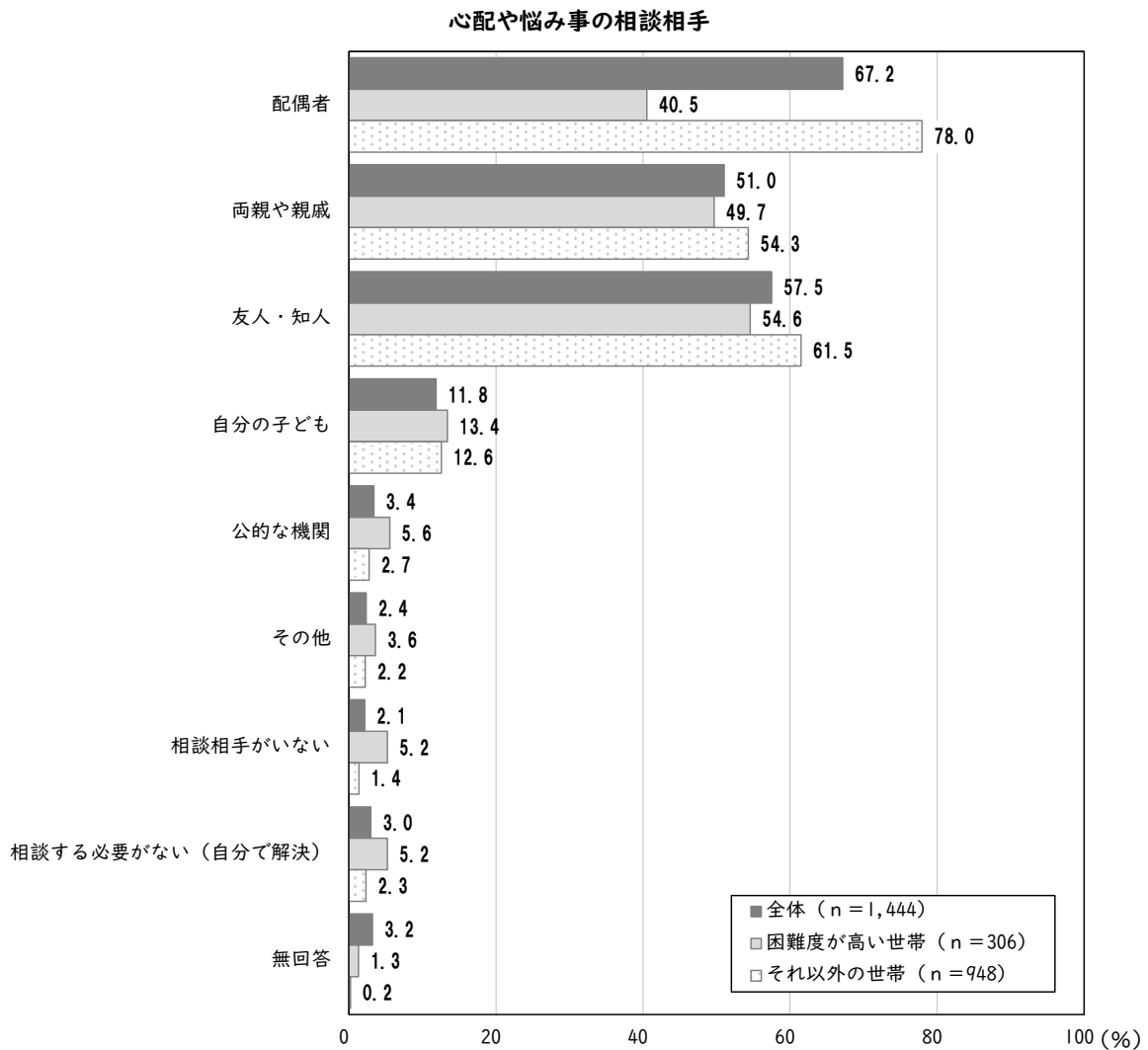
「子どものしつけや接し方」、「特にない」を除けば、“困難度が高い世帯”の方が“それ以外の世帯”に比べ総じて心配・悩み事の割合が高くなっています。



(24) 心配や悩み事の相談相手 (MA)

心配や悩み事の相談相手としては、“それ以外の世帯”では「配偶者」が最も多く78.0%、次いで「友人・知人」61.5%、「両親や親戚」54.3%の順となっていますが、“困難度が高い世帯”では「友人・知人」が最も多く54.6%、次いで「両親や親戚」49.7%、「配偶者」40.5%の順となっています。

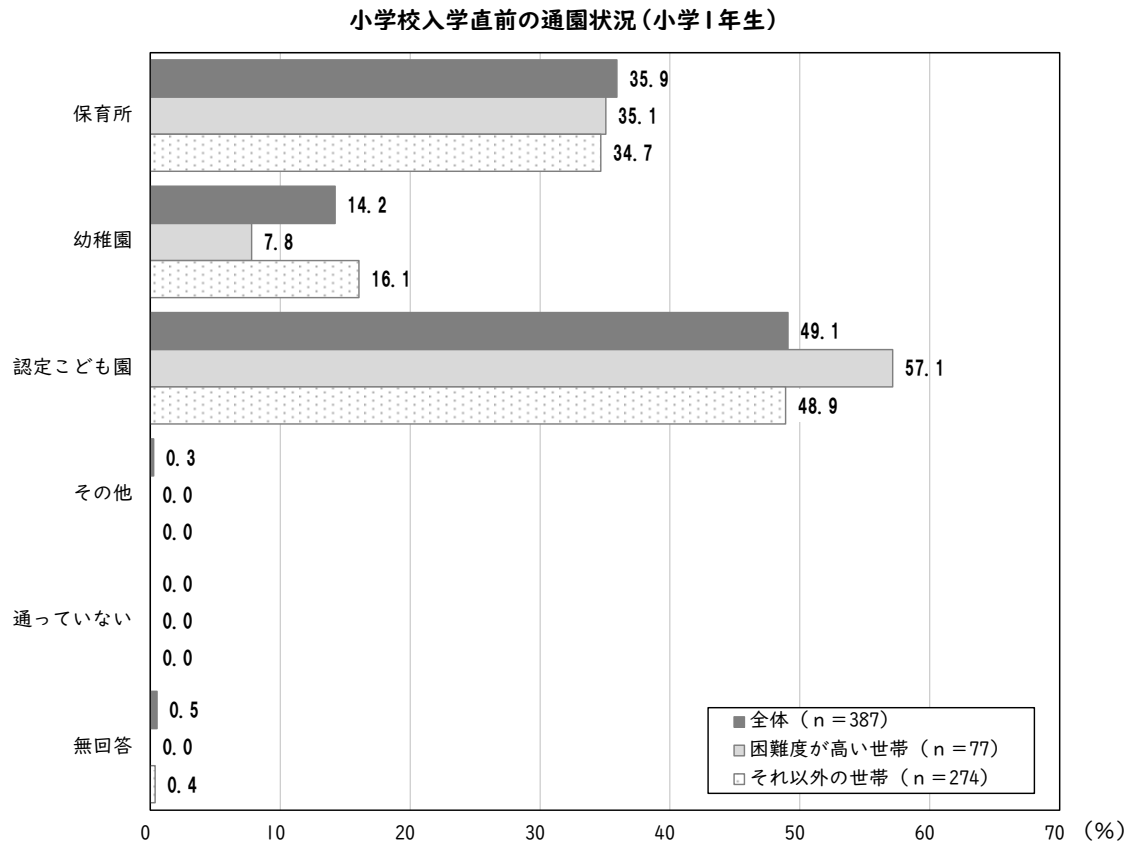
また、「相談相手がない」割合をみると、“それ以外の世帯”の1.4%に対して“困難度が高い世帯”では5.2%と高くなっています。



(25) 【小1の保護者】小学校入学直前の通園状況 (SA)

小学校入学直前の通園状況について、「認定こども園」が最も多く、“困難度が高い世帯”で57.1%、“それ以外の世帯”では48.9%となっています。

“困難度が高い世帯”では、“それ以外の世帯”に比べ「幼稚園」が少なく、“それ以外の世帯”16.1%に対して7.8%となっています。

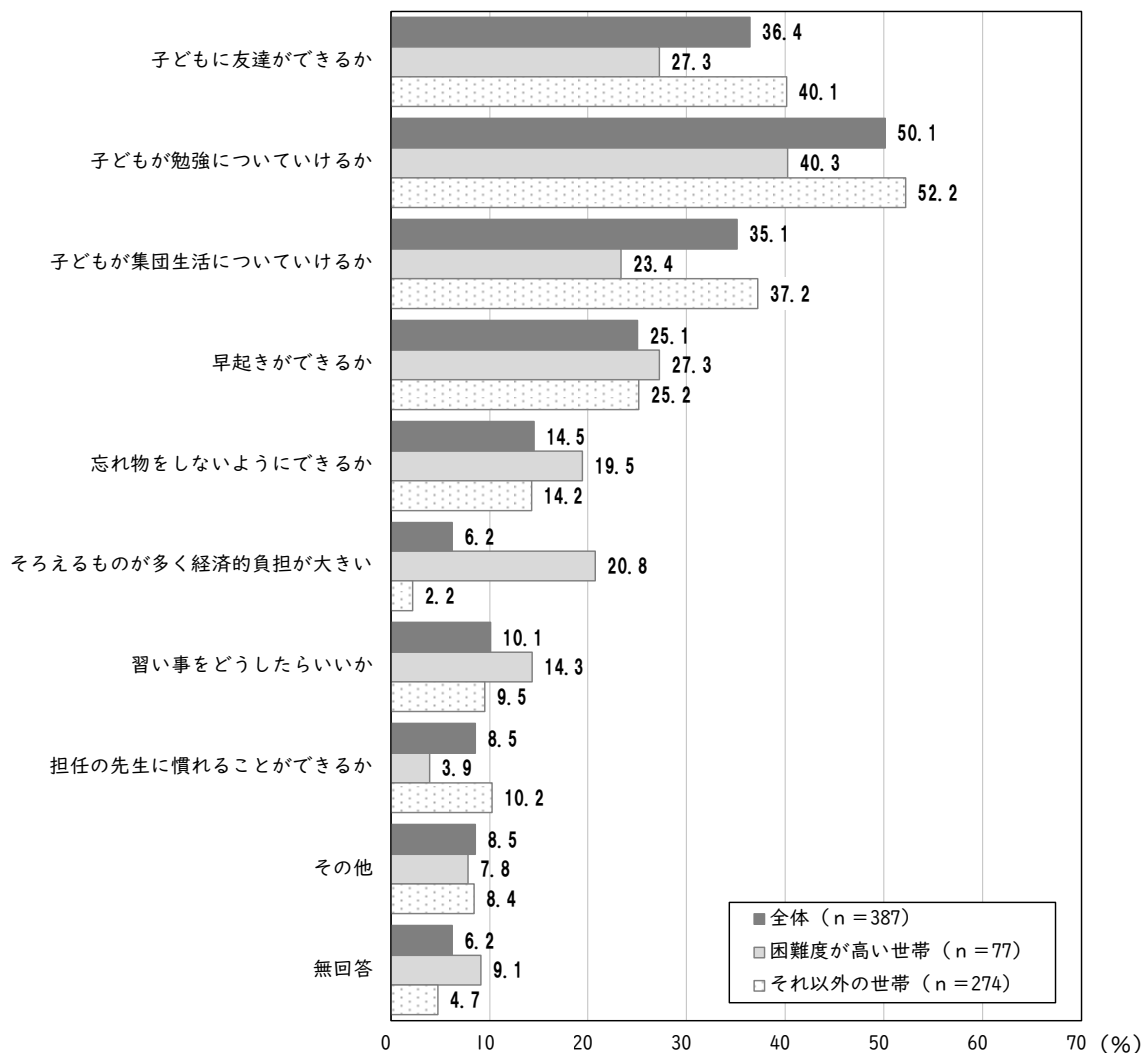


(26) 【小1の保護者】小学校入学の際に困ったことや不安だったこと (MA)

小学校入学の際に困ったことや不安だったこととしては、「子どもが勉強についていけるか」が最も多く、「困難度が高い世帯」で40.3%、「それ以外の世帯」では52.2%となっています。また、次いで「子どもに友達ができるか」が多くなっているのも「困難度が高い世帯」・「それ以外の世帯」共通ですが、「困難度が高い世帯」では「早起きができるか」も同率となっています。

“それ以外の世帯”では「そろえるものが多く経済的負担が大きい」が2.2%であるのに対し「困難度が高い世帯」では、20.8%と多くなっています。

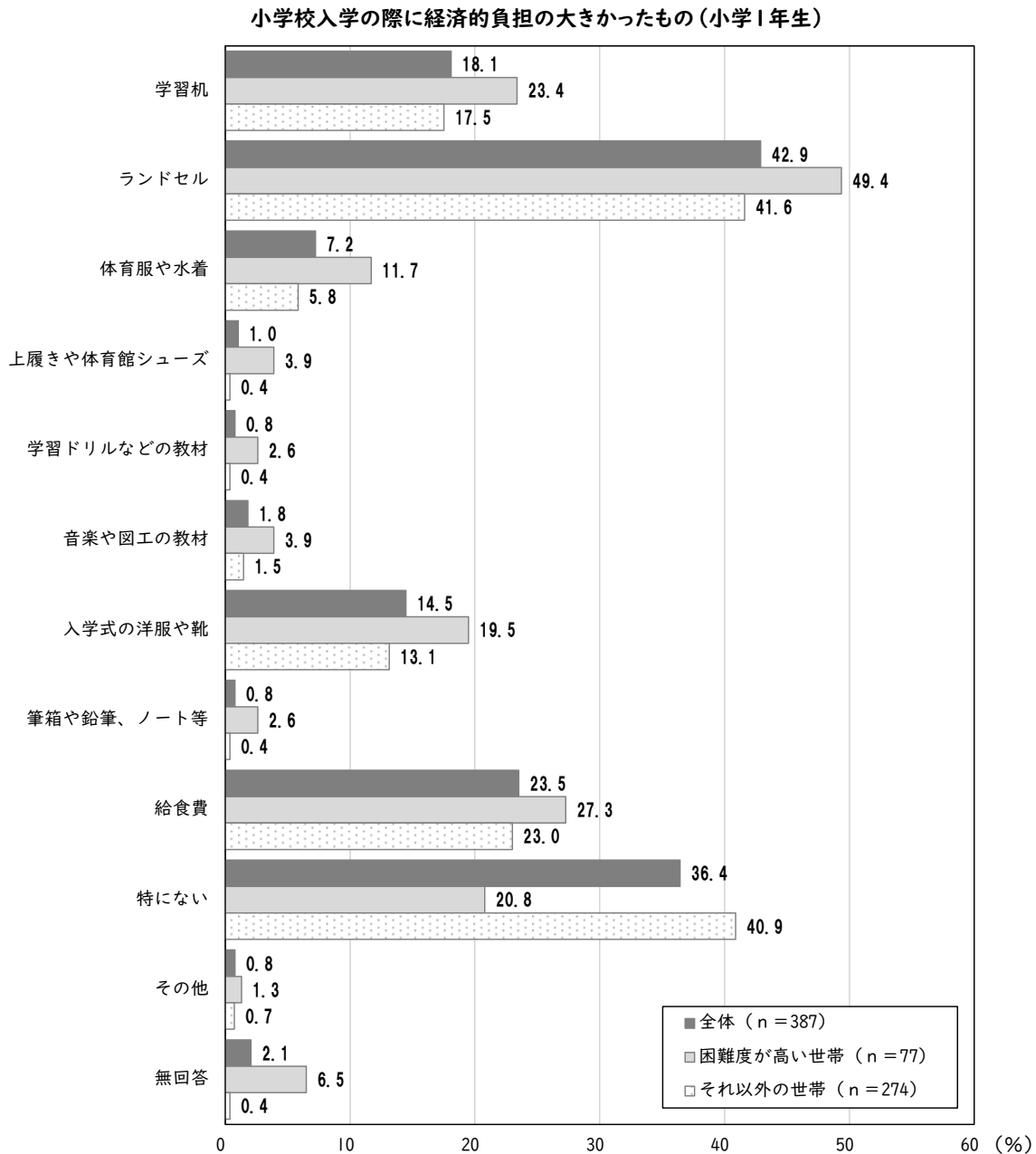
小学校入学の際に困ったことや不安だったこと (小学1年生)



(27) 【小1の保護者】小学校入学の際に経済的負担が大きかったもの (MA)

小学校入学の際に経済的負担が大きかったものとして、最も多いのは「ランドセル」で「困難度が高い世帯」で49.4%、「それ以外の世帯」では41.6%となっているのを始め、すべての項目で「困難度が高い世帯」が「それ以外の世帯」よりも多くなっています。

「特にない」については、「それ以外の世帯」が40.9%であるのに対し、「困難度が高い世帯」では20.8%と少なく、約80%の世帯で小学校入学の際に経済的負担が大きかったものがあるということになります。

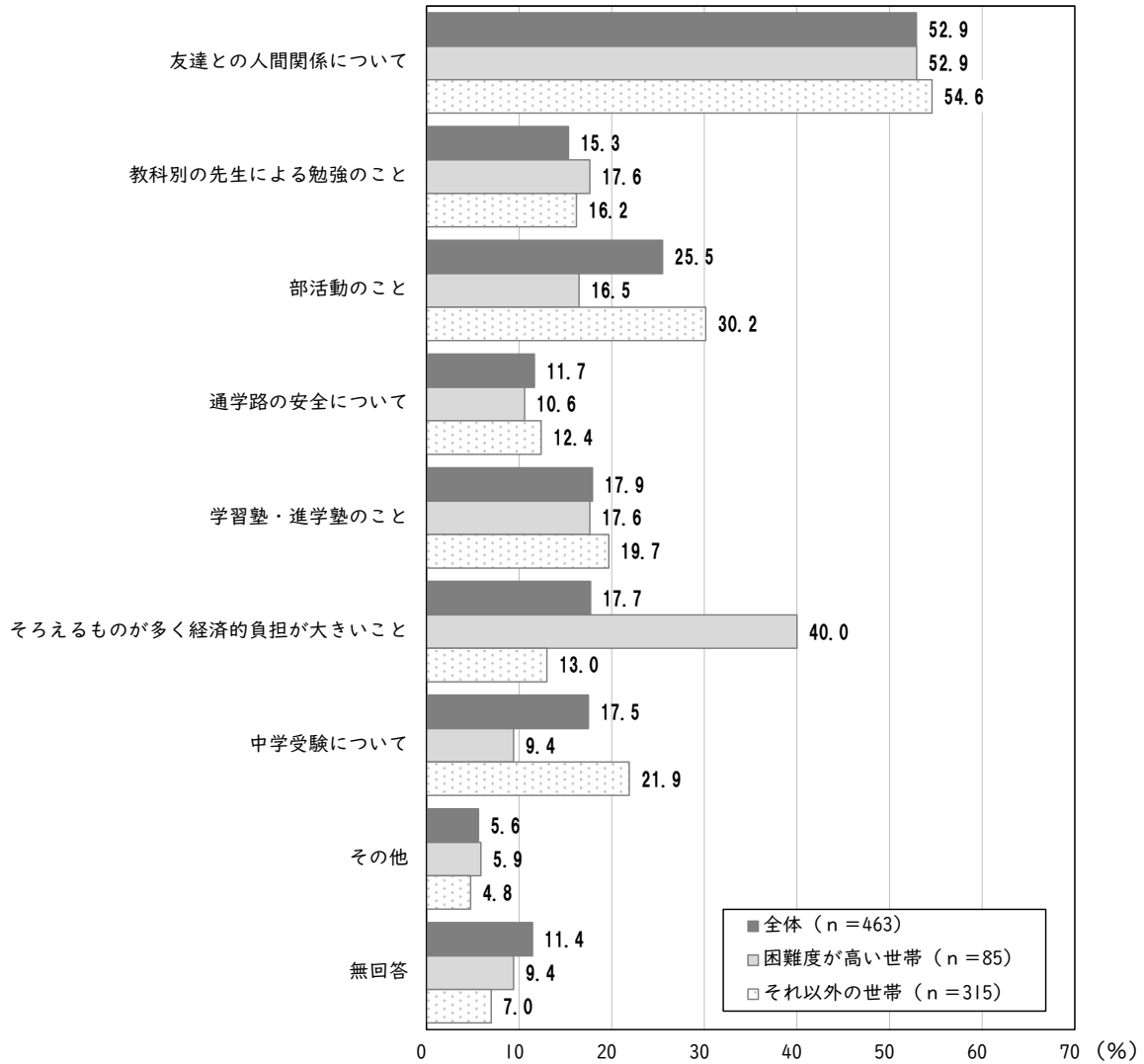


(28)【小5の保護者】中学校進学にあたり不安なこと(MA)

中学校進学にあたり不安なこととしては、「友達との人間関係について」が最も多く、「困難度が高い世帯」で52.9%、「それ以外の世帯」では54.6%となっています。

次いで多いのは、「困難度が高い世帯」では「そろえるものが多く経済的負担が大きいこと」40.0%、「それ以外の世帯」では「部活動のこと」が30.2%となっています。

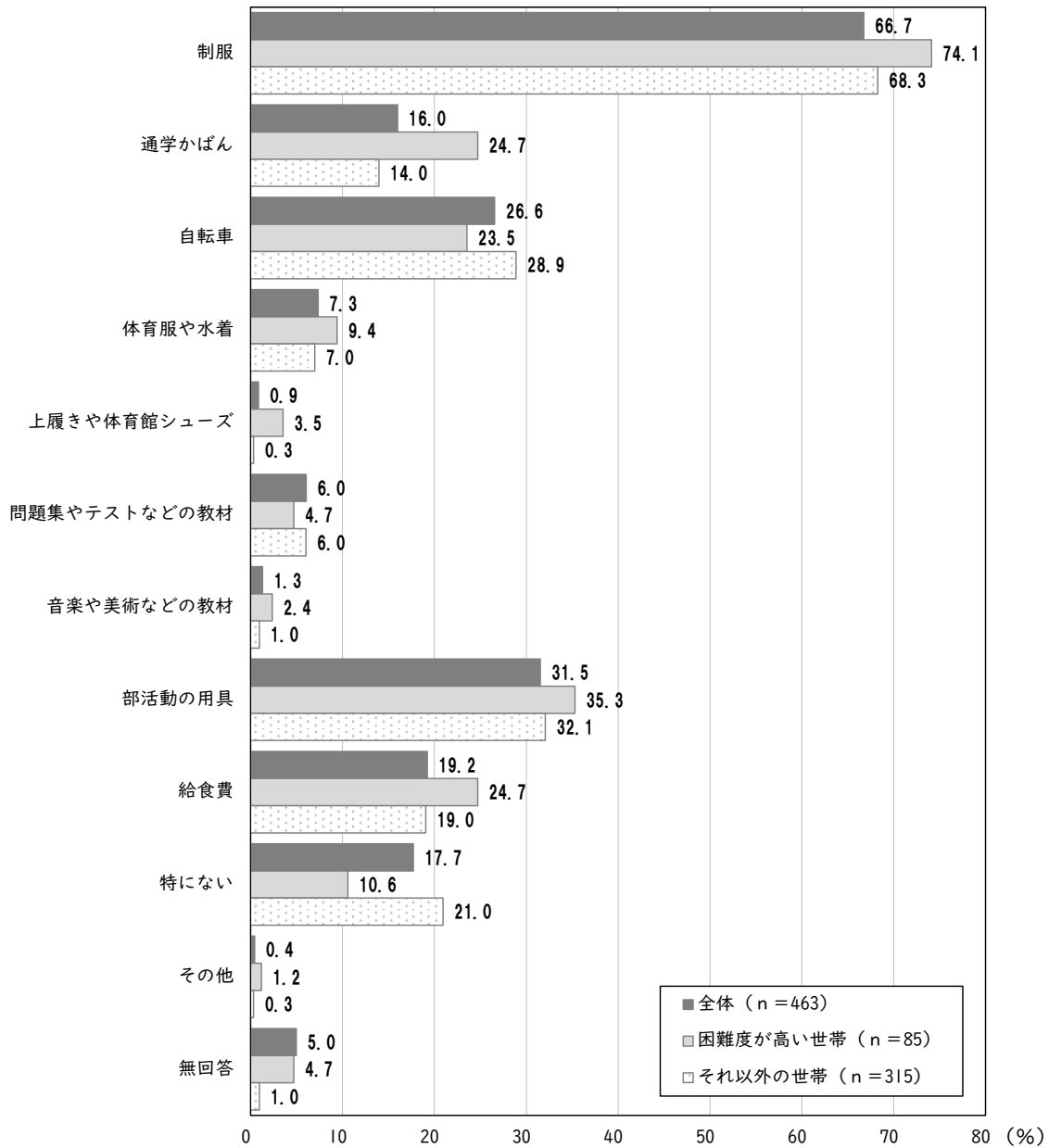
中学校進学にあたり不安なこと(小学5年生)



(29) 【小5の保護者】中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの(MA)

中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うものとしては、「制服」が最も多く、“困難度が高い世帯” 74.1%、“それ以外の世帯” 68.3%、次いで多いのは「部活動の用具」で“困難度が高い世帯” 35.3%、“それ以外の世帯” 32.1%となっています。

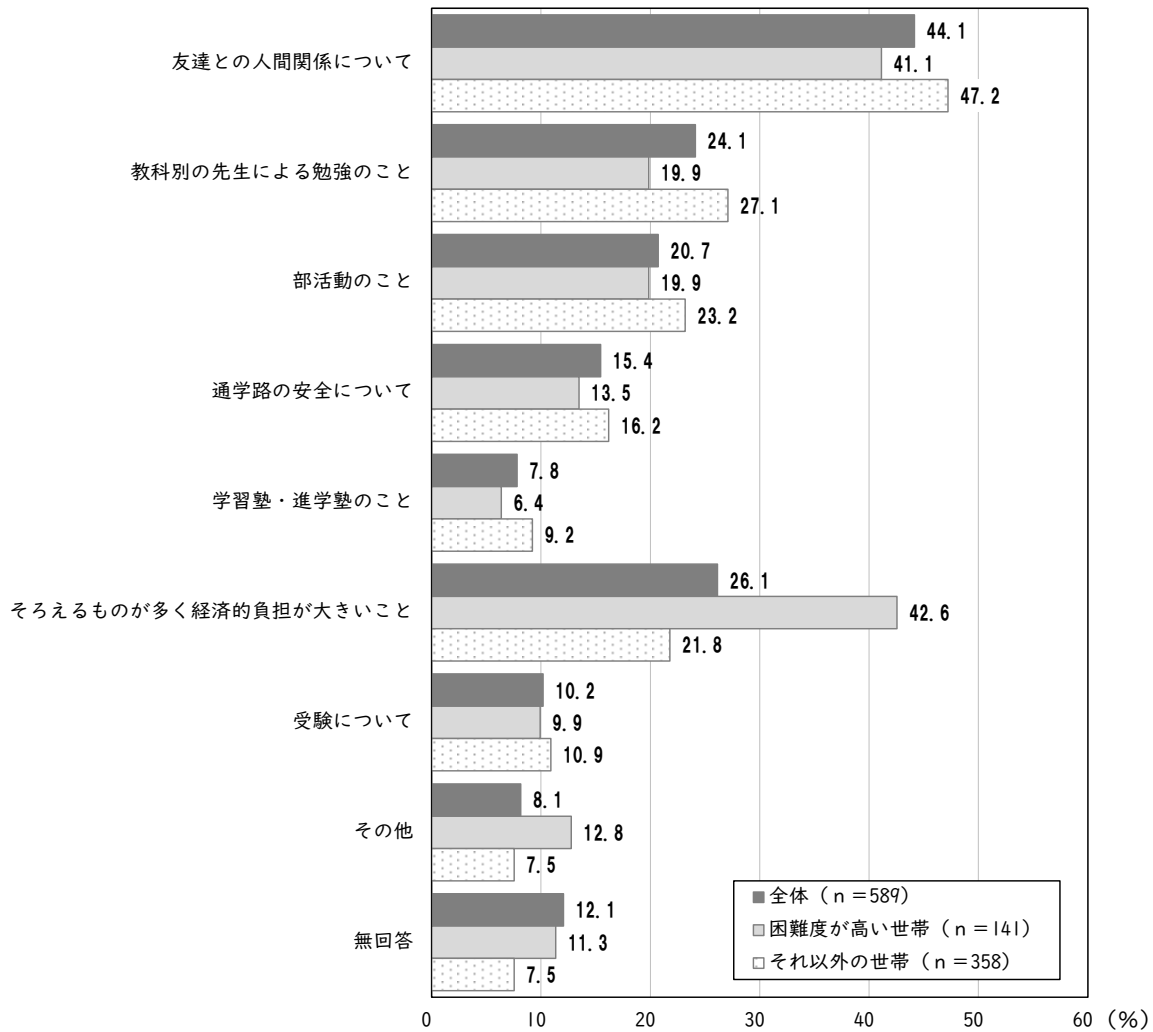
中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの(小学5年生)



(30) 【中2・高2の保護者】中学校(高校)入学の際に困ったことや不安だったこと(MA)

中学校(高校)入学の際に困ったことや不安だったこととしては、“それ以外の世帯”では「友達との人間関係について」が最も多く47.2%、「困難度が高い世帯」でも41.1%となっていますが、「困難度が高い世帯」では「そろえるものが多く経済的負担が大きいこと」が42.6%で最も多くなっています。

中学校(高校)入学の際に困ったことや不安だったこと(中学2年生・高校2年生)



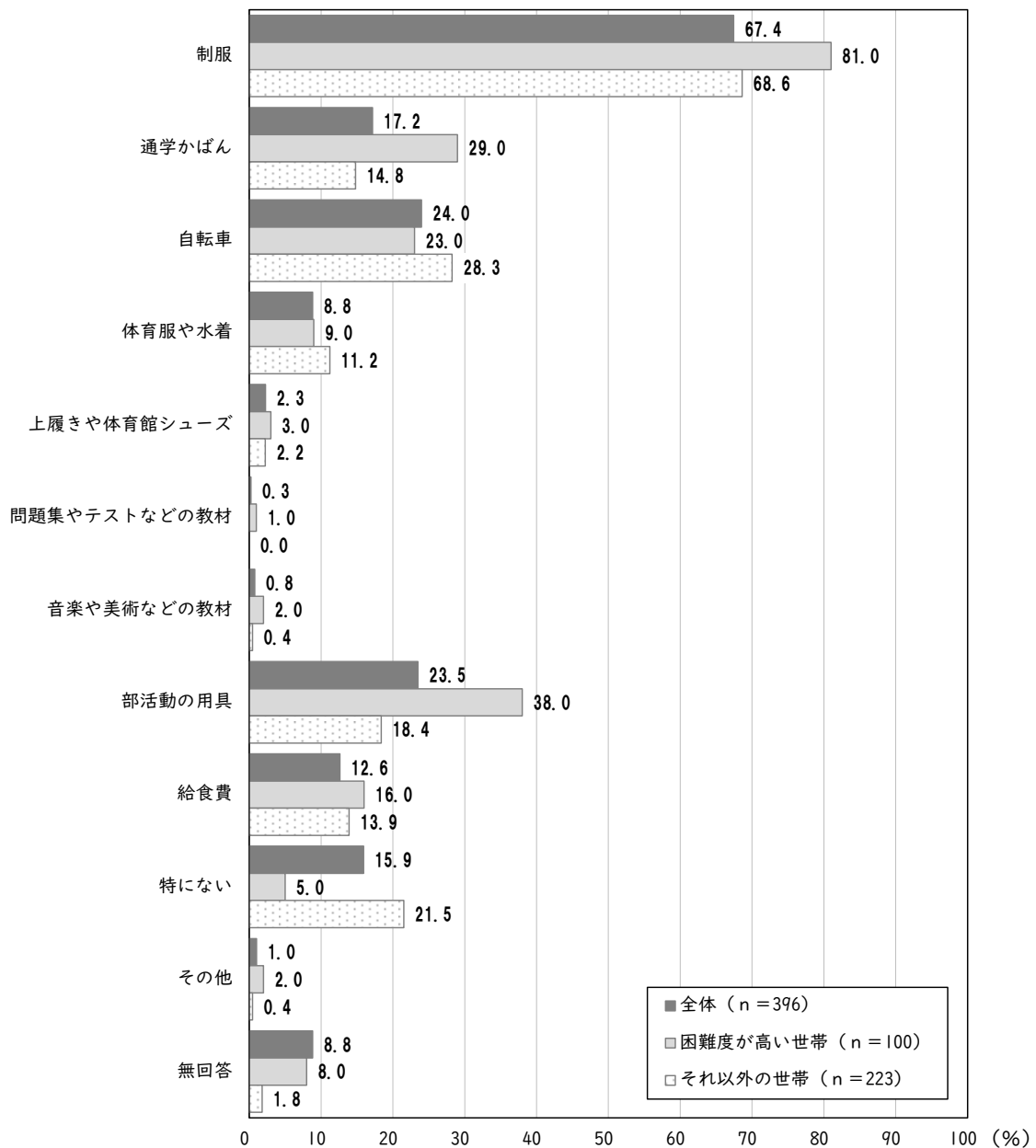
(31)【中2の保護者】中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの(MA)

中学校入学の際に経済的負担が大きかったものとしては、「制服」が最も多く、「困難度が高い世帯」では81.0%、「それ以外の世帯」では68.6%となっています。

次いで多いのは、「困難度が高い世帯」で「部活動の用具」38.0%、「それ以外の世帯」では「自転車」28.3%となっています。

「特にない」については、「それ以外の世帯」が21.5%であるのに対し、「困難度が高い世帯」では5.0%と少なく、「困難度が高い世帯」では95%、「それ以外の世帯」でも約80%の世帯で中学校入学の際に経済的負担が大きかったものがあるということになります。

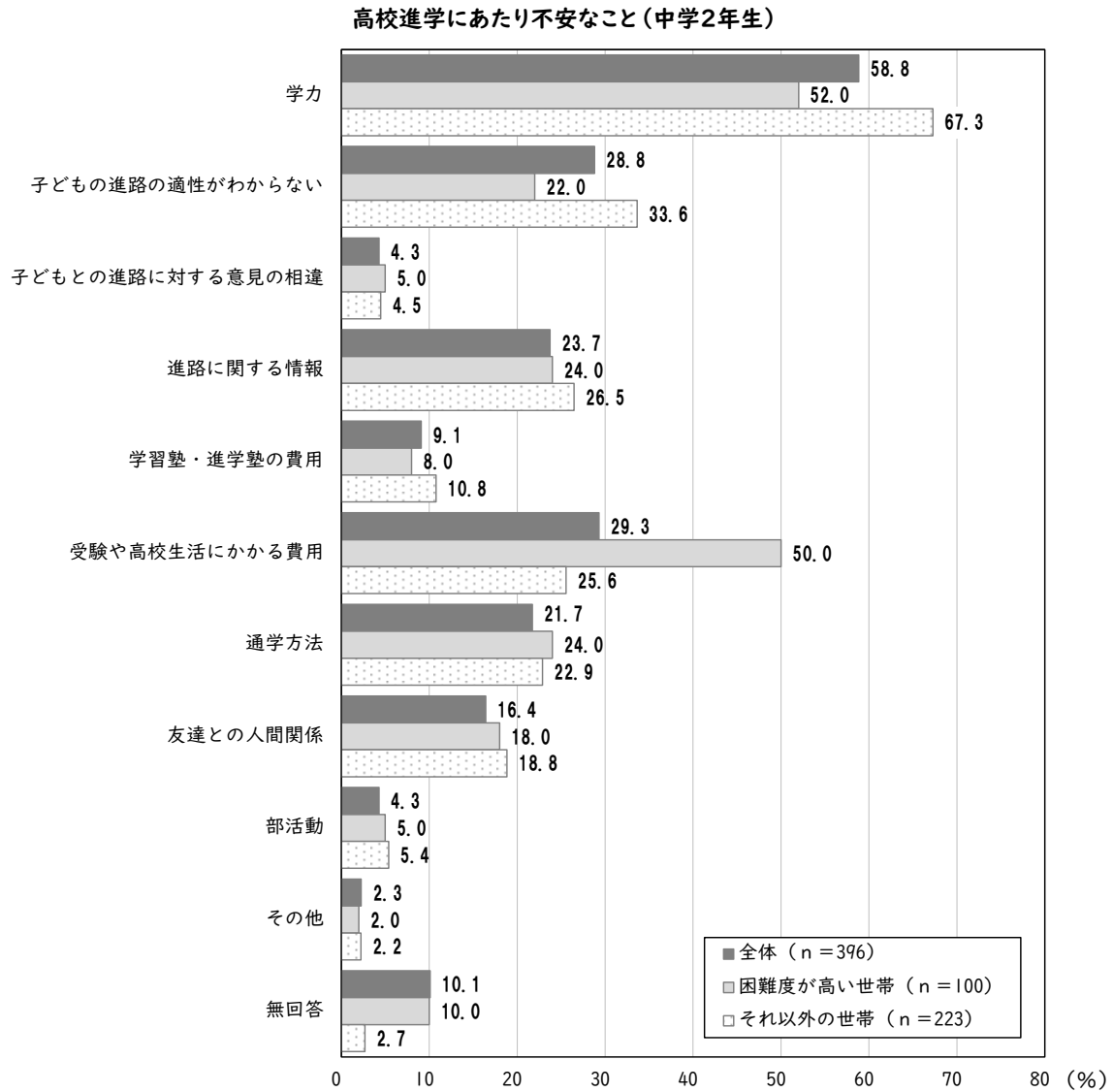
中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの(中学2年生)



(32)【中2の保護者】高校進学にあたり不安なこと(MA)

高校進学にあたり不安なこととしては、「学力」が最も多く、「困難度が高い世帯」で52.0%、「それ以外の世帯」では67.3%となっています。

次いで多いのは、「困難度が高い世帯」で「受験や高校生活にかかる費用」50.0%、「それ以外の世帯」では「子どもの進路の適性がわからない」33.6%となっています。



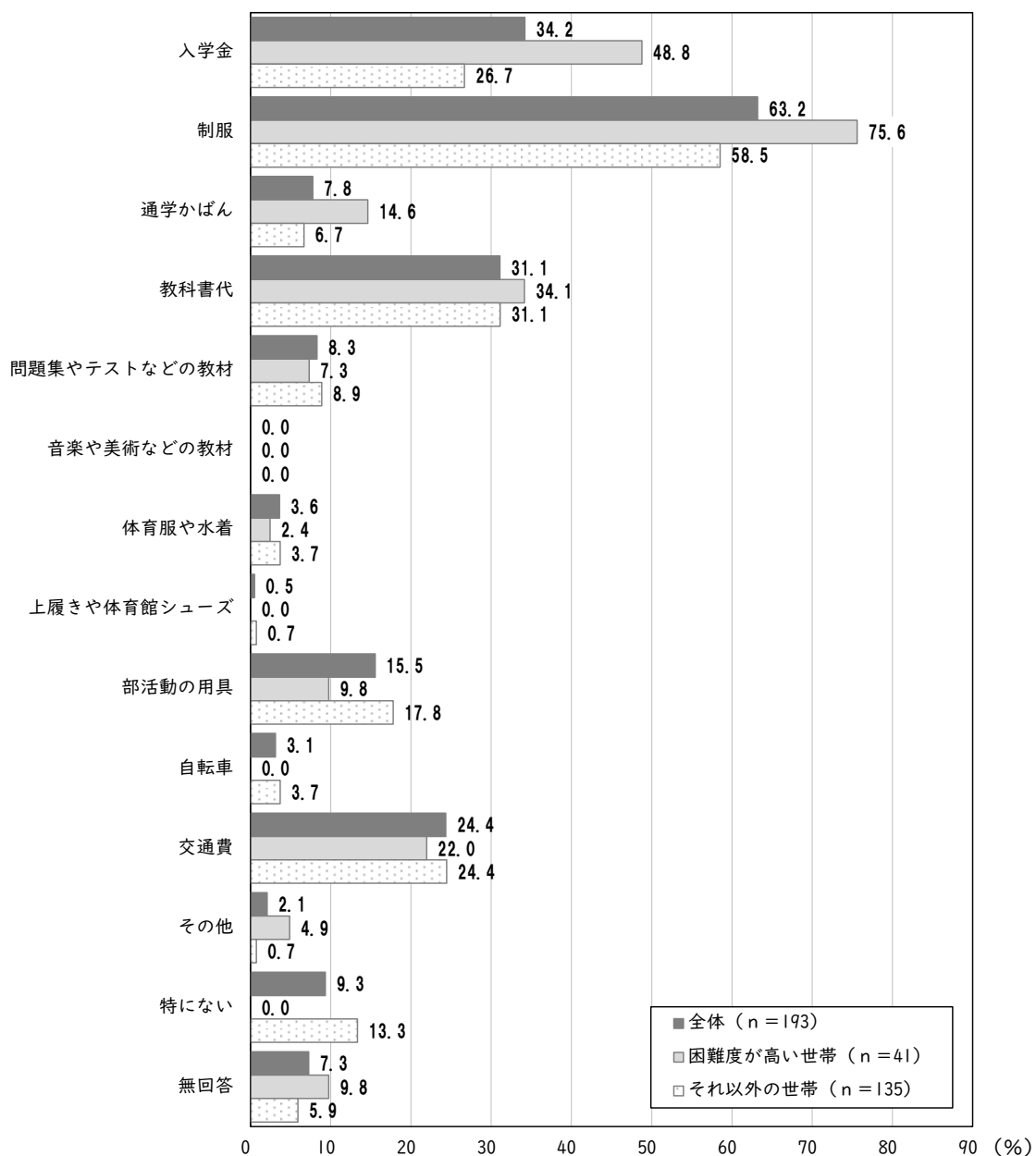
(33)【高2の保護者】高校入学の際に経済的負担の大きかったもの(MA)

高校入学の際に経済的負担の大きかったものとしては、「制服」が最も多く、“困難度が高い世帯”で75.6%、“それ以外の世帯”では58.5%となっています。

次いで多いのは、“困難度が高い世帯”では「入学金」48.8%、“それ以外の世帯”では「教科書代」31.1%となっています。

「特にない」については、“それ以外の世帯”が13.3%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では0.0%と少なく、“困難度が高い世帯”すべての世帯で、高校入学の際に経済的負担が大きかったものがあるということになります。また、“それ以外の世帯”でも約97%の世帯で経済的負担が大きかったものがあり、小学校入学時や中学校入学時と比べ最も経済的負担が大きいたことが分かります。

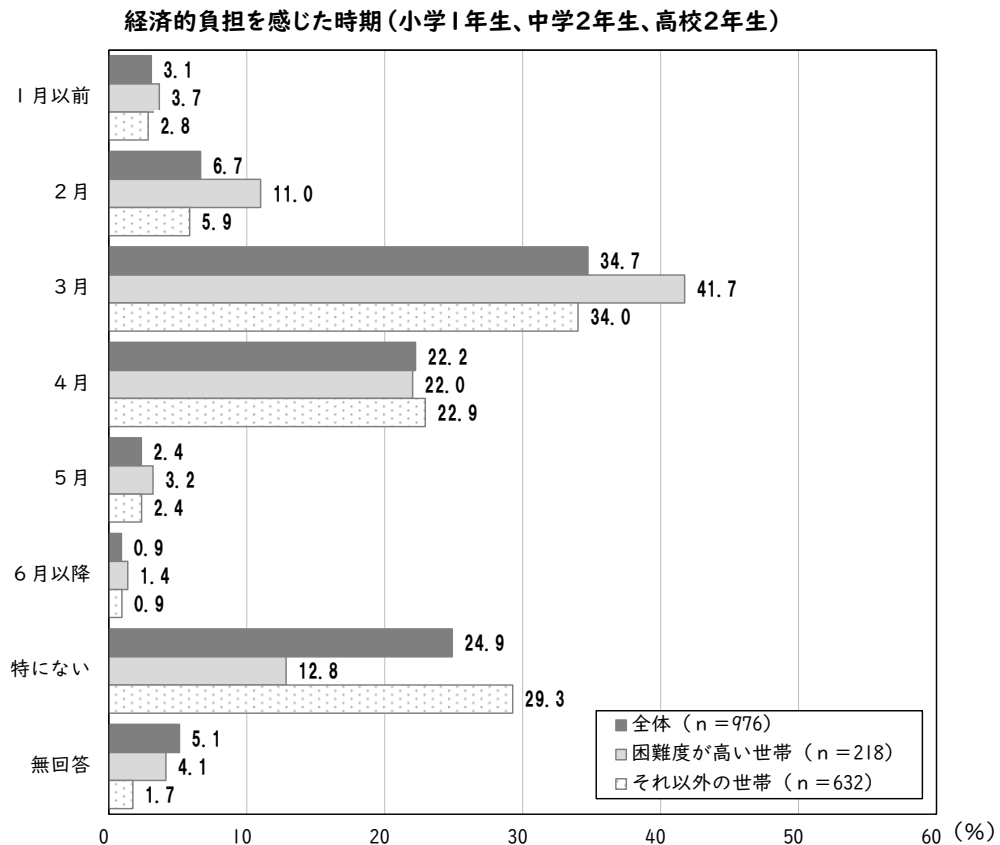
高校入学の際に経済的負担の大きかったもの(高校2年生)



(34) 小学校・中学校・高校入学の際に経済的負担を感じた時期(SA)

小学校・中学校・高校入学の際に経済的負担を感じた時期について、「3月」が最も多く、「困難度が高い世帯」で41.7%、「それ以外の世帯」では34.0%となっています。

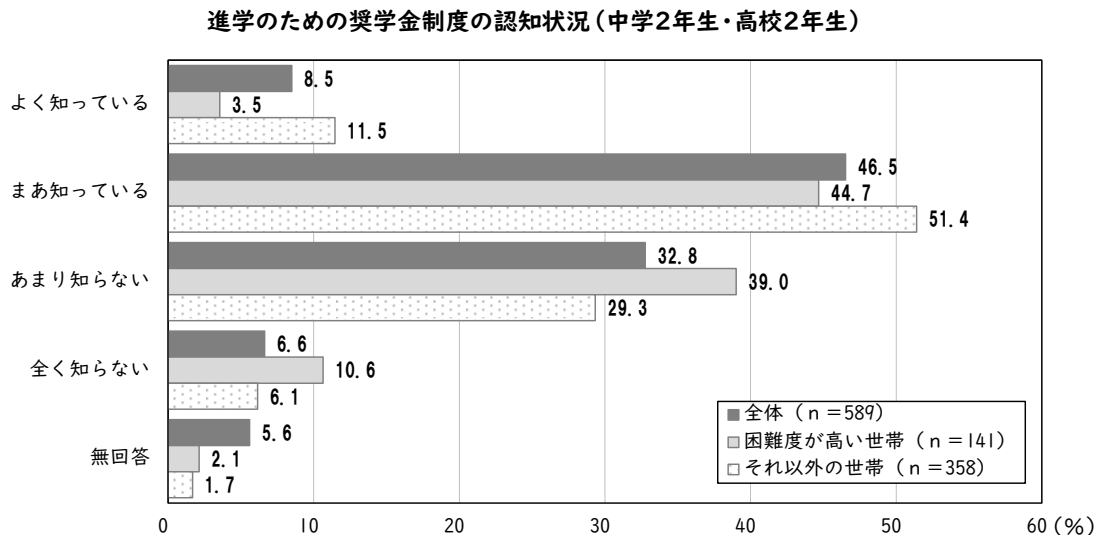
次いで多いのは、「困難度が高い世帯」では「4月」31.5%であるのに対し、「それ以外の世帯」では「特にない」29.3%となっています。



(35)【中2・高2の保護者】進学のための奨学金制度の認知状況(SA)

進学のための奨学金制度について、「よく知っている」・「まあ知っている」の合計が“それ以外の世帯”では62.9%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では48.2%、一方、「まったく知らない」・「あまり知らない」の合計は“それ以外の世帯”では35.4%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では49.6%となっています。

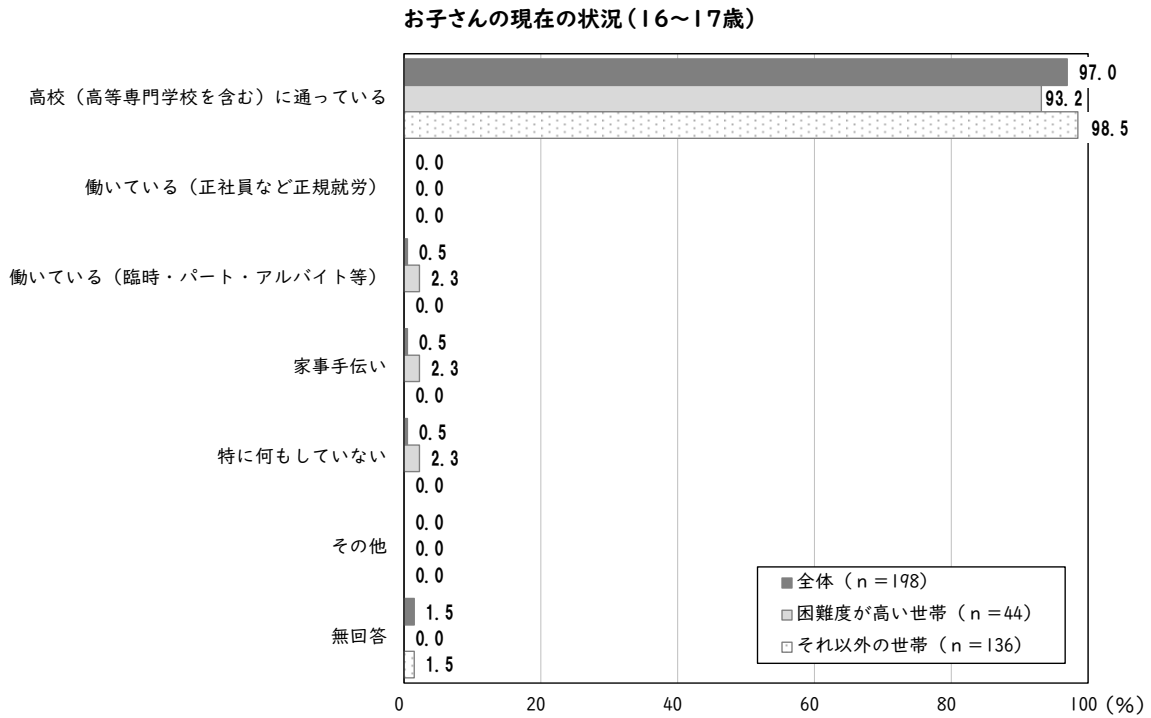
進学のための奨学金制度について、“困難度が高い世帯”は“それ以外の世帯”に比べて認知度が低いと言えます。



(36)【16～17歳の子どもの保護者】お子さんの現在の状況(SA)

お子さんの現在の状況について、「高校（高等専門学校を含む）に通っている」が最も多く、「困難度が高い世帯」で93.2%、「それ以外の世帯」では98.5%となっています。

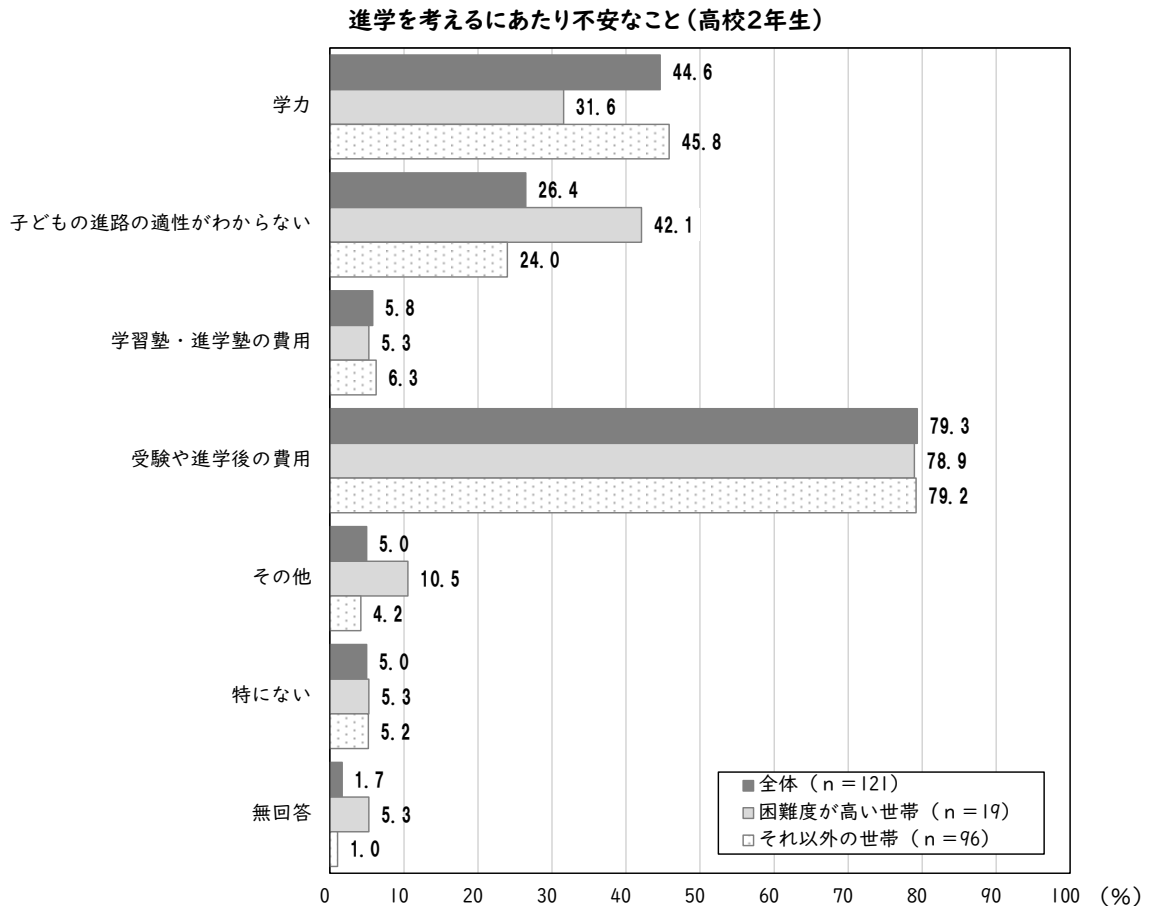
“困難度が高い世帯”では、「働いている（臨時・パート・アルバイト等）」、「家事手伝い」、「特に何もしていない」お子さんがいますが、「それ以外の世帯」では「無回答」1.5%を除くと、すべての世帯のお子さんが「高校（高等専門学校等を含む）に通っている」こととなります。



(37) 【高2の保護者】進学を考えるにあたり不安なこと(MA)

進学を考えるにあたり不安なこととして、「受験や進学後の費用」が最も多く、“困難度が高い世帯”で78.9%、“それ以外の世帯”では79.2%となっています。

次いで多いのは、“困難度が高い世帯”では「子どもの進路の適性がわからない」42.1%であるのに対し、“それ以外の世帯”では「学力」45.8%となっています。

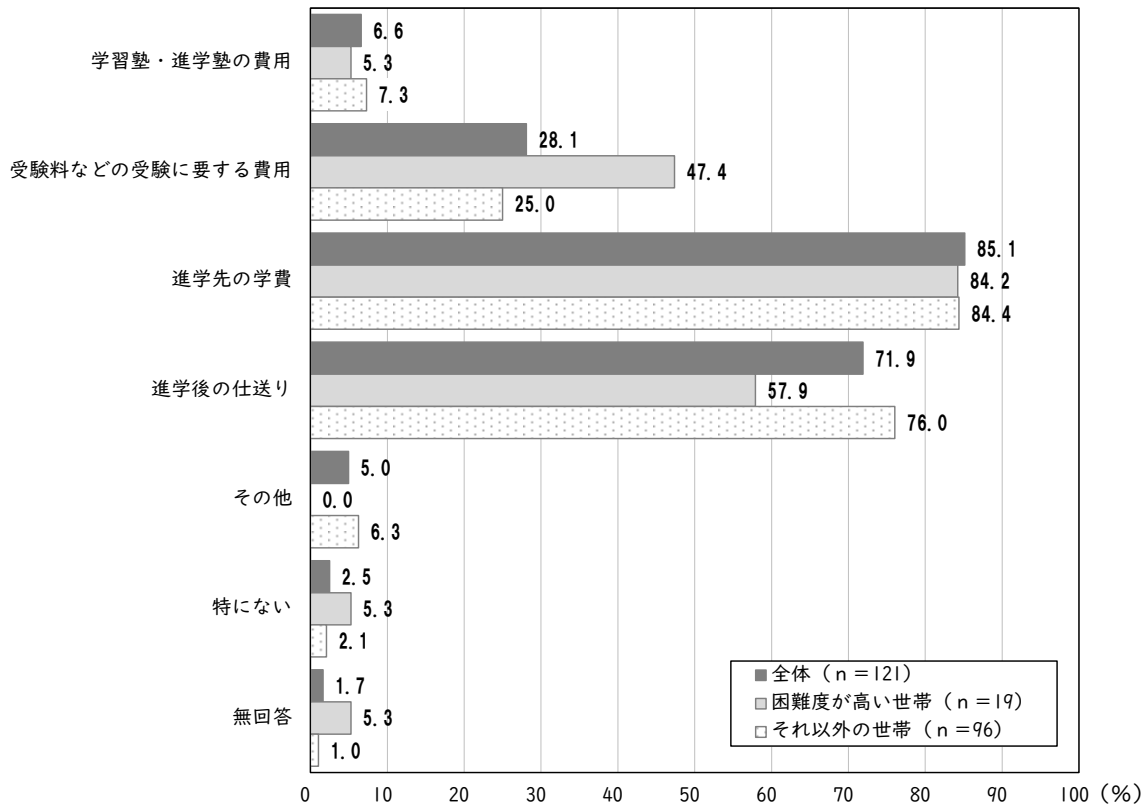


(38) 【高2の保護者】進学を考えるにあたり経済的負担が大きいと思うもの(MA)

進学を考えるにあたり経済的負担が大きいと思うものとして、「進学先の学費」が最も多く、“困難度が高い世帯”で84.2%、“それ以外の世帯”では84.4%となっています。次いで、「進学後の仕送り」が“困難度が高い世帯”57.9%、“それ以外の世帯”76.0%となっています。

また、「受験料などの受験に要する費用」についてしてみると、“それ以外の世帯”では25.0%であるの対し、“困難度が高い世帯”では47.4%と大きな差があります。

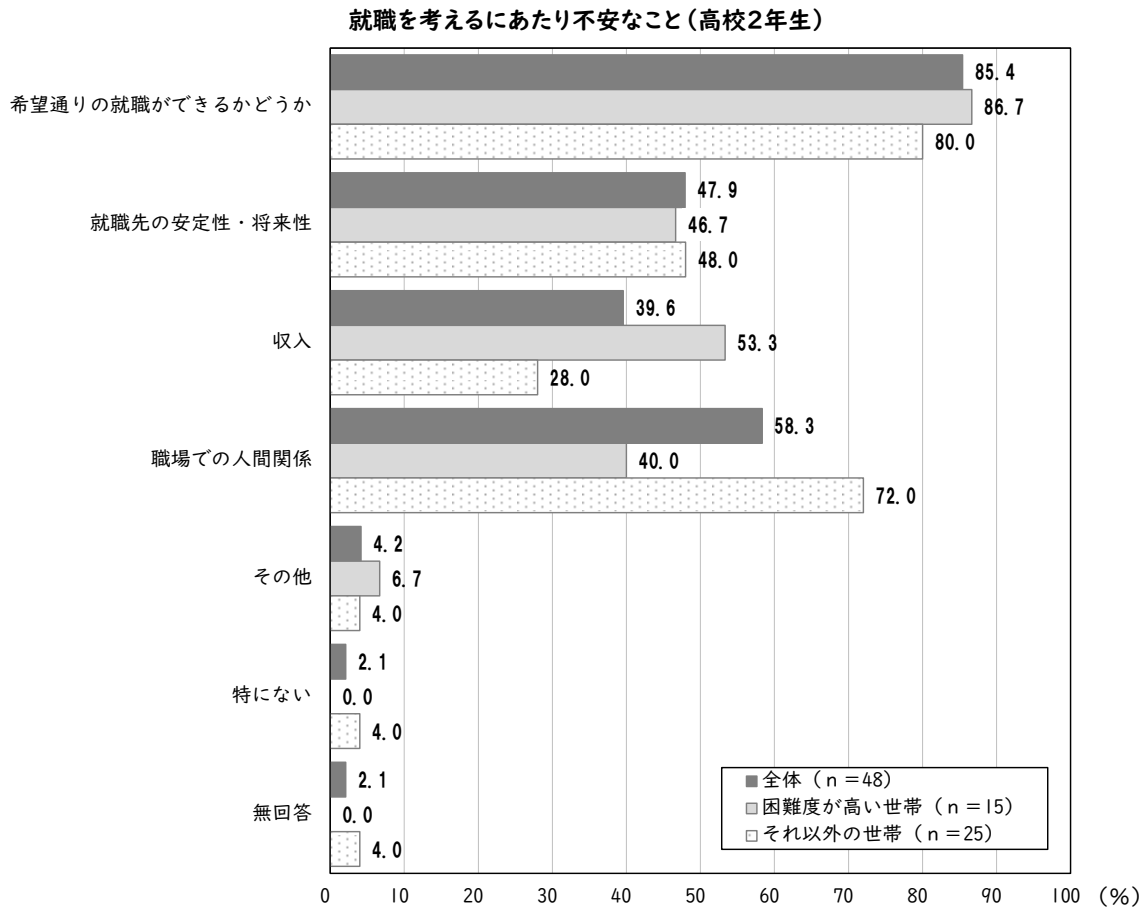
進学を考えるにあたり経済的負担が大きいもの(高校2年生)



(39)【高2の保護者】就職を考えるにあたり不安な事(MA)

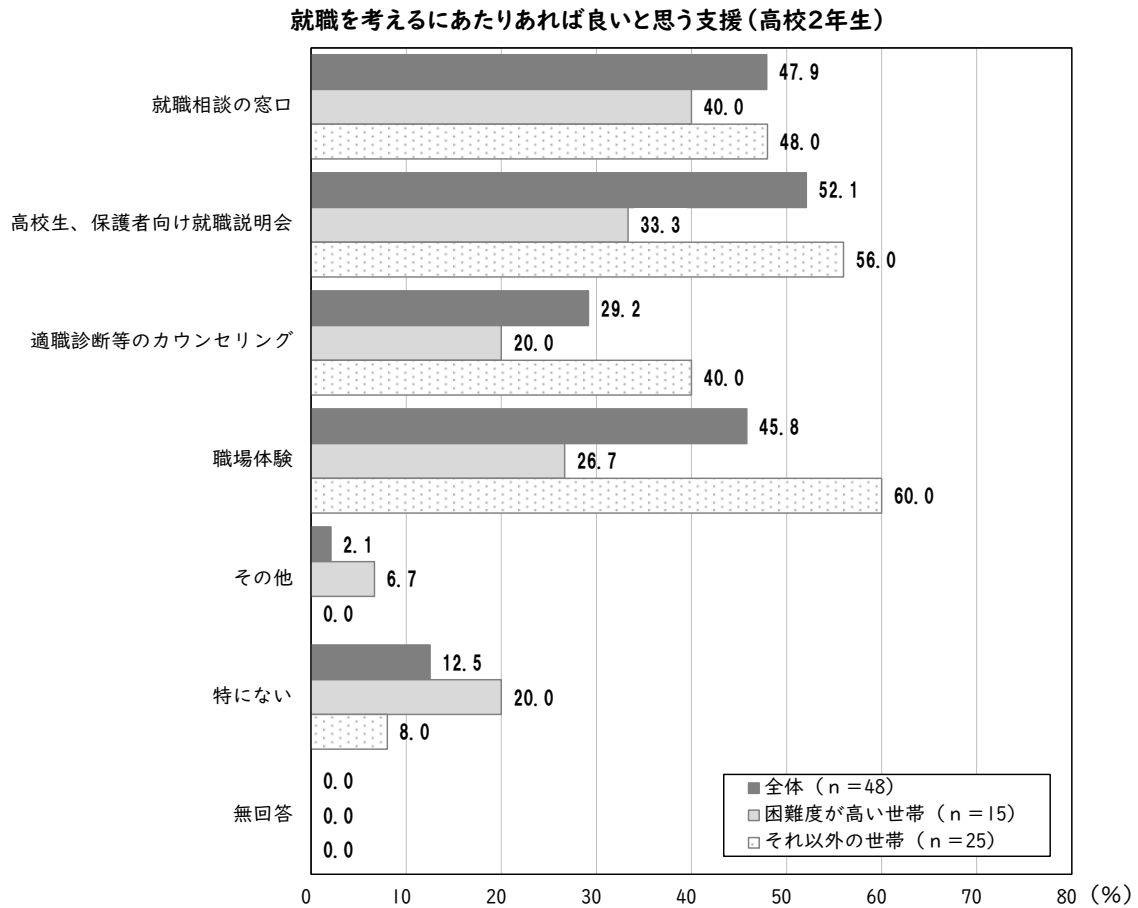
就職をするにあたり不安な事については、「希望通りの就職ができるかどうか」が最も多く、“困難度が高い世帯”で86.7%、“それ以外の世帯”では80.0%となっています。

次いで多いのは、“それ以外の世帯”では「職場での人間関係」72.0%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では「収入」53.3%となっています。



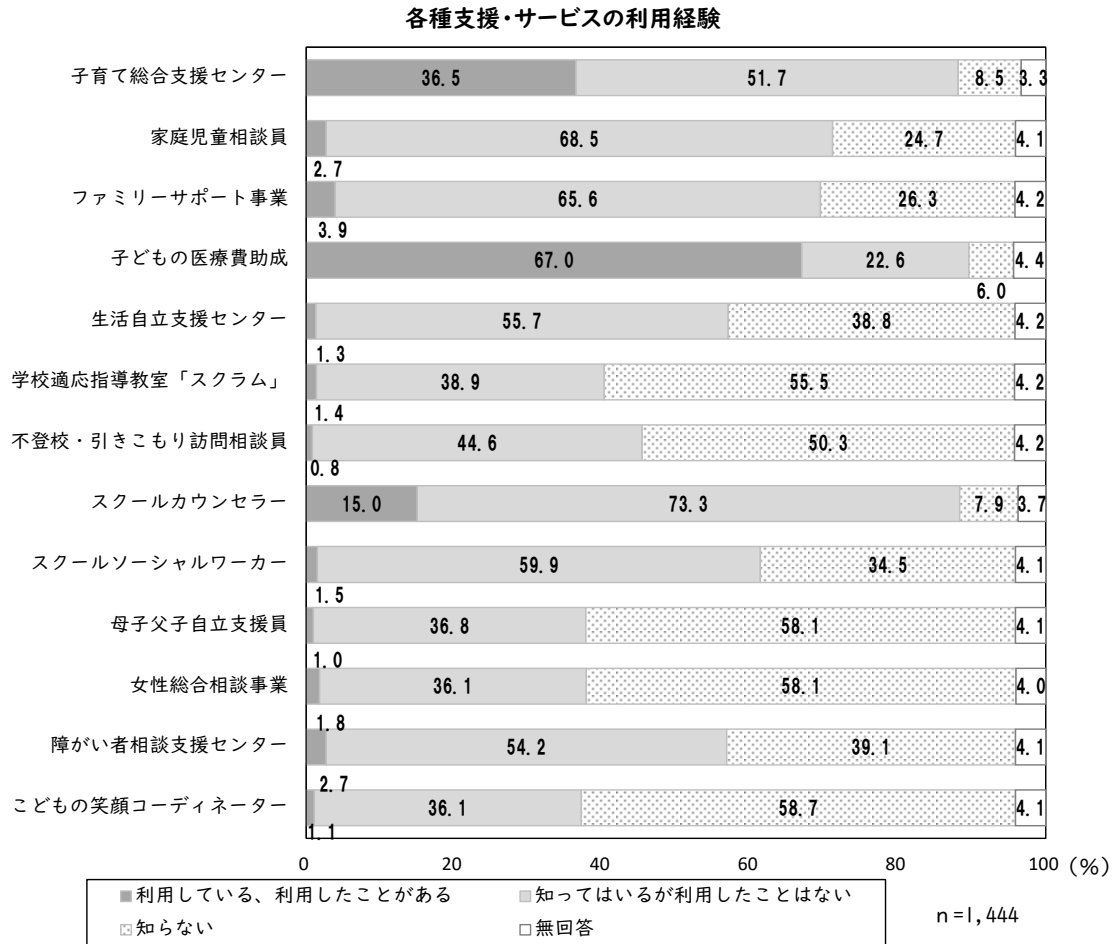
(40) 【高2の保護者】就職を考えるにあたりあれば良いと思う支援(MA)

就職を考えるにあたりあれば良いと思う支援については、最も多いのは“困難度が高い世帯”では「就職相談の窓口」で40.0%、“それ以外の世帯”では「職場体験」で60.0%となっています。次いで多いのは、「高校生、保護者向け就職説明会」で、“困難度が高い世帯”で33.3%、“それ以外の世帯”では56.0%となっています。



(41) 各種支援・サービスの利用経験(SA)

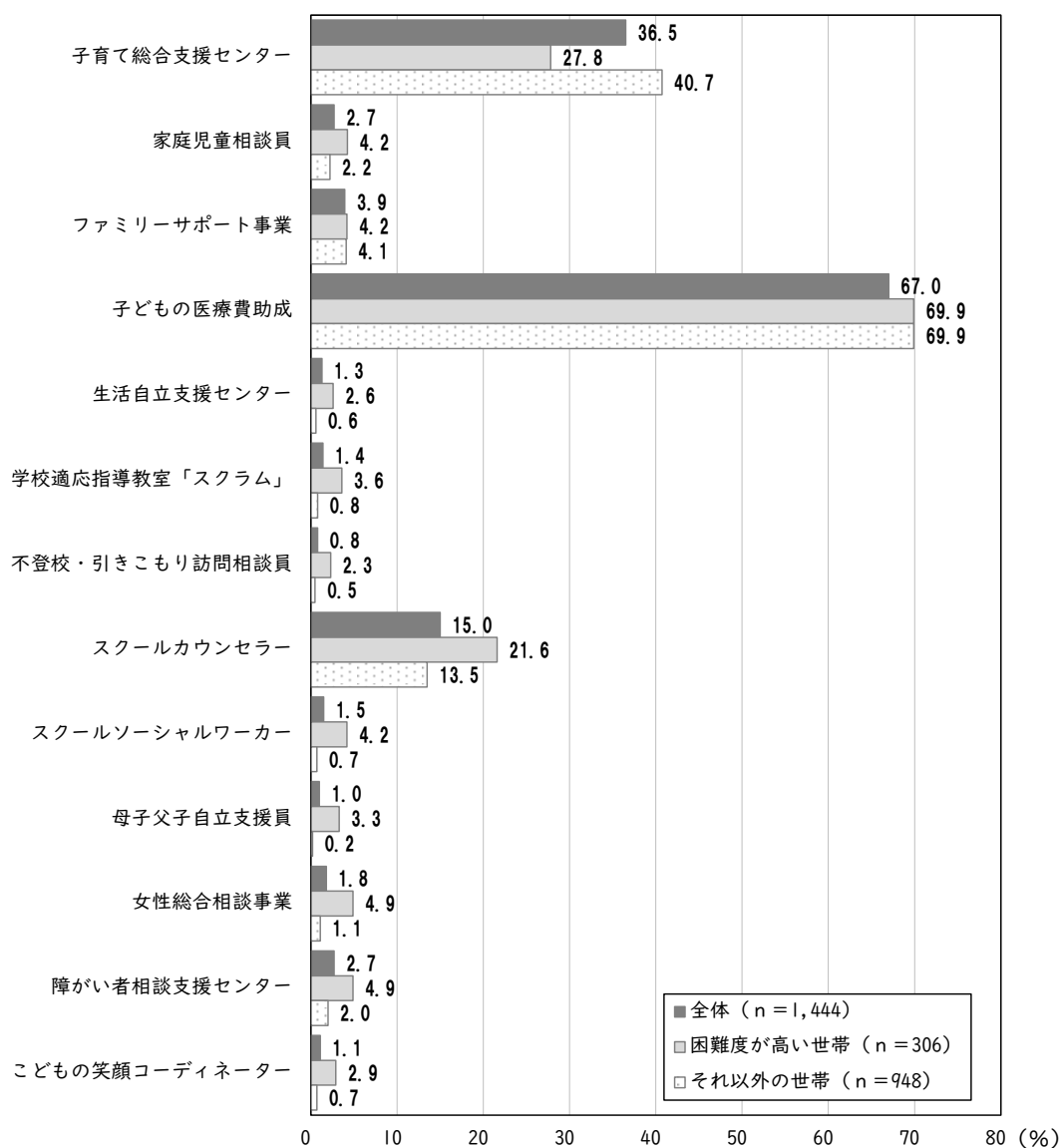
各種支援サービス（13項目）の利用経験について、サービスの性格上、利用経験の少ないものも多く、「利用している、利用したことがある」が10%以上のものは“子どもの医療費助成”67.0%、“子育て総合支援センター”36.5%、“スクールカウンセラー”15.0%の3項目のみとなっています。



各種支援サービスについて「利用している、利用したことがある」割合をみると、“困難度が高い世帯”“それ以外の世帯”ともに「子どもの医療費助成」が最も高く、次いで「子育て総合支援センター」、「スクールカウンセラー」の順となっています。

「子育て総合支援センター」以外の項目で“それ以外の世帯”よりも“困難度が高い世帯”の方が「利用している、利用したことがある」割合が高くなっています。

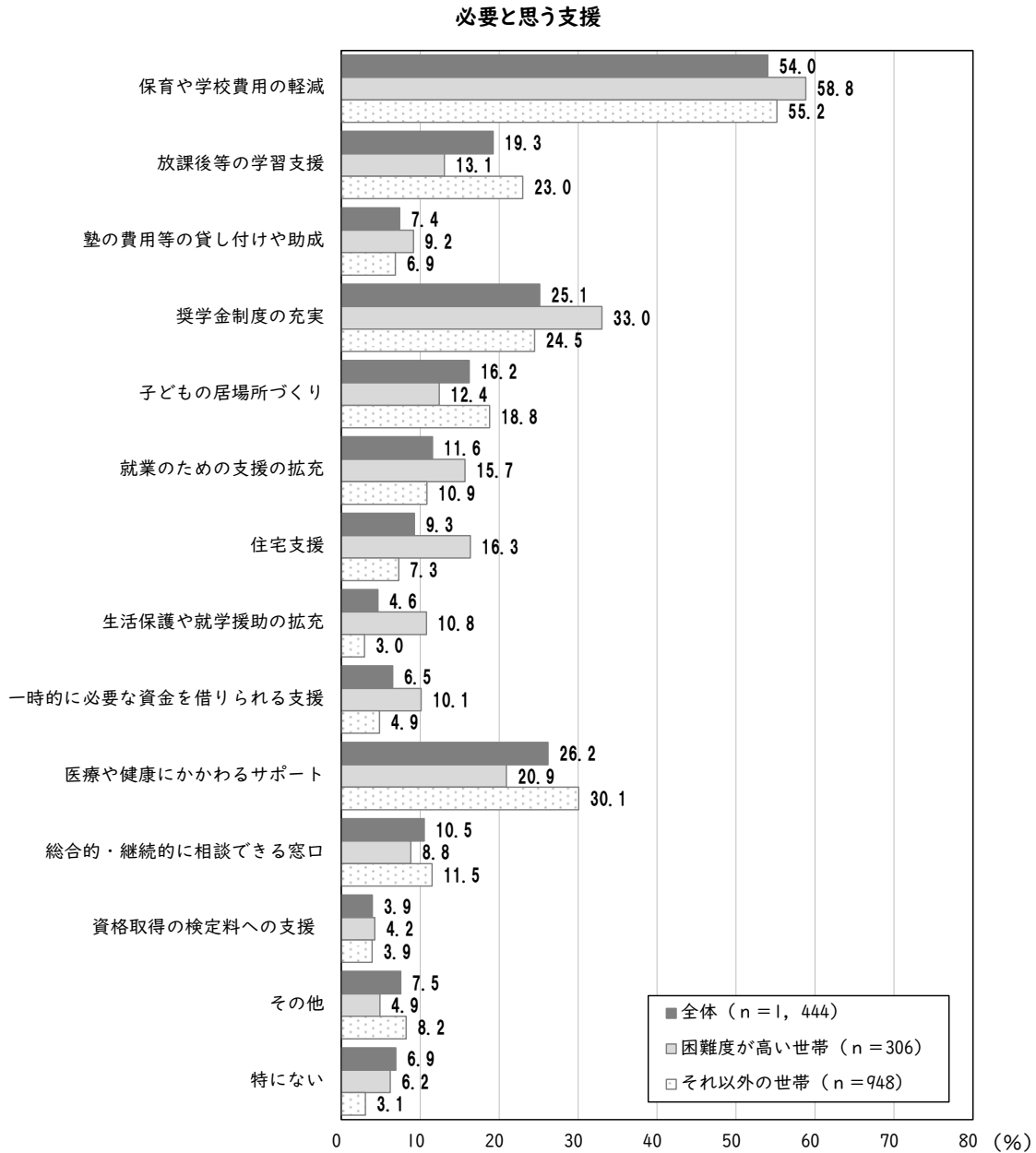
各種支援・サービスの利用経験
 <“利用している、利用したことがある”の割合>



(42) 必要と思う支援 (MA)

必要と思う支援について、「保育や学校費用の軽減」が最も多く、「困難度が高い世帯」で58.8%、「それ以外の世帯」では55.2%となっています。

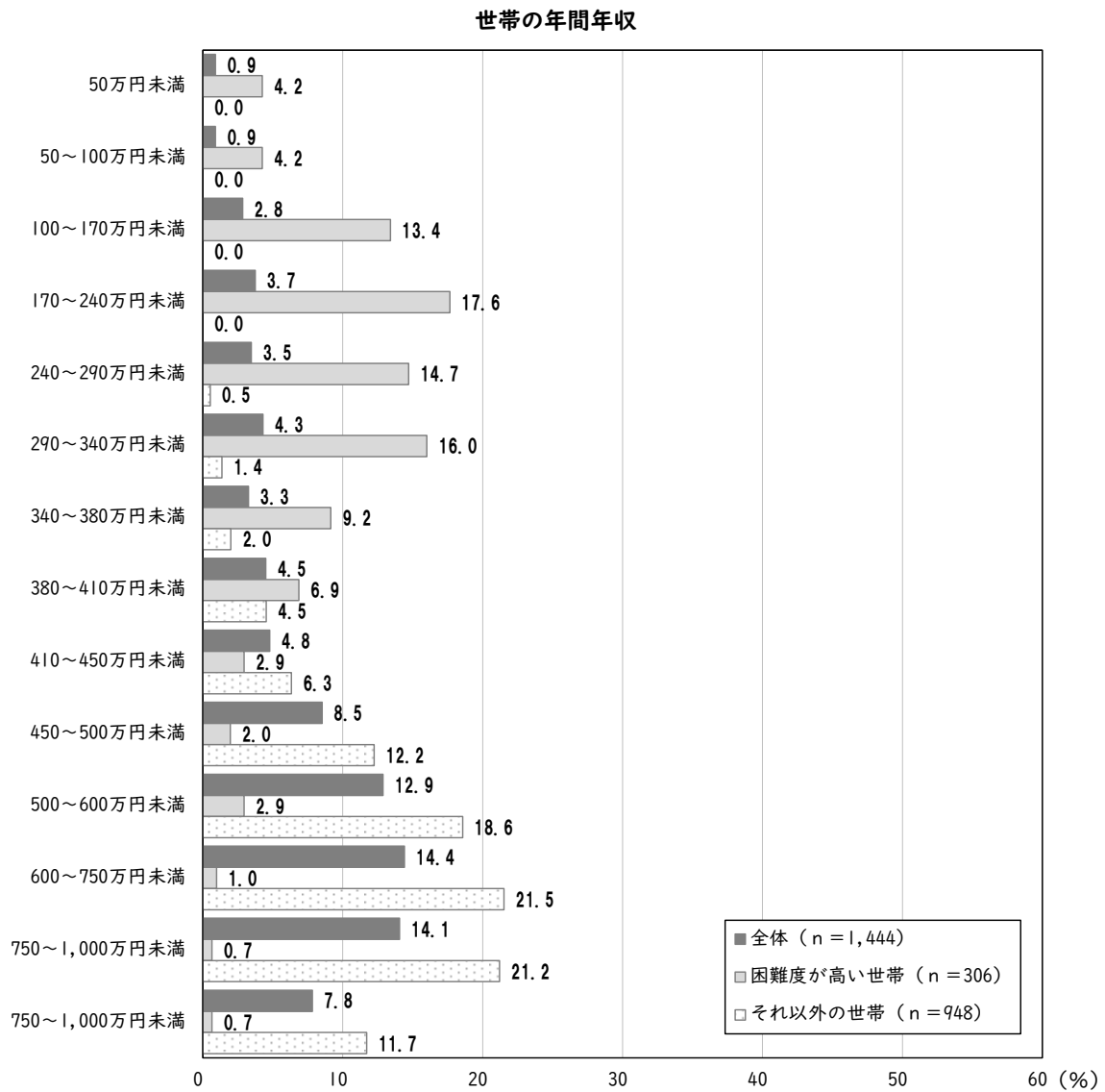
次いで多いのは、「困難度が高い世帯」では「奨学金制度の充実」33.0%、「それ以外の世帯」では「医療や健康に関わるサポート」30.1%となっています。



(43) 世帯の年間収入(SA)

世帯の年間収入について、“それ以外の世帯”では「600～750万円未満」が21.5%で最も多いのに対し、“困難度が高い世帯”では「170～240万円未満」が17.6%で最も多くなっています。

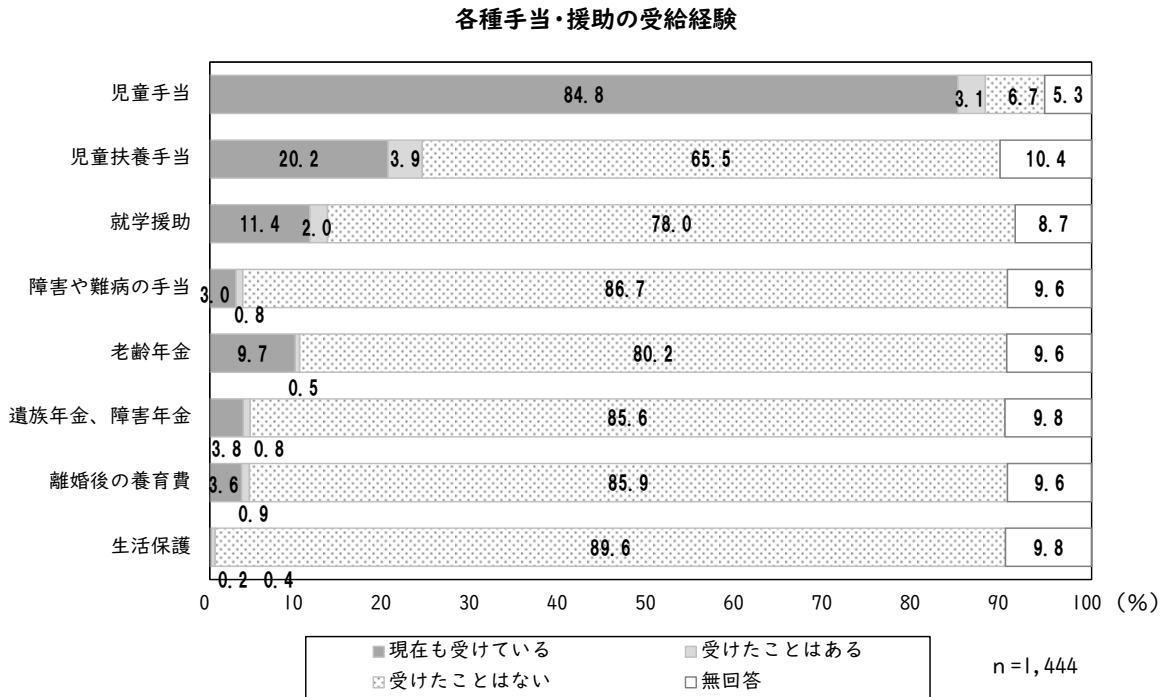
次いで多いのは、“それ以外の世帯”で「750～1,000万円未満」21.2%、“困難度が高い世帯”では「290～340万円未満」16.0%となっています。



(44) 各種手当・援助の受給経験(SA)

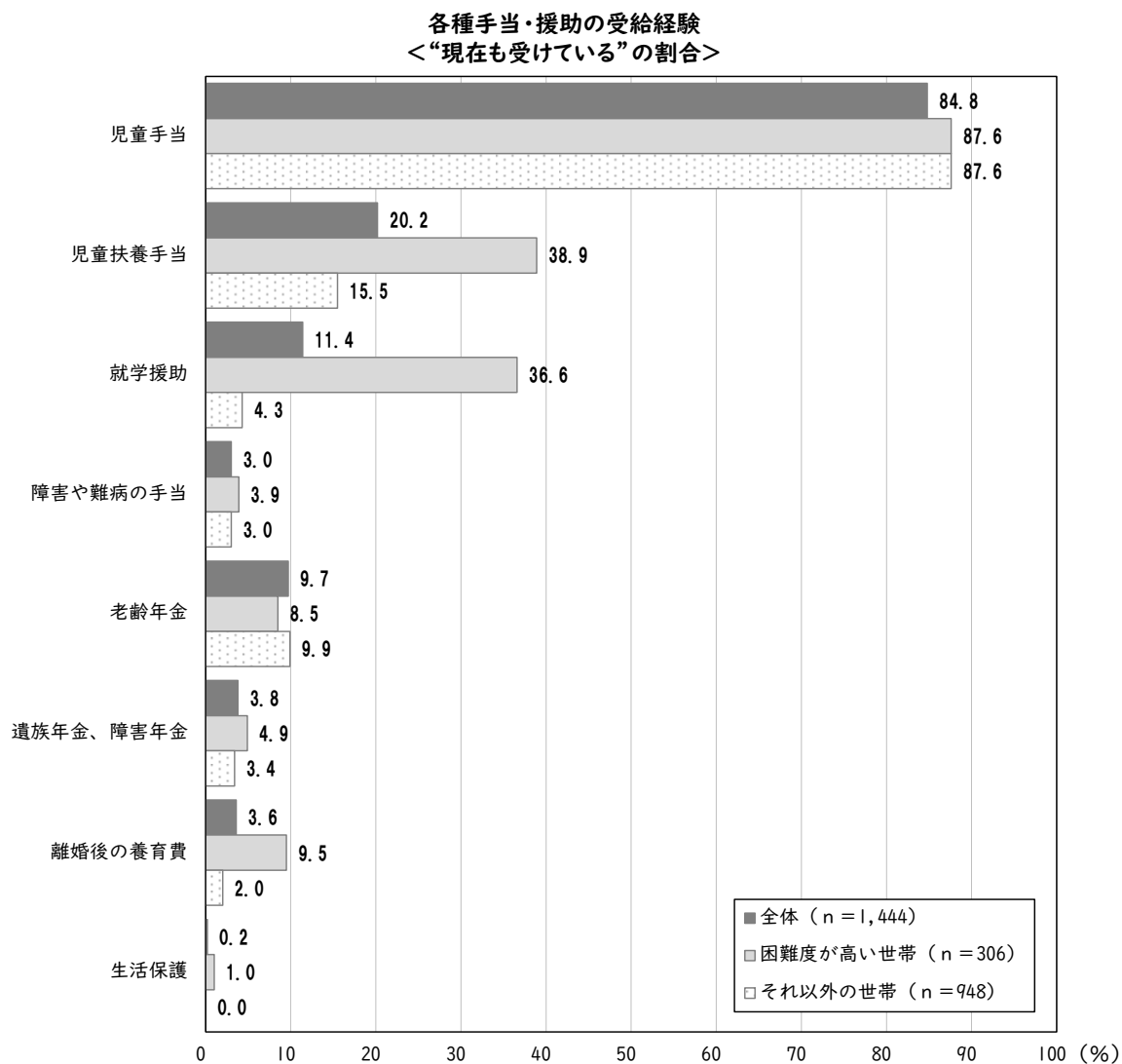
各種手当・援助（8項目）の受給経験についてみると、「現在も受けている」が最も多いのは“児童手当”84.8%で、次いで“児童扶養手当”20.2%、“就学援助”11.4%の順となっています。

“児童手当”以外については、いずれも「受けたことがない」が60%以上を占めています。



「現在も受けている」各種手当・援助は、「児童手当」が最も多く“困難度が高い世帯”・“それ以外の世帯”ともに87.6%となっています。

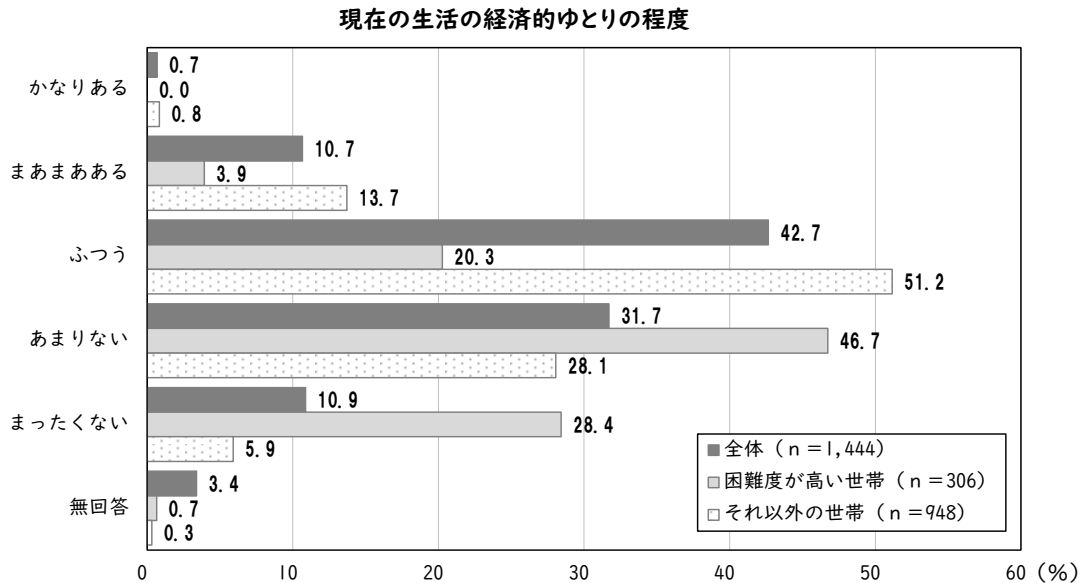
“困難度が高い世帯”ではこの他に、“児童扶養手当”38.9%、“就学援助”36.6%が多くなっています。



(45) 現在の生活の経済的ゆとりの程度 (SA)

現在の生活の経済的ゆとりの程度については、“それ以外の世帯”では「ふつう」が最も多く51.2%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では「あまりない」が46.7%で最も多くなっています。

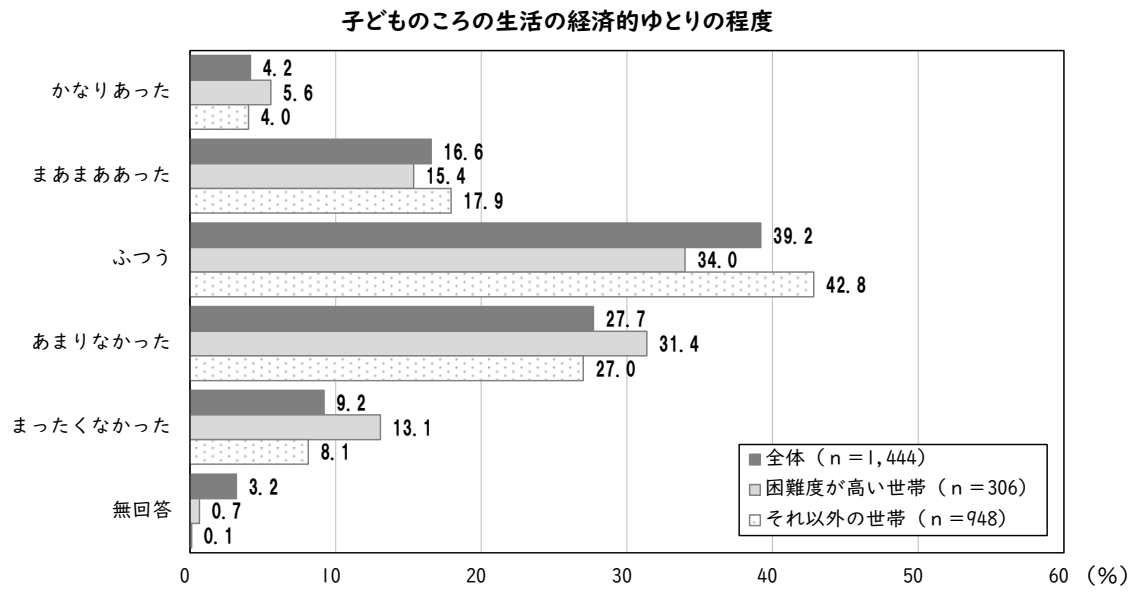
「まったくない」・「あまりない」の合計で見ると、“それ以外の世帯”では34.0%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では75.1%と2倍以上になっています。



(46) 子どものころの生活の経済的ゆとりの程度 (SA)

子どものころの生活の経済的ゆとりの程度については、「ふつう」が最も多く、「困難度が高い世帯」で34.0%、「それ以外の世帯」では42.8%となっています。

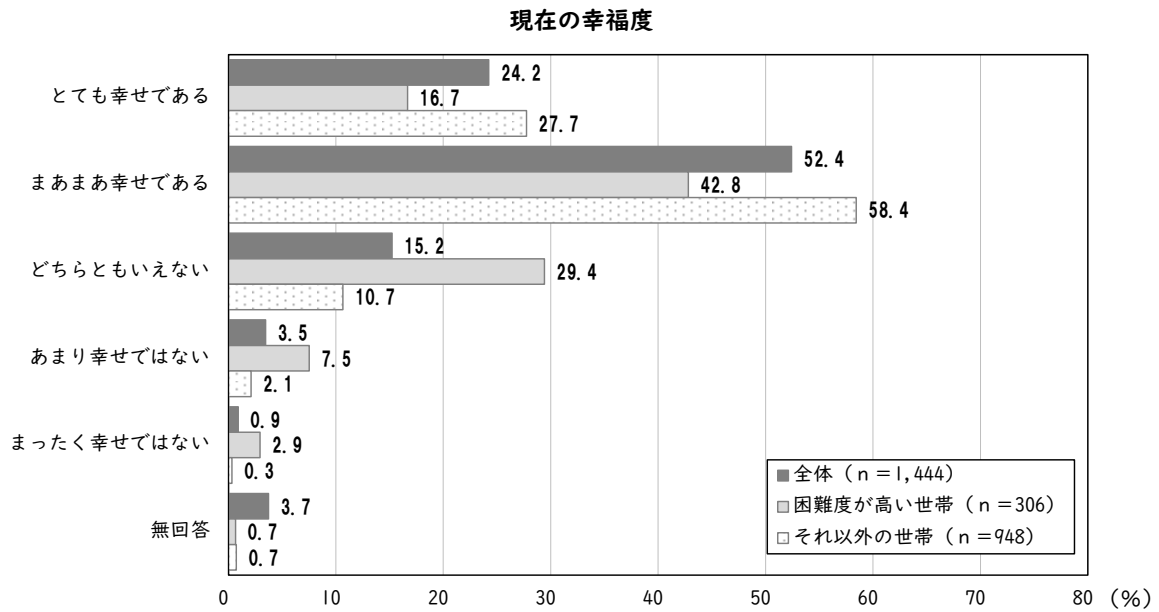
「まったくなかった」・「あまりなかった」の合計で見ると、「それ以外の世帯」では35.1%であるのに対し、「困難度が高い世帯」では44.5%となっています。



(47) 現在の幸福度 (SA)

現在の幸福度について、「まあまあ幸せである」が最も多く、“困難度が高い世帯”で42.8%、“それ以外の世帯”では58.4%となっています。

「まあまあ幸せである」・「とても幸せである」との合計で見ると、“困難度が高い世帯”では59.5%、“それ以外の世帯”では86.1%となっています。

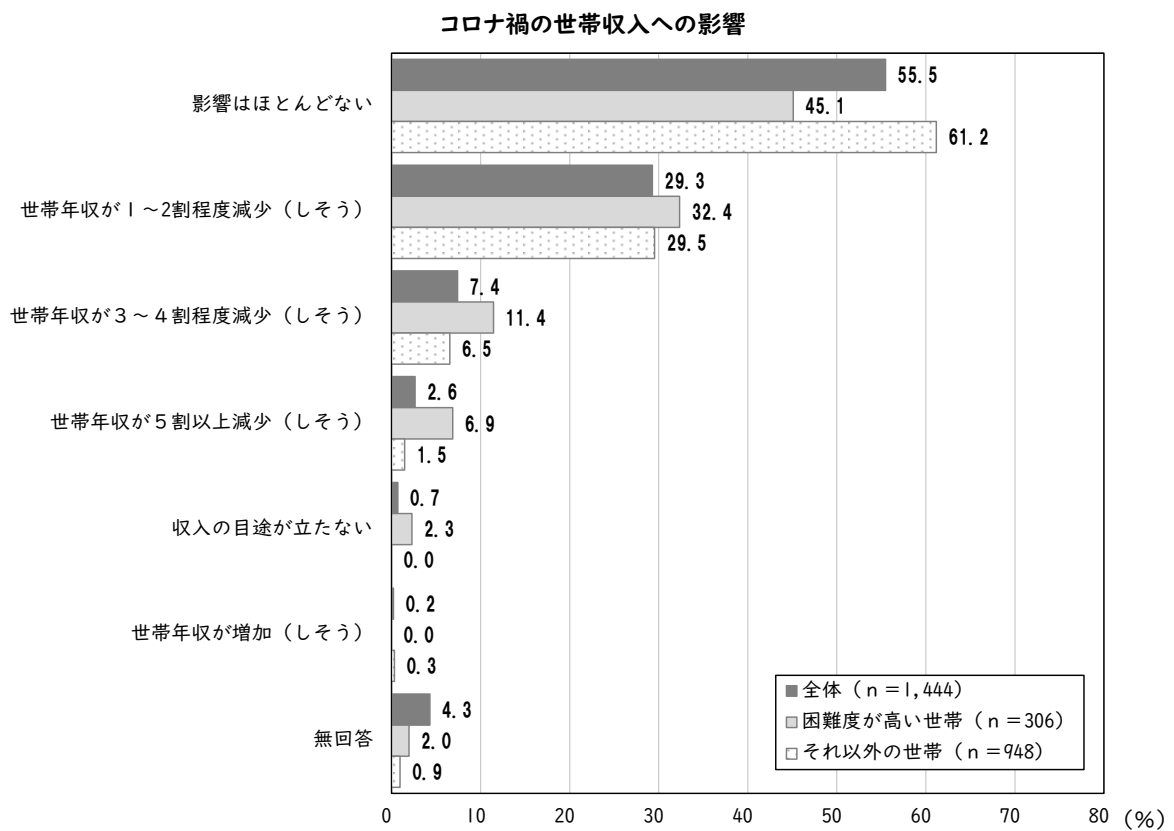


(48) コロナ禍の世帯収入への影響 (SA)

コロナ禍の世帯収入への影響については、「影響はほとんどない」が最も多く、「困難度が高い世帯」で45.1%、「それ以外の世帯」では61.2%となっています。

次いで多いのは、「世帯年収が1～2割程度減少（しそう）」で「困難度が高い世帯」32.4%、「それ以外の世帯」29.5%となっています。

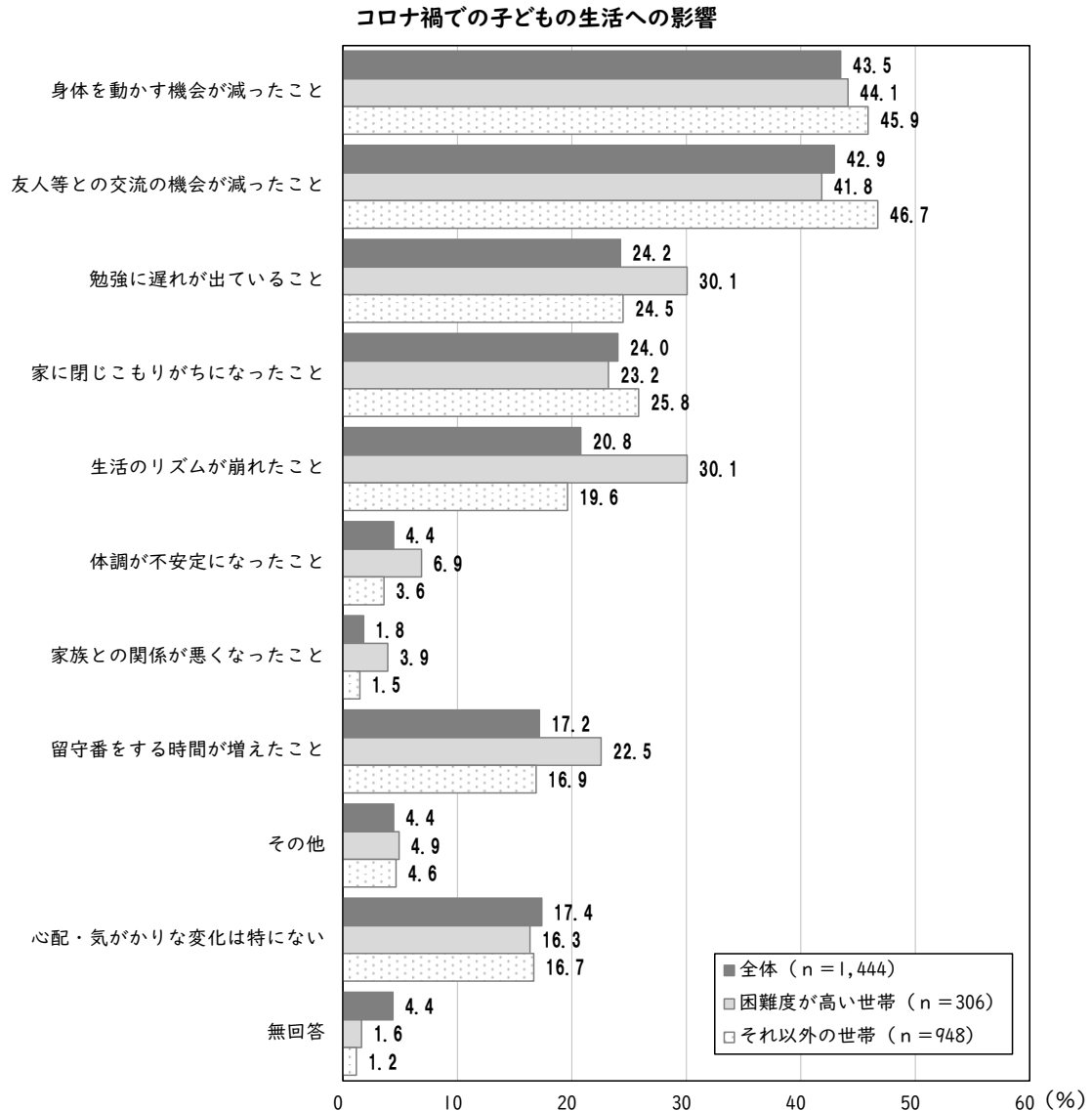
『世帯年収が減少（しそう）』（「世帯年収が1～2割減少（しそう）」、「世帯年収が3～4割減少（しそう）」、「世帯年収が5割以上減少（しそう）」の合計）についてみると、「それ以外の世帯」37.5%に対し、「困難度が高い世帯」では、50.7%と、「困難度が高い世帯」では半数以上の世帯で世帯年収が減少（しそう）している結果となりました。



(49) コロナ禍での子どもの生活への影響 (MA)

コロナ禍での子どもの生活への影響について、“困難度が高い世帯”では「身体を動かす機会が減ったこと」が44.1で最も多く、“それ以外の世帯”では「友人等との交流の機会が減ったこと」が46.7%と最も多くなっています。

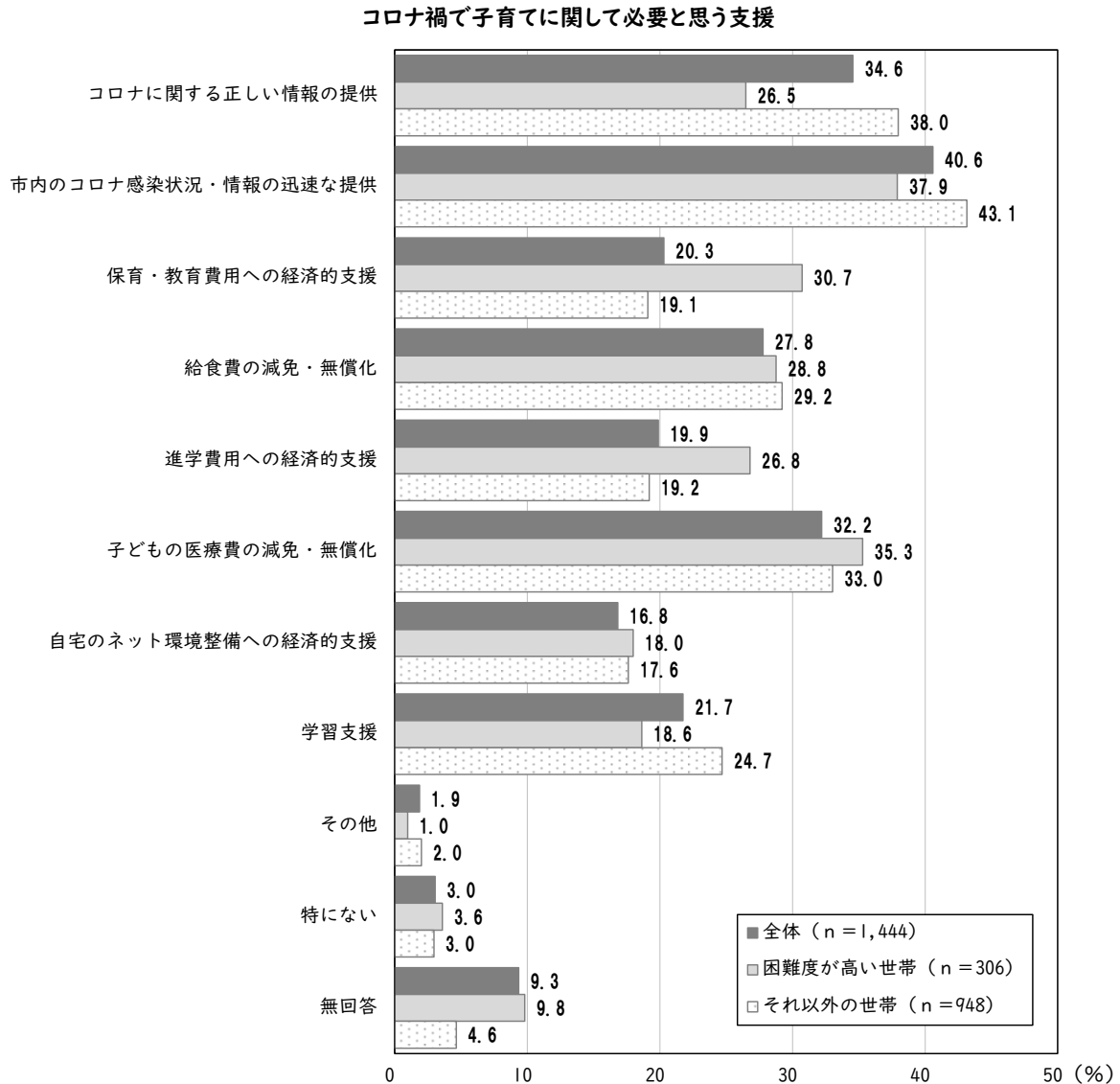
また、“困難度が高い世帯”では、「勉強に遅れが出ていること」30.1%、「生活のリズムが崩れたこと」30.1%、「留守番をする機会が増えたこと」22.5%が“それ以外の世帯”と比べて多くなっています。



(50) コロナ禍で子育てに関して必要と思う支援(MA)

コロナ禍で子育てに関して必要と思う支援について、「市内のコロナ感染状況・情報の迅速な提供」が最も多く、「困難度が高い世帯」で37.9%、「それ以外の世帯」では43.1%となっています。

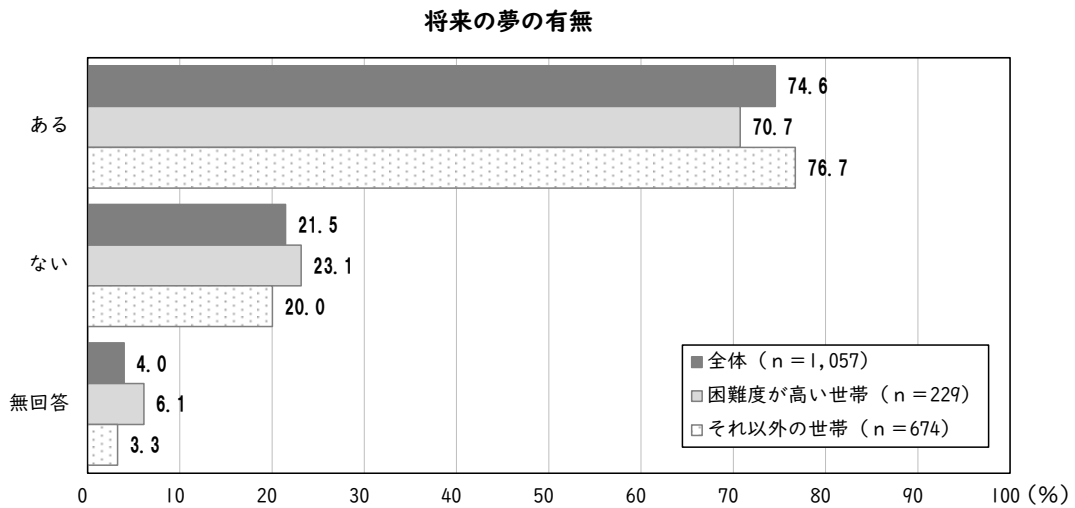
次いで多いのは、「困難度が高い世帯」では「子どもの医療費の減免・無償化」35.3%、「それ以外の世帯」では「コロナに関する正しい情報の提供」38.0%となっています。



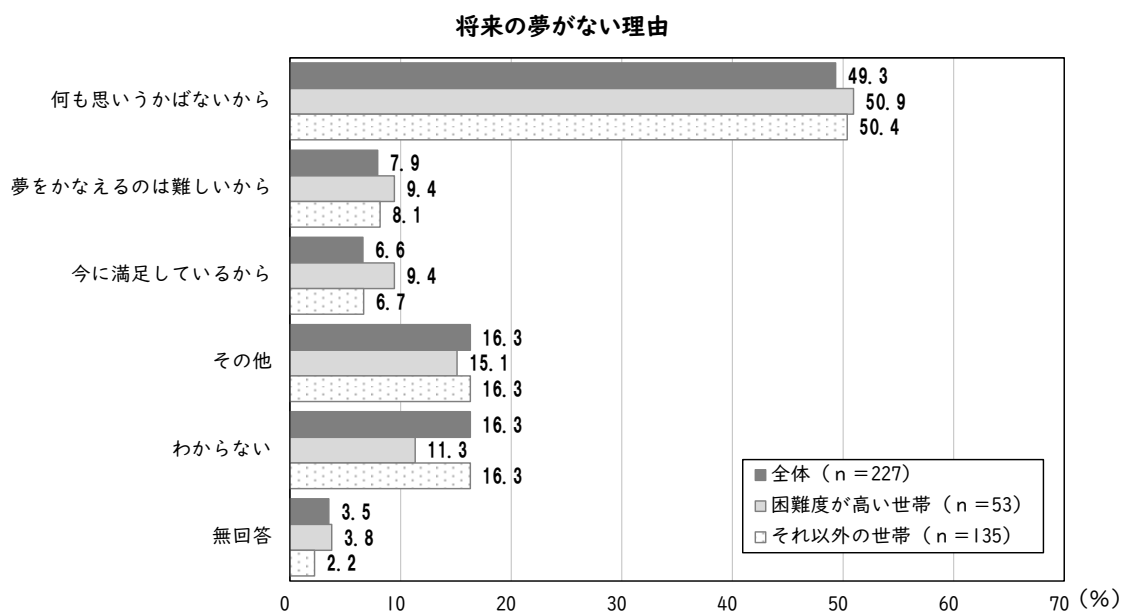
4 子ども向け調査の集計・分析

(1) 将来の夢の有無 (SA)と夢がない理由 (SA)

将来の夢については、“全体”で「ある」が74.6%、「ない」が21.5%となっています。

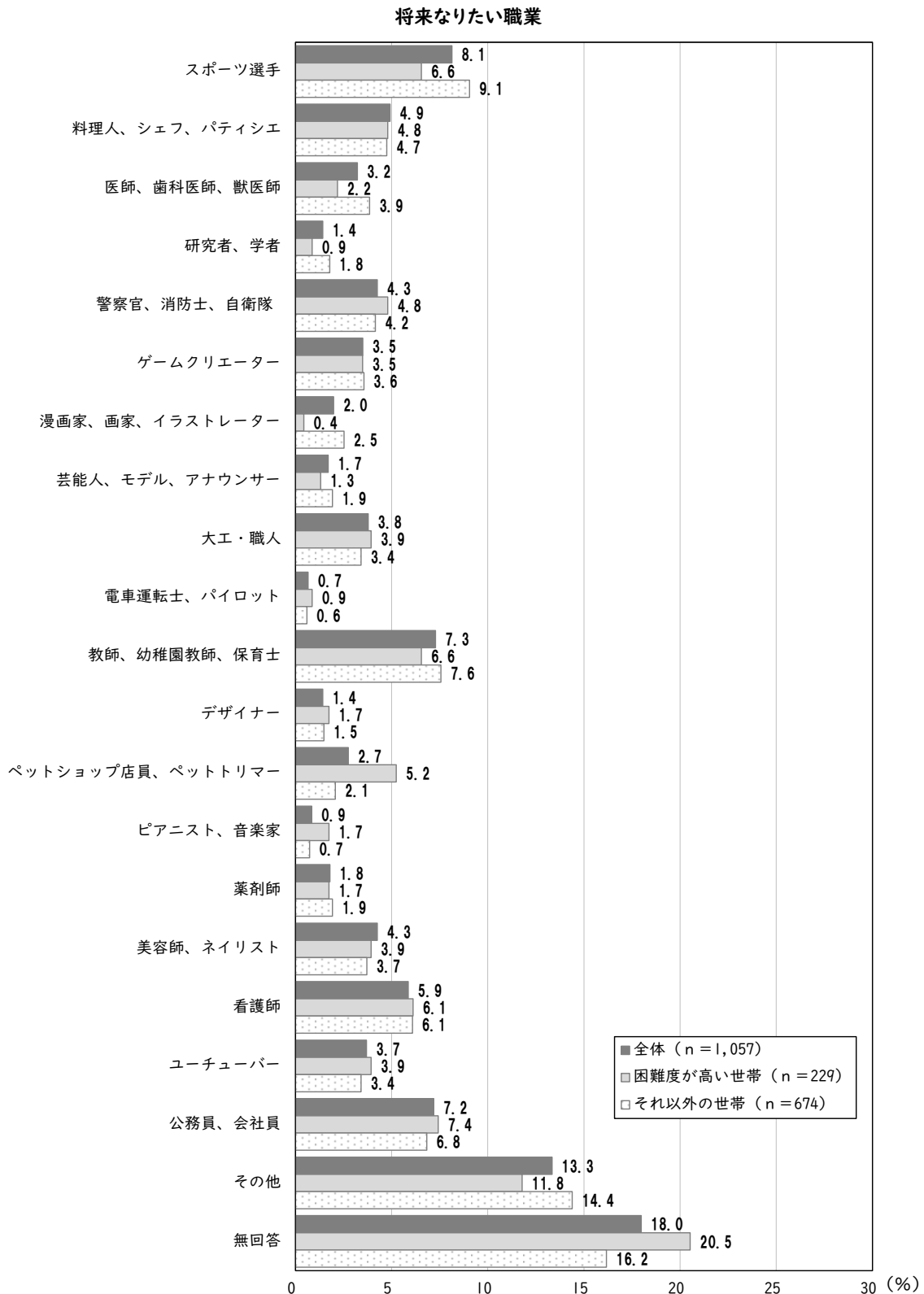


将来の夢がない理由としては、“全体”で「何も思いうかばないから」が最も多く、49.3%となっています。



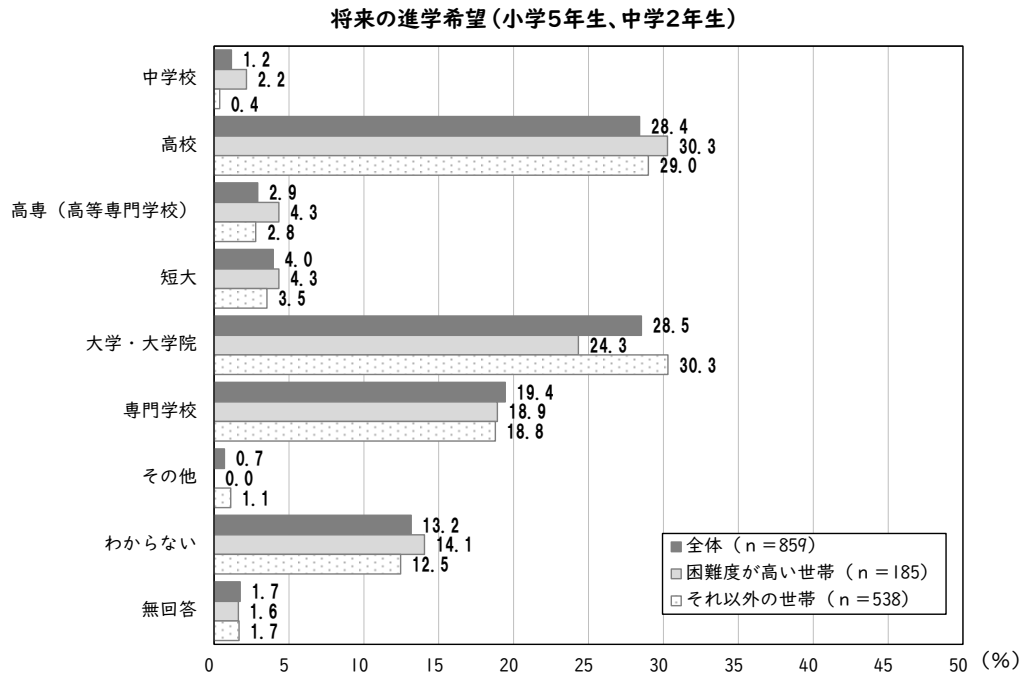
(2) 将来なりたい職業 (SA)

将来なりたい職業については、「無回答」や「その他」を除くと、最も多いのは“困難度が高い世帯”で「公務員、会社員」が7.4%、“それ以外の世帯”では「スポーツ選手」が9.1%となっています。次いで多いのは、“困難度が高い世帯”で「スポーツ選手」・「教師、幼稚園教師、保育士」が6.6%で同率、“それ以外の世帯”では「教師、幼稚園教師、保育士」が7.6%、となっています。

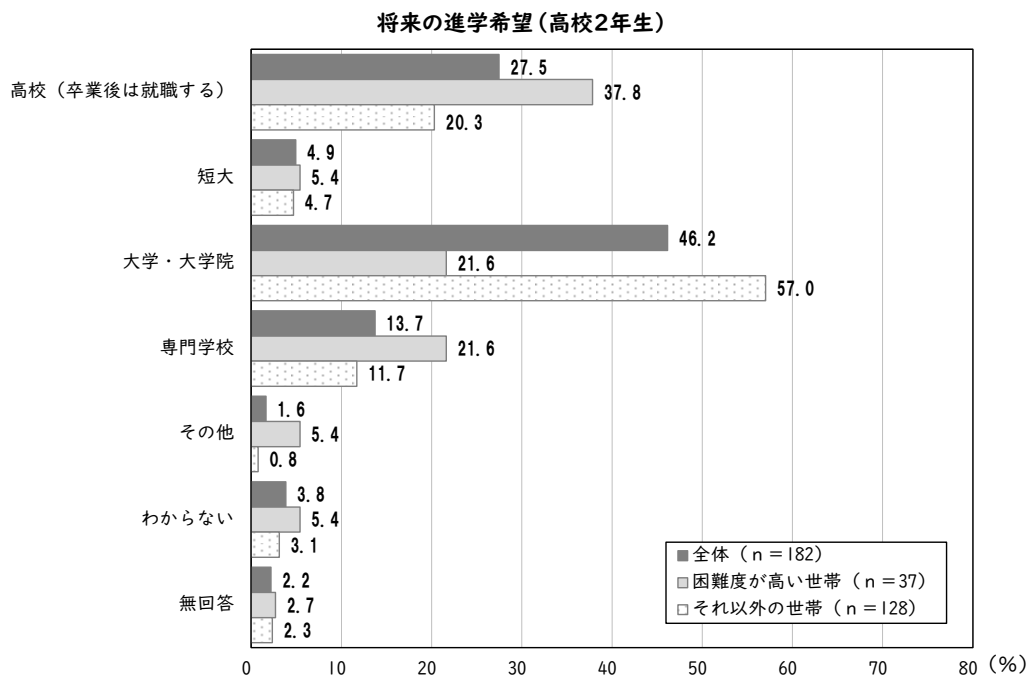


(3) 将来の進学希望 (SA)

小学5年生・中学2年生の将来の進学希望についてみると、“それ以外の世帯”では「大学・大学院」が30.3%で最も多く、次いで「高校」29.0%となっているのに対し、“困難度が高い世帯”では「高校」が30.3%で最も多く、次いで「大学・大学院」24.3%となっています。

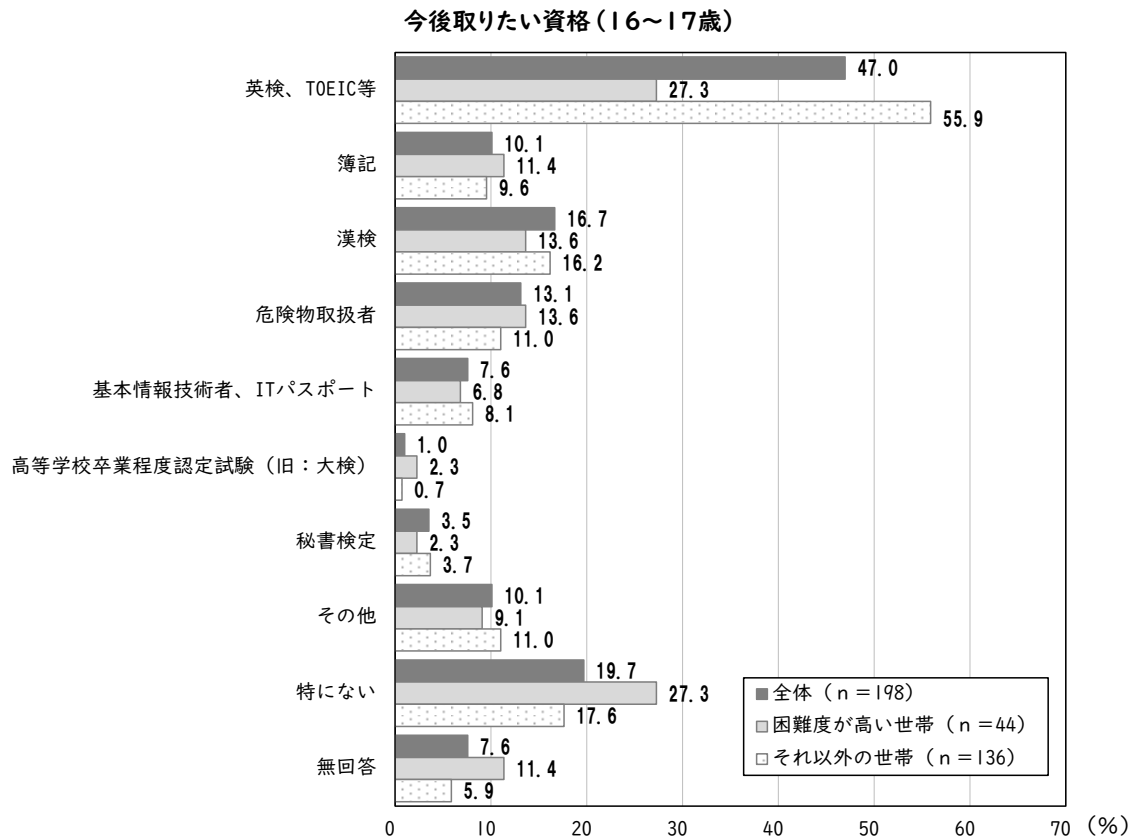


高校2年生の将来の進学希望については、“それ以外の世帯”では「大学・大学院」が57.0%で最も多く、次いで「高校」が20.3%となっているのに対し、“困難度が高い世帯”では「高校」が37.8%で最も多く、次いで、「大学・大学院」・「専門学校」が21.6%で同率となっています。



(4)【16～17歳】今後とりたい資格(MA)

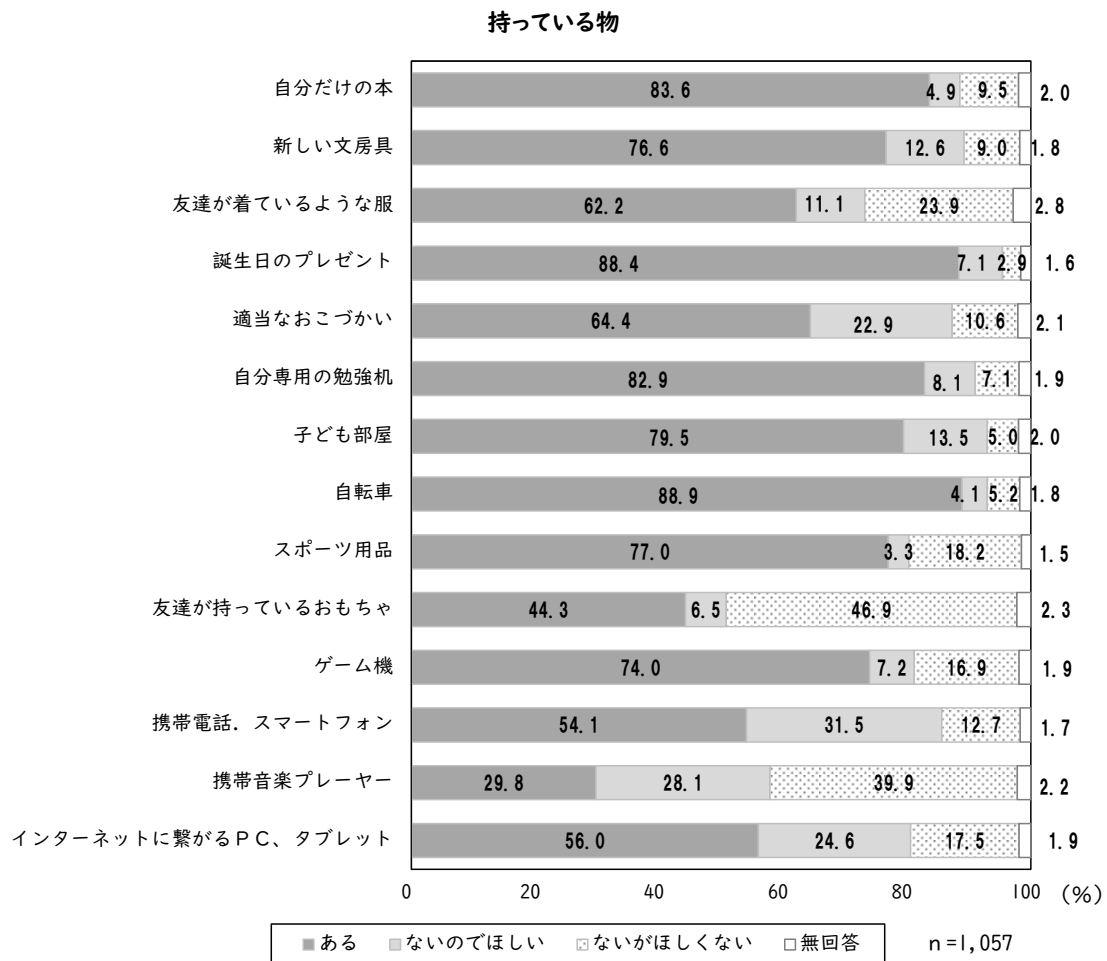
今後とりたい資格は、「英検、TOEIC等」が最も多く、「困難度が高い世帯」で27.3%、「それ以外の世帯」では55.9%となっています。また、「困難度が高い世帯」では「英検、TOEIC等」の他に「特にない」も27.3%で同率となっています。



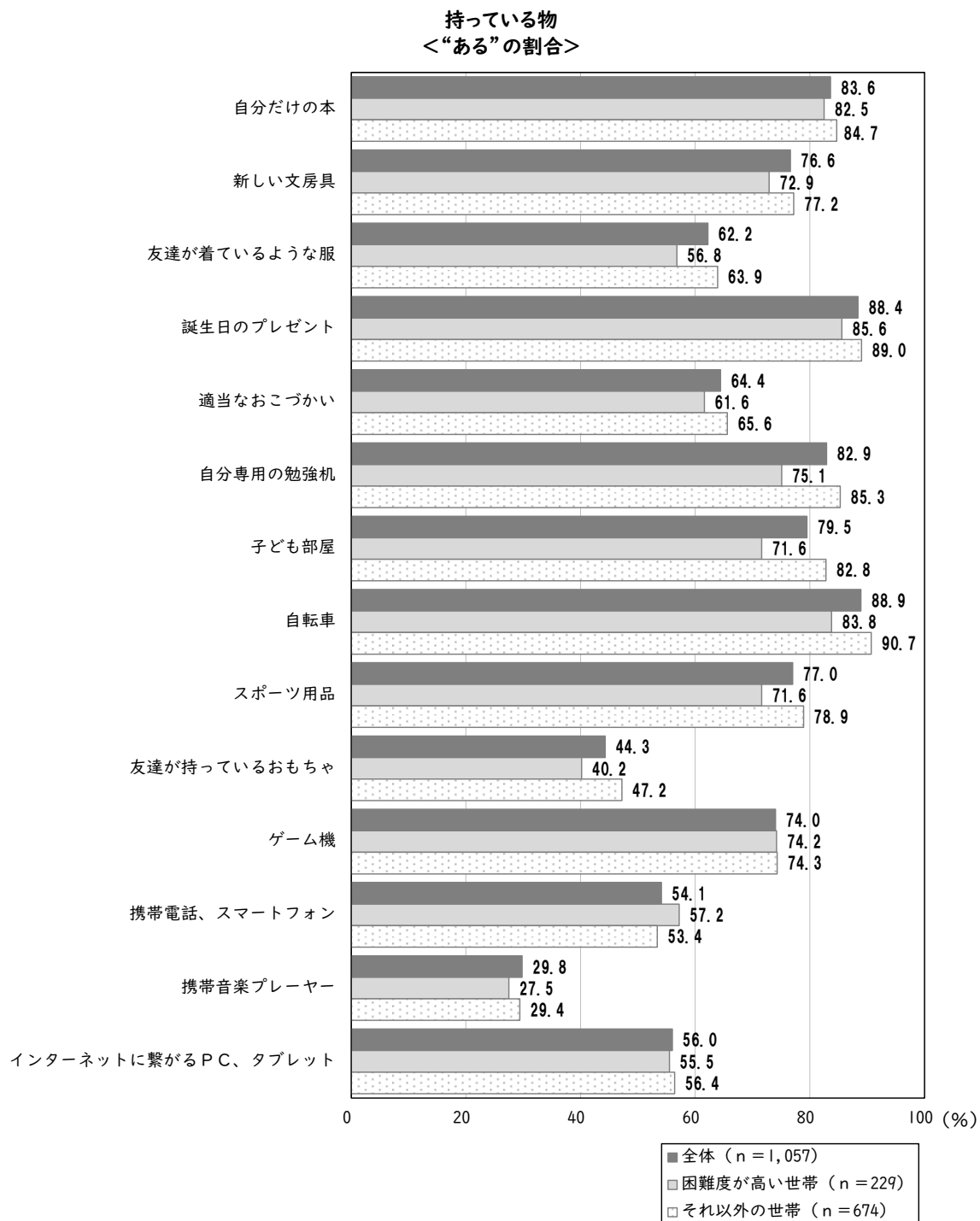
(5) 持っている物(SA)

持っている物について、「ある」が最も多いのは“自転車”で88.9%、次いで“誕生日のプレゼント”88.4%となっています。

逆に少ないのは、“携帯音楽プレーヤー”29.8%、“友達が持っているおもちゃ”44.3%などとなっています。



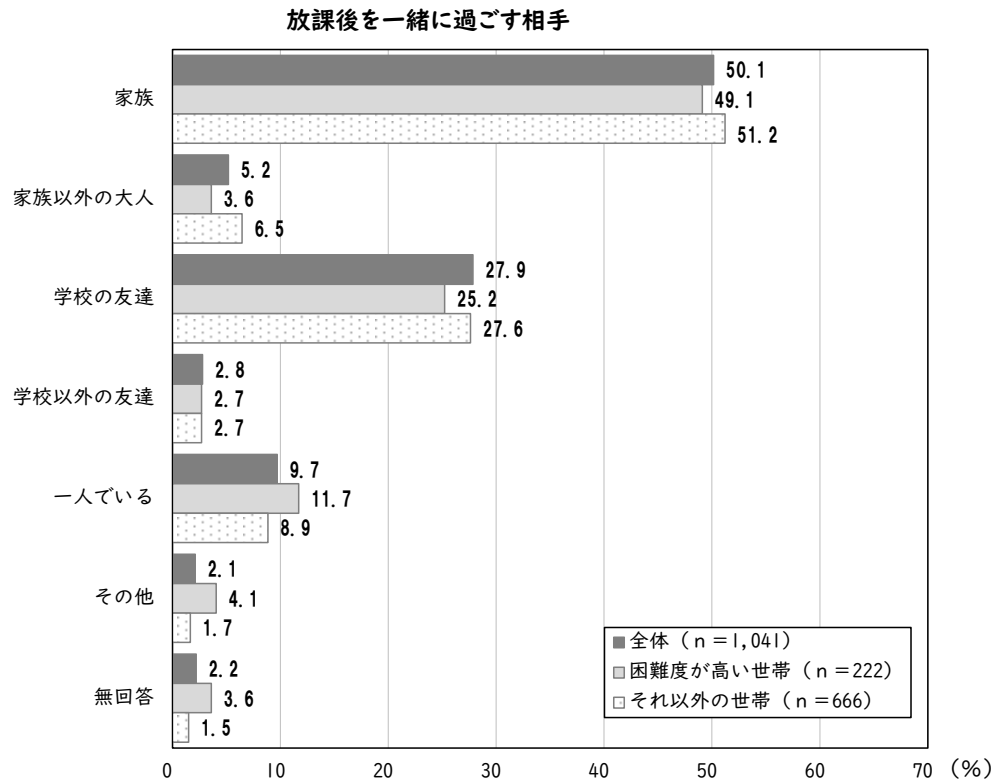
「ある」の割合について、“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”の方が総じて低い状況ですが、“携帯電話、スマートフォン”については“それ以外の世帯”の53.4%に対して“困難度が高い世帯”では57.2%と高くなっています。



(6) 放課後を一緒に過ごす相手 (SA)

放課後を一緒に過ごす相手について、「家族」が最も多く、“困難度が高い世帯”で49.1%、“それ以外の世帯”では51.2%となっています。

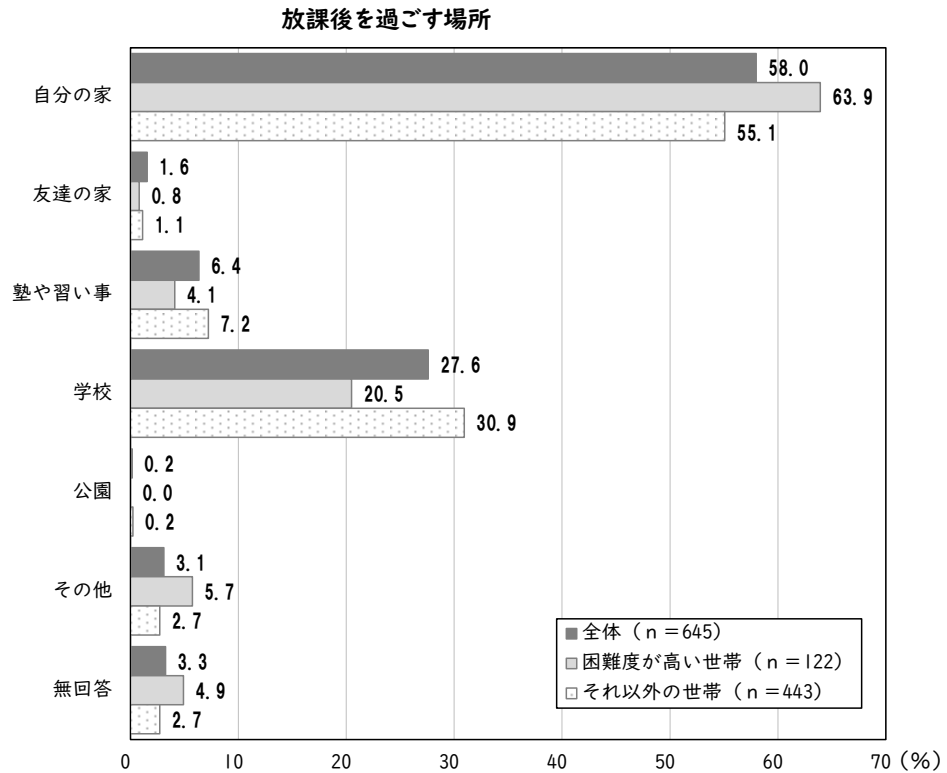
“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”では「一人でのいる」が多くなっています。



(7) 放課後を過ごす場所 (SA)

放課後を過ごす場所について、「自分の家」が最も多く、“困難度が高い世帯”で63.9%、“それ以外の世帯”では55.1%となっています。

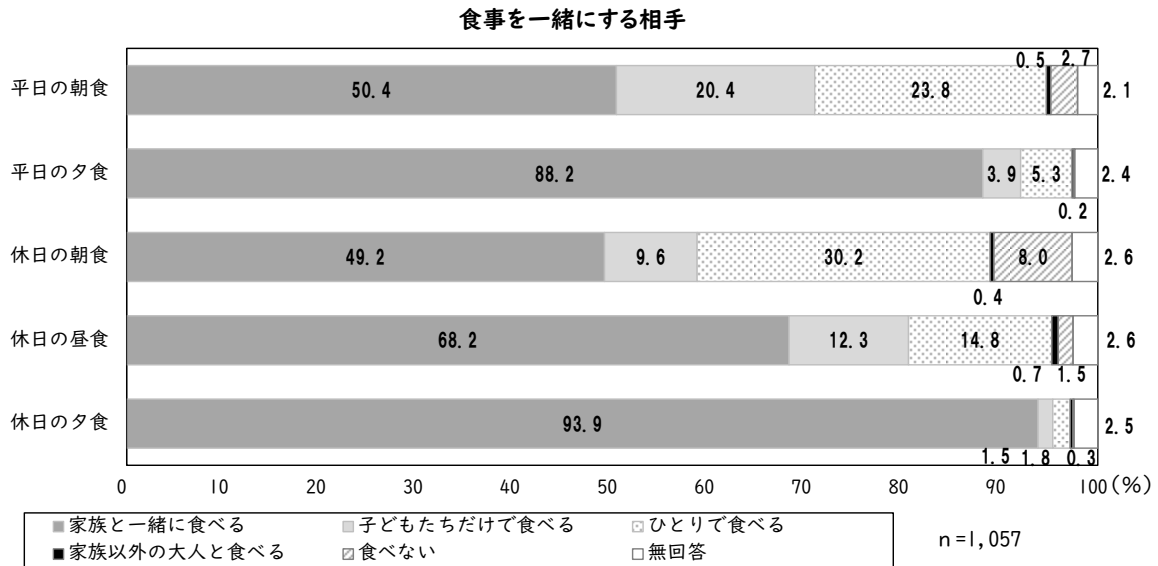
“それ以外の世帯”に比べて“困難度が高い世帯”では「自分の家」が多く、「学校」や「塾や習い事」などが少なくなっています。



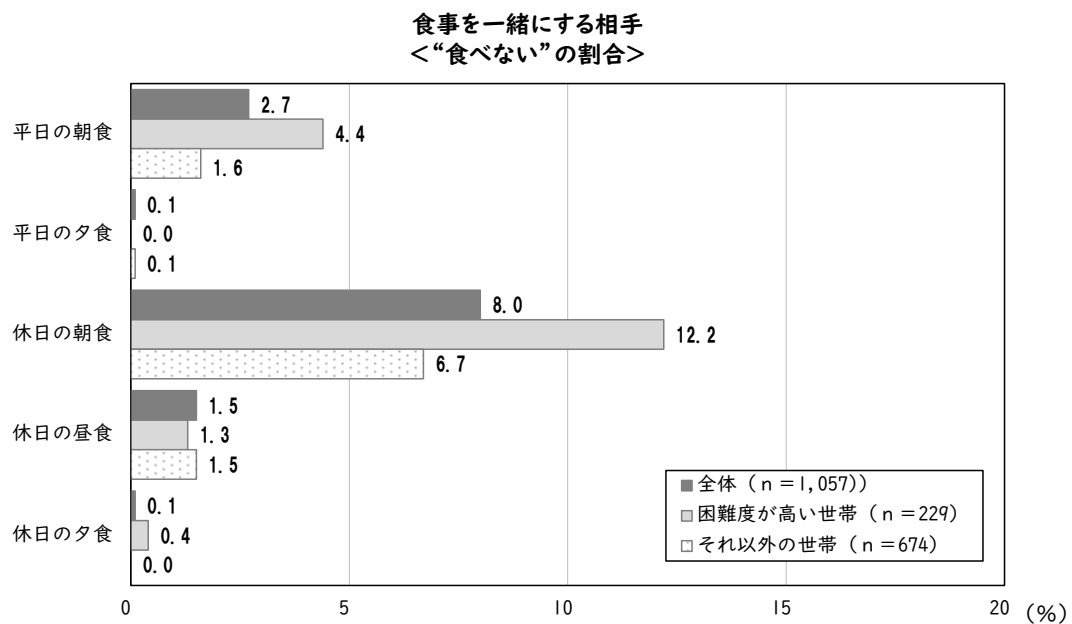
(8) 食事を一緒にする相手 (SA)

食事を一緒にする相手について、「家族と一緒に食べる」機会が最も多いのは“休日の夕食”で93.9%、次いで“平日の夕食”で88.2%となっています。

逆に、「子どもたちだけで食べる」・「ひとりで食べる」機会が最も多いのは“平日の朝食”で、44.2%となっています。

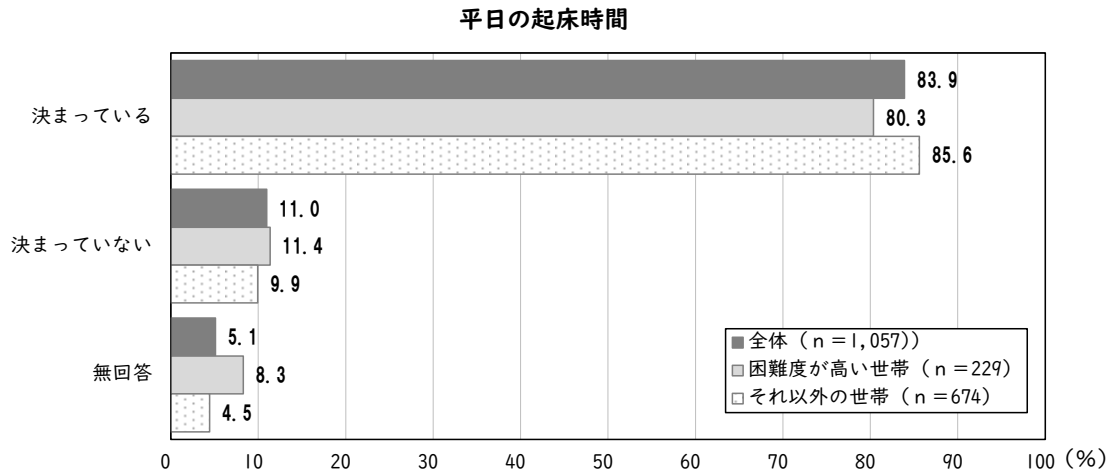


「食べない」割合をみると、“困難度が高い世帯”では“休日の朝食”が12.2%、“平日の朝食”が4.4%となっています。



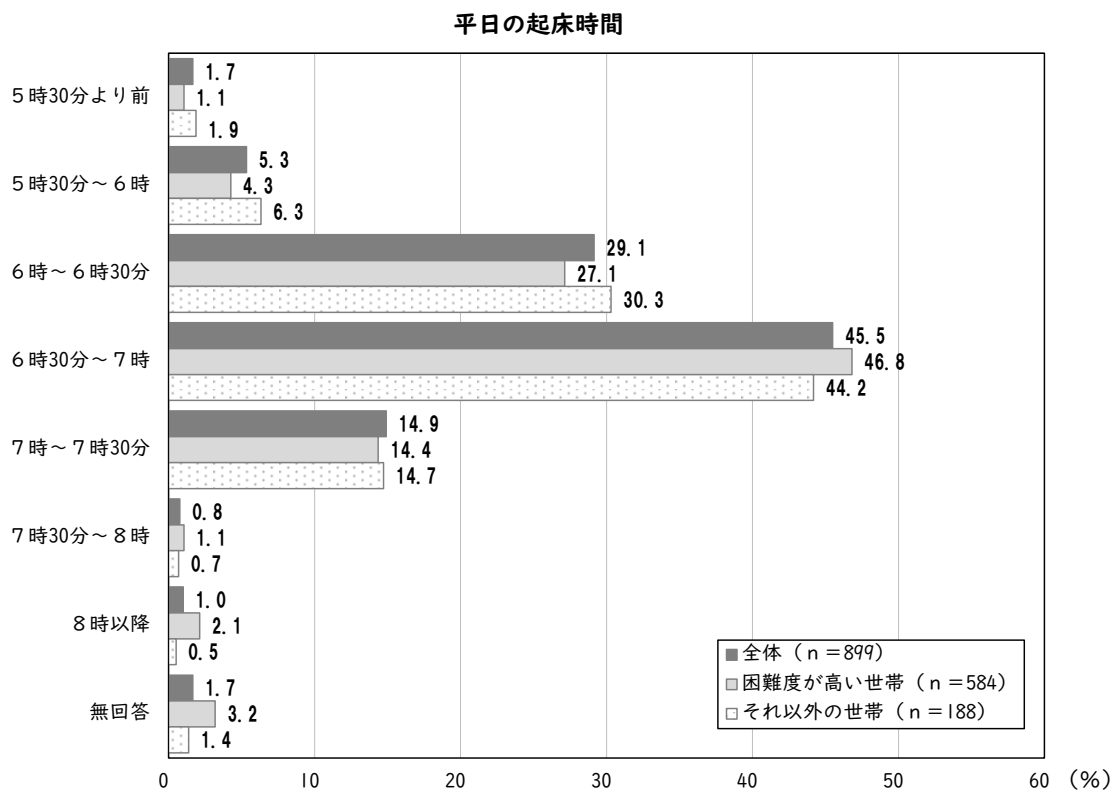
(9) 平日の起床時間・就寝時間 (SA)

平日の起床時間について、「決まっている」が“困難度が高い世帯”で80.3%、“それ以外の世帯”では85.6%となっています

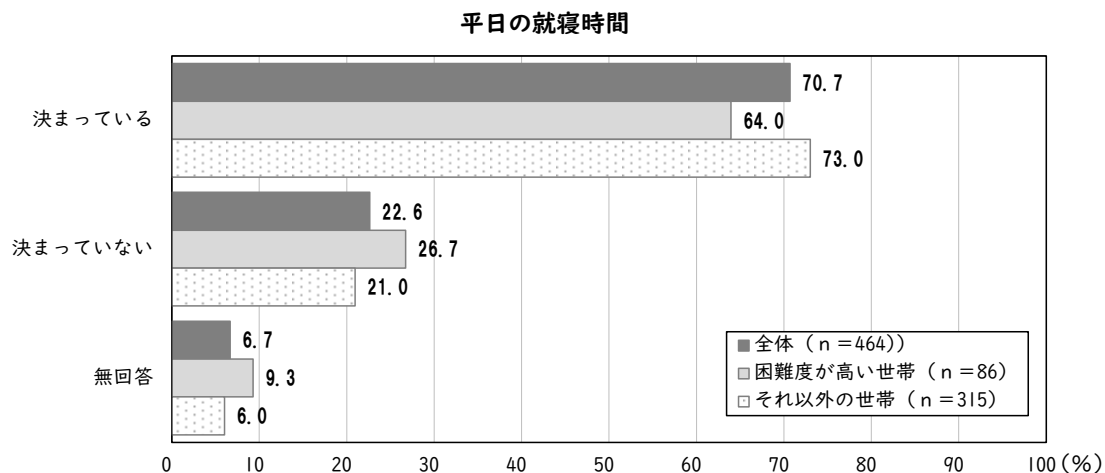


「決まっている」起床時間については、「6時30分～7時」が最も多く、“困難度が高い世帯”で46.8%、“それ以外の世帯”では44.2%となっています。

次いで多いのは「6時～6時30分」で、“困難度が高い世帯”27.1%、“それ以外の世帯”30.3%となっています。

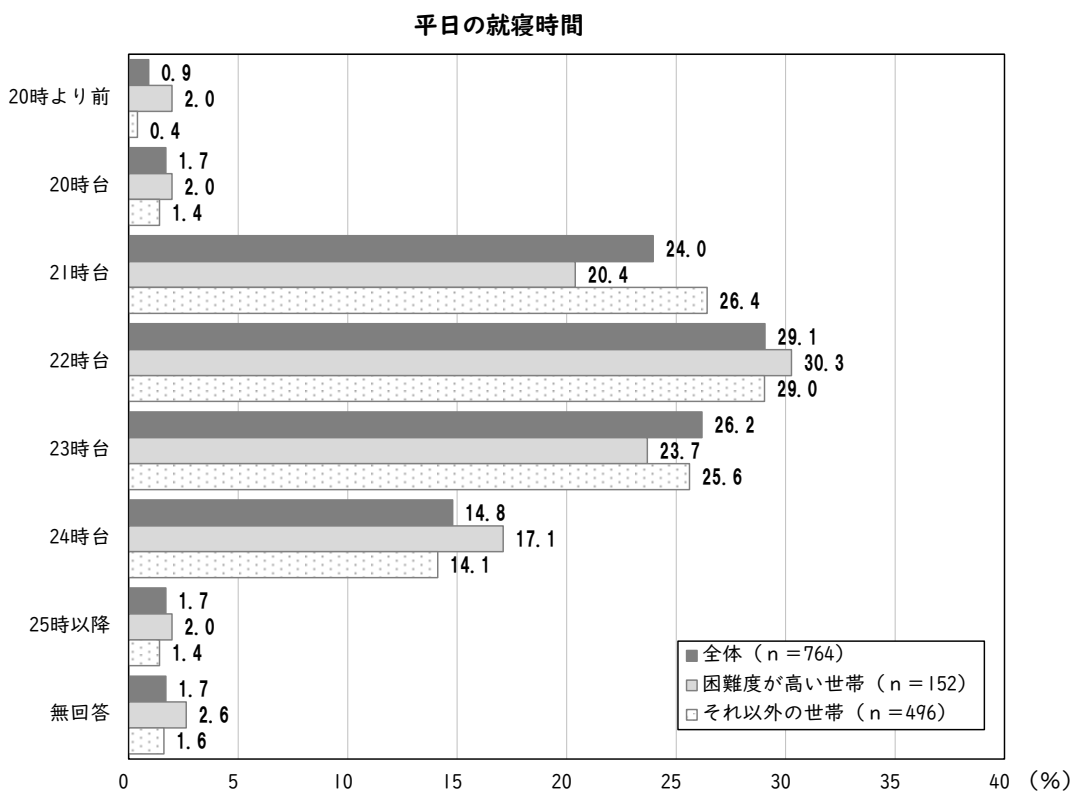


平日の就寝時間について、「決まっている」が“困難度が高い世帯”で64.0%、“それ以外の世帯”では73.0%となっており、起床時間に比べると「決まっている」割合がいずれも低くなっています。



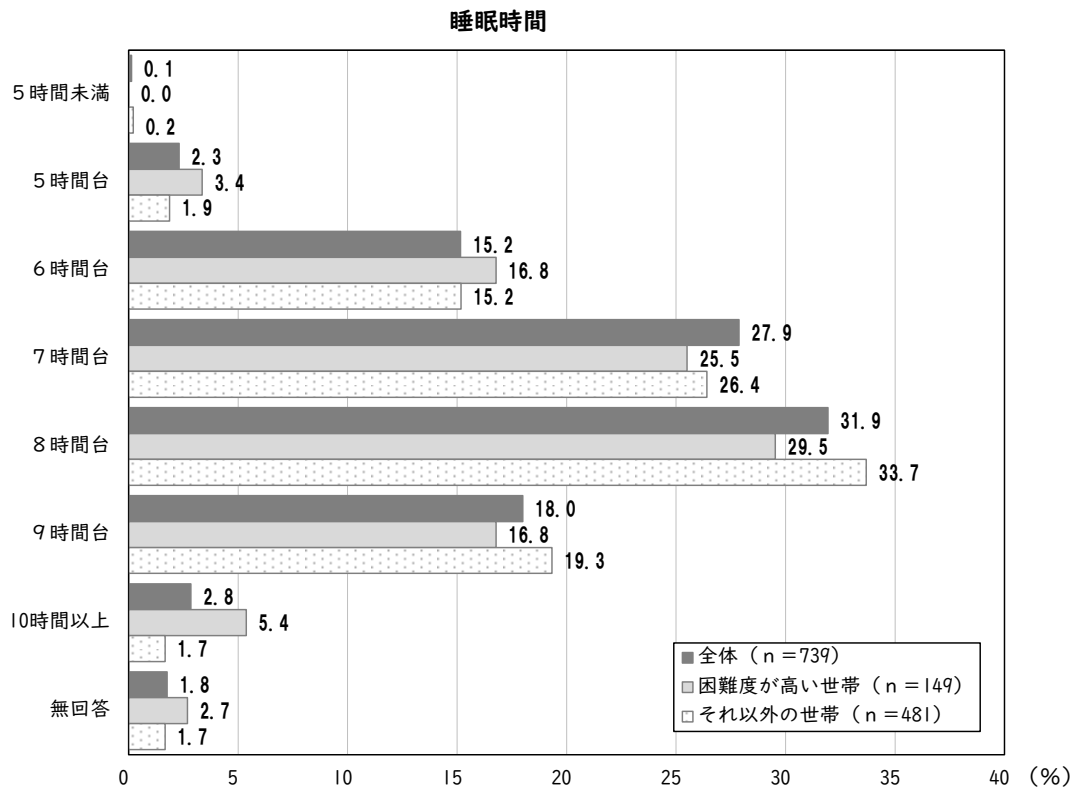
「決まっている」就寝時間については、「22 時台」が最も多く、“困難度が高い世帯”で30.3%、“それ以外の世帯”では29.0%となっています。

次いで多いのは、“それ以外の世帯”では「21 時台」26.4%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では「23 時台」で23.7%となっています。



平日の起床時間・就寝時間に基づき、平日の睡眠時間としてみると、「8時間台」が最も多く、“困難度が高い世帯”で29.5%、“それ以外の世帯”では33.7%となっています。

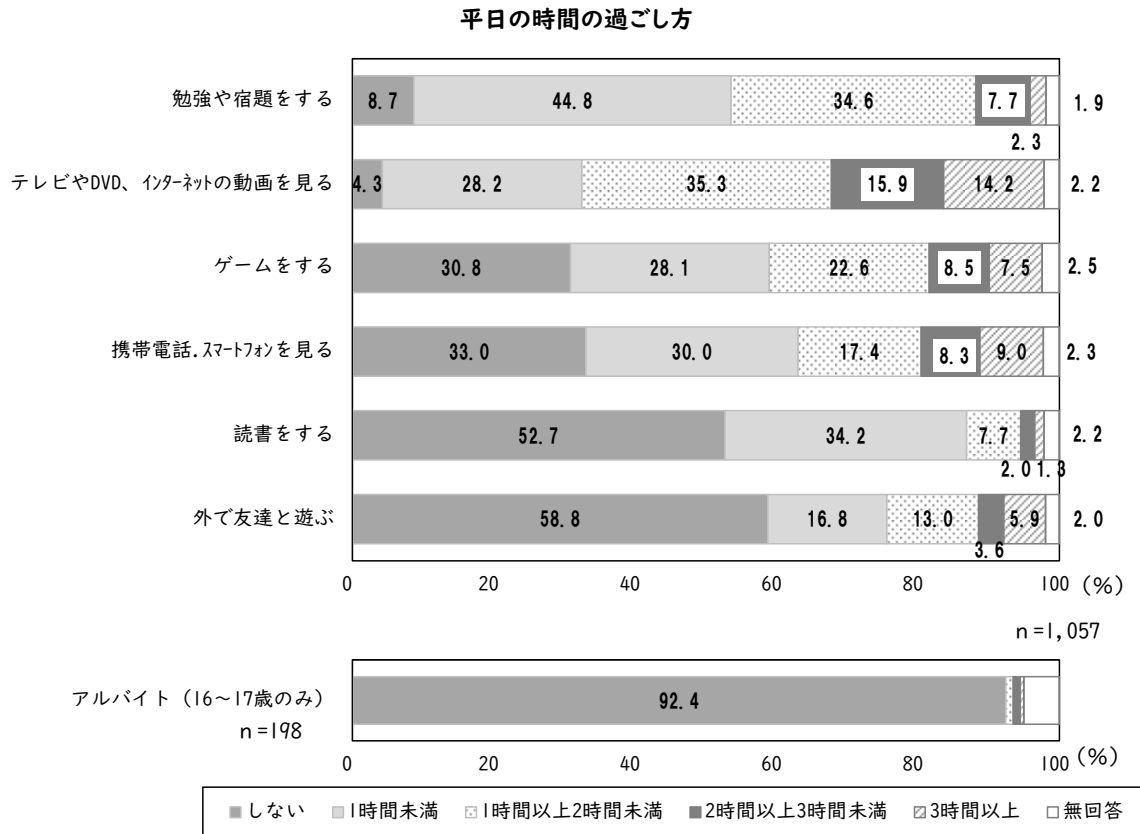
次いで多いのは「7時間台」で、“困難度が高い世帯”25.5%、“それ以外の世帯”26.4%となっています。



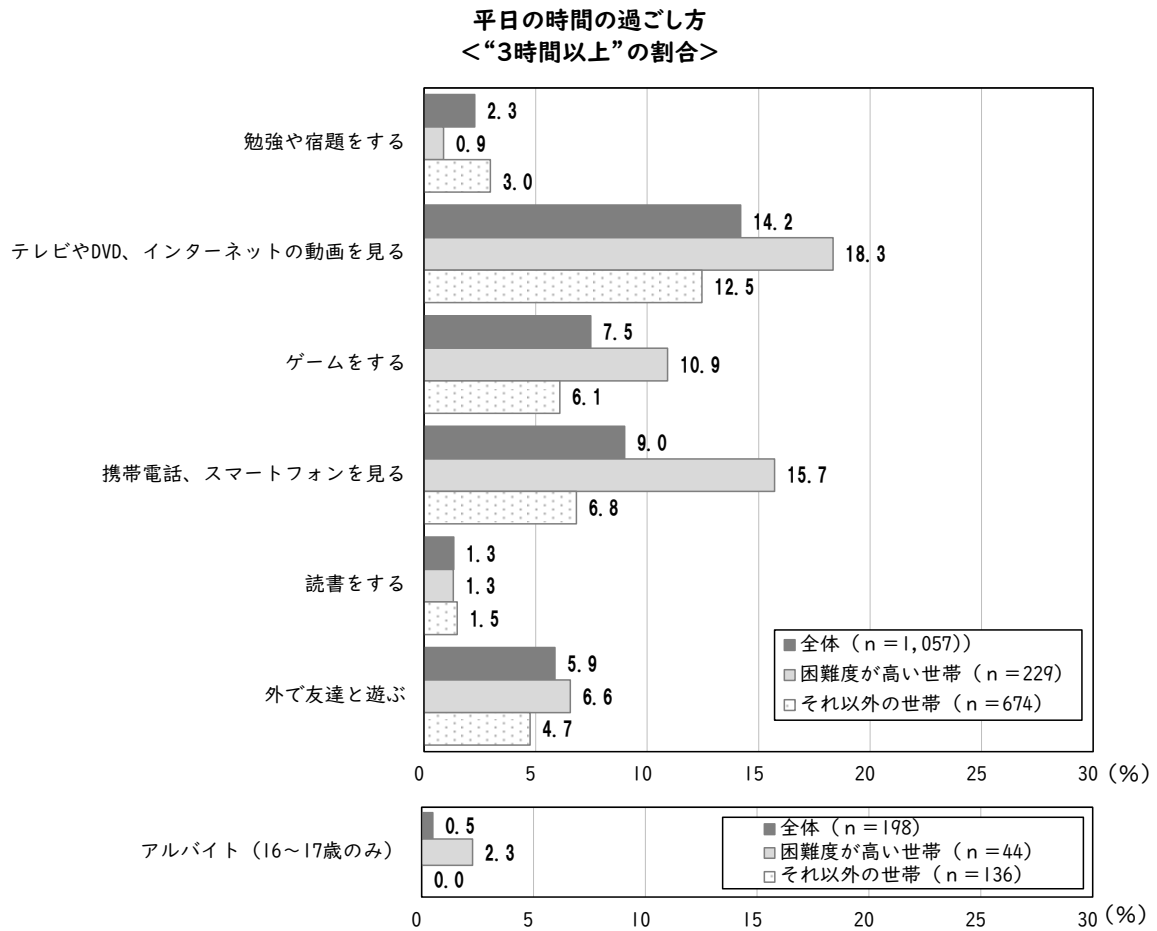
(10) 平日の時間の過ごし方 (SA)

平日の時間の過ごし方として「しない」が最も多いのは、“外で友達と遊ぶ”で58.8%、次いで“読書をする”52.7%となっています。

16歳～17歳では「アルバイト」が最も多く、92.4%となっています。



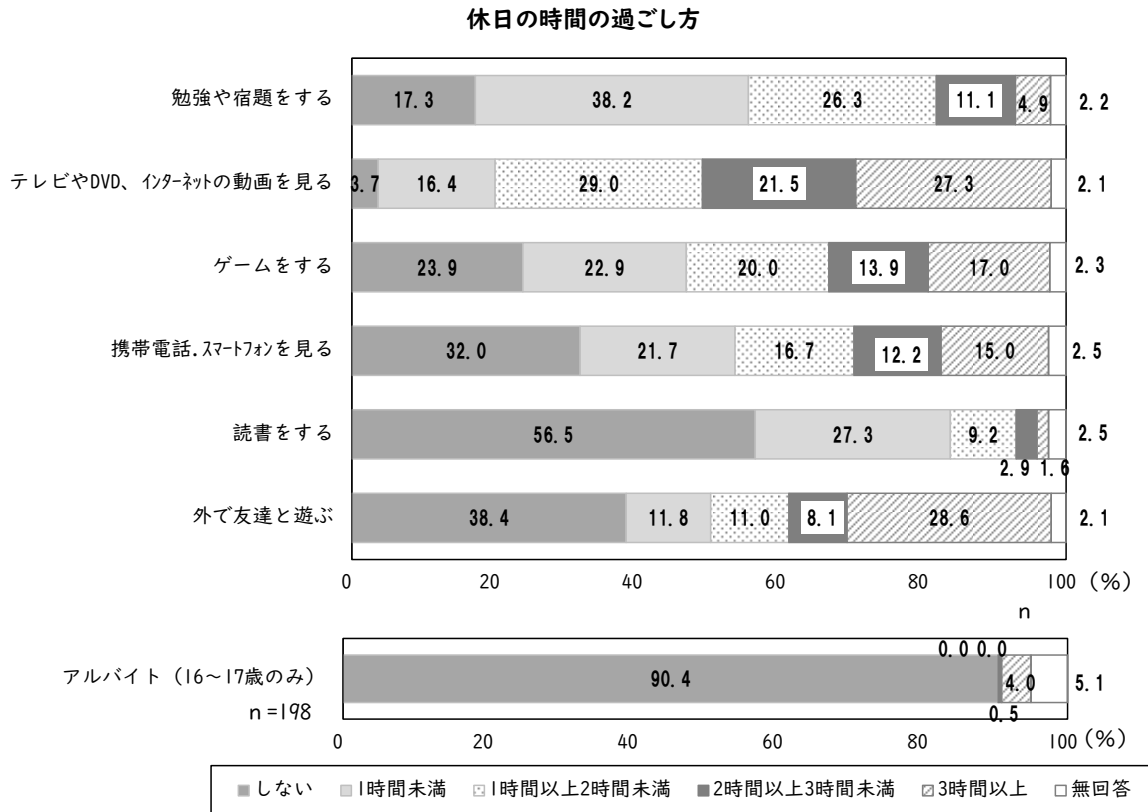
「3時間以上」についてしてみると、“困難度が高い世帯”では“テレビやDVD、インターネットの動画を見る”18.3%、“携帯電話、スマートフォンを見る”15.7%、“ゲームをする”10.9%などで“それ以外の世帯”に比べ多くなっています。



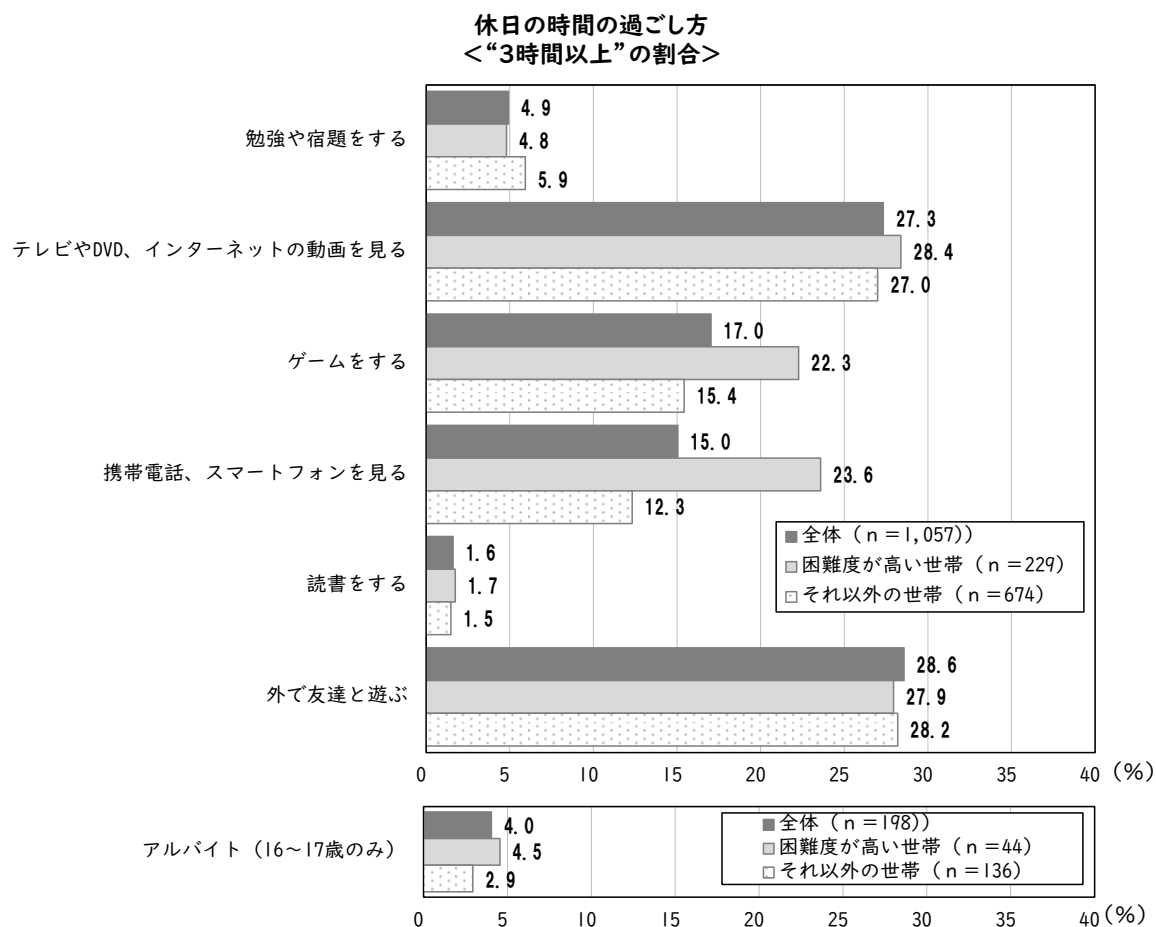
(11) 休日の時間の過ごし方 (SA)

休日の時間の過ごし方として「しない」が最も多いのは“読書をする”で56.5%、次いで“外で友達と遊ぶ”で38.4%となっています。

16歳～17歳では「アルバイト」が最も多く、90.4%となっています。

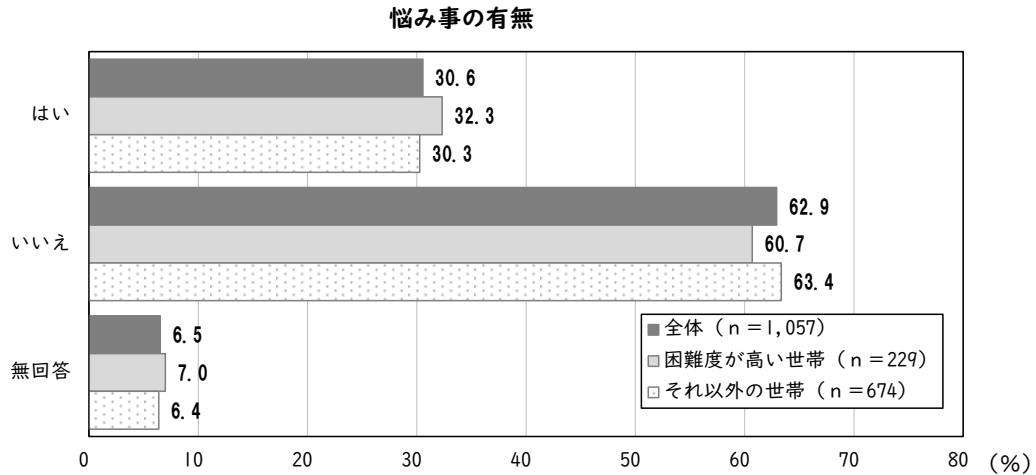


「3時間以上」についてみると、“困難度が高い世帯”では“テレビやDVD、インターネットの動画を見る”28.4%、“携帯電話、スマートフォンを見る”23.6%、“ゲームをする”22.3%などで“それ以外の世帯”に比べ多くなっています。

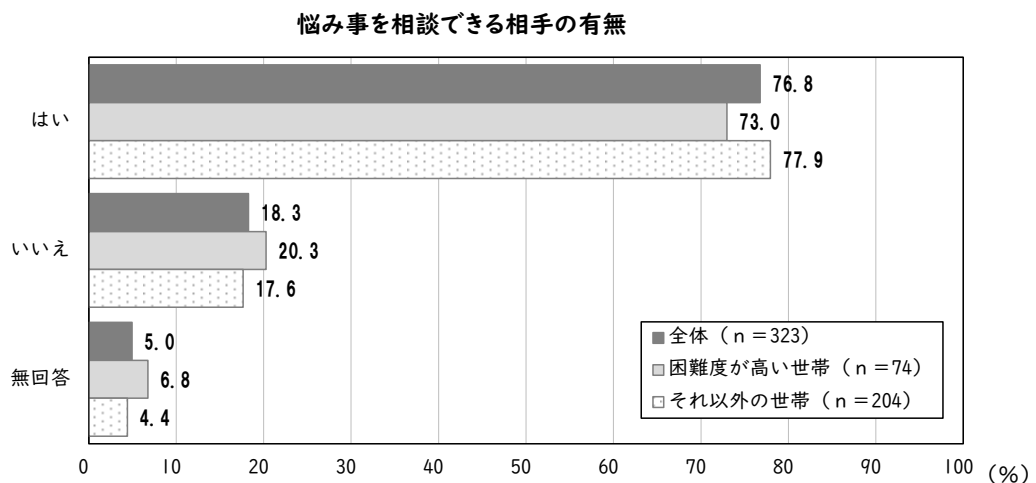


(12) 悩み事の有無(SA)と相談相手の有無(SA)、相談相手(MA)

悩み事の有無については、「いいえ」が最も多く、“困難度が高い世帯”で60.7%、“それ以外の世帯”では63.4%となっています。

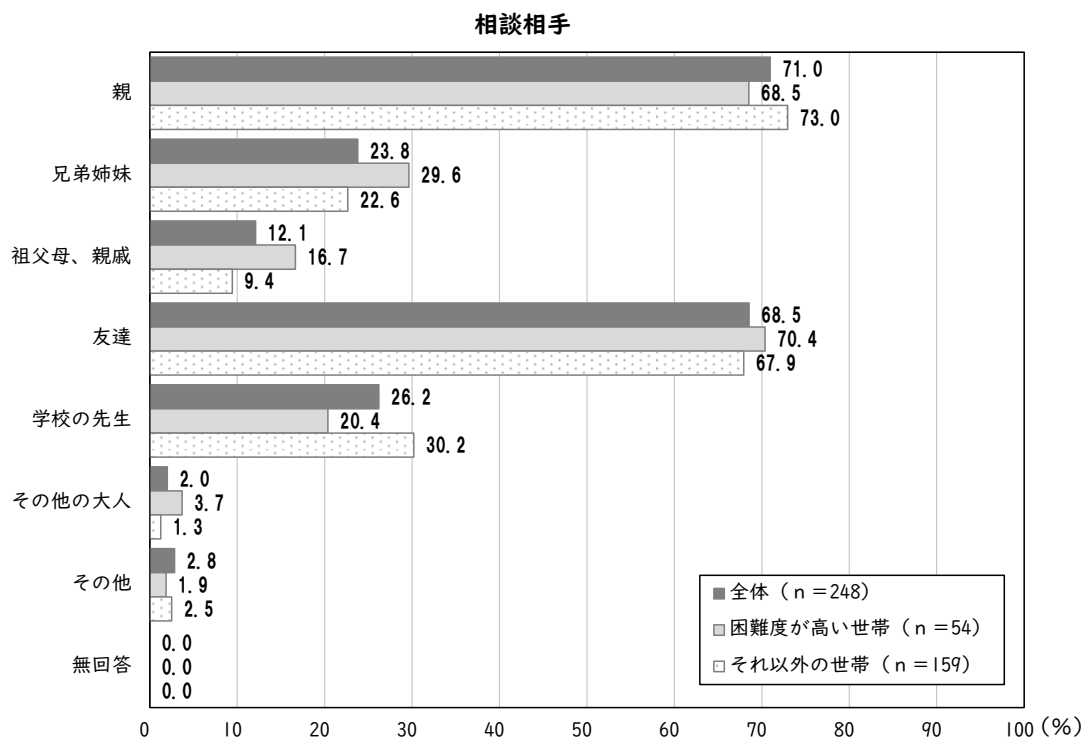


悩み事の有無で「はい」と答えたお子さんに、悩み事を相談できる相手の有無を聞いたところ、「はい」が“困難度が高い世帯”で73.0%、“それ以外の世帯”で77.9%と多い状況ですが、逆に相談相手がない子どもが“困難度が高い世帯”では20.3%、“それ以外の世帯”では17.6%となっています。



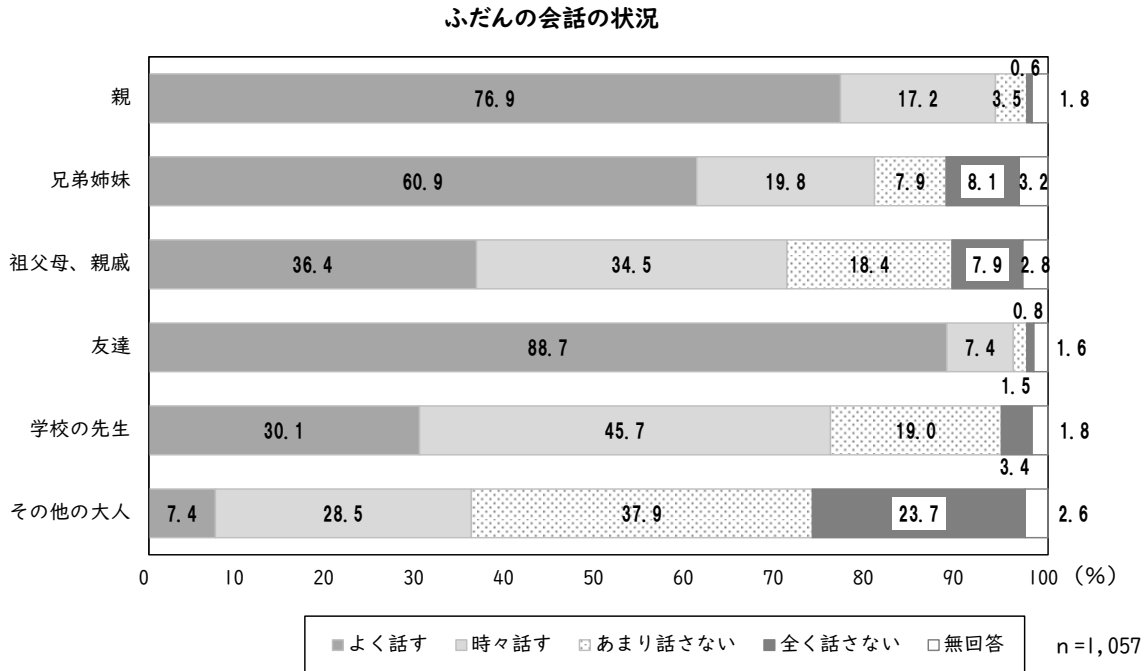
相談できる相手の有無について、「はい」と答えたお子さんに相談相手は誰かを聞いたところ、“困難度が高い世帯”では「友達」が最も多く70.4%、“それ以外の世帯”では「親」が最も多く、73.0%となっています。

次いで、“困難度が高い世帯”では「親」68.5%、“それ以外の世帯”では「友達」67.9%となっています。

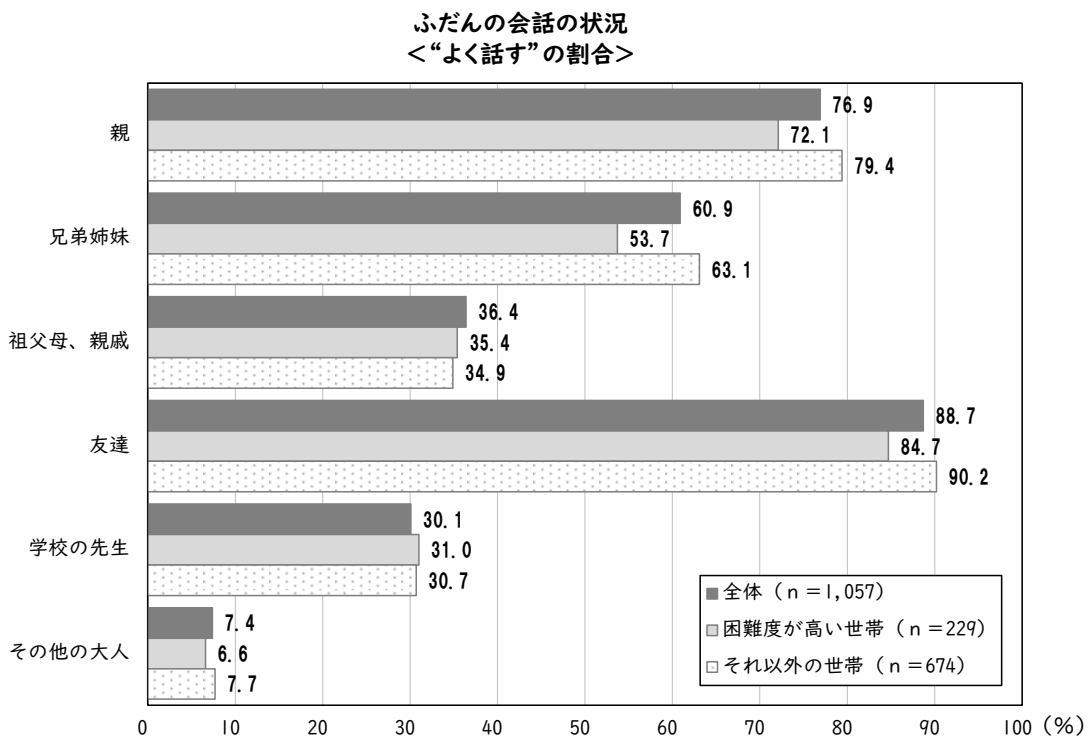


(13) ふだんの会話の状況 (SA)

ふだんの会話の状況については、「よく話す」が最も多いのは“友達”で88.7%、次いで“家族（親）”76.9%、“家族（兄弟姉妹）”60.9%の順となっています。

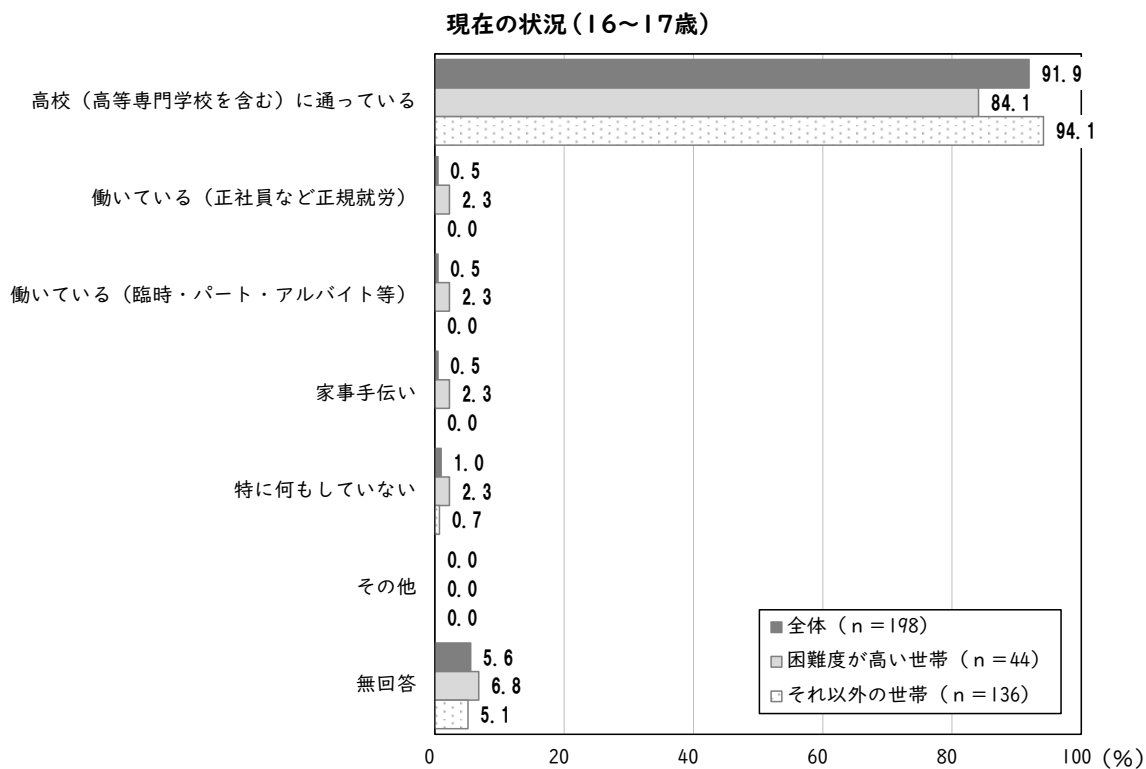


「よく話す」の割合について、多くの項目で“困難度が高い世帯”では“それ以外の世帯”に比べ低くなっています。



(14)【16～17歳】現在の状況(SA)

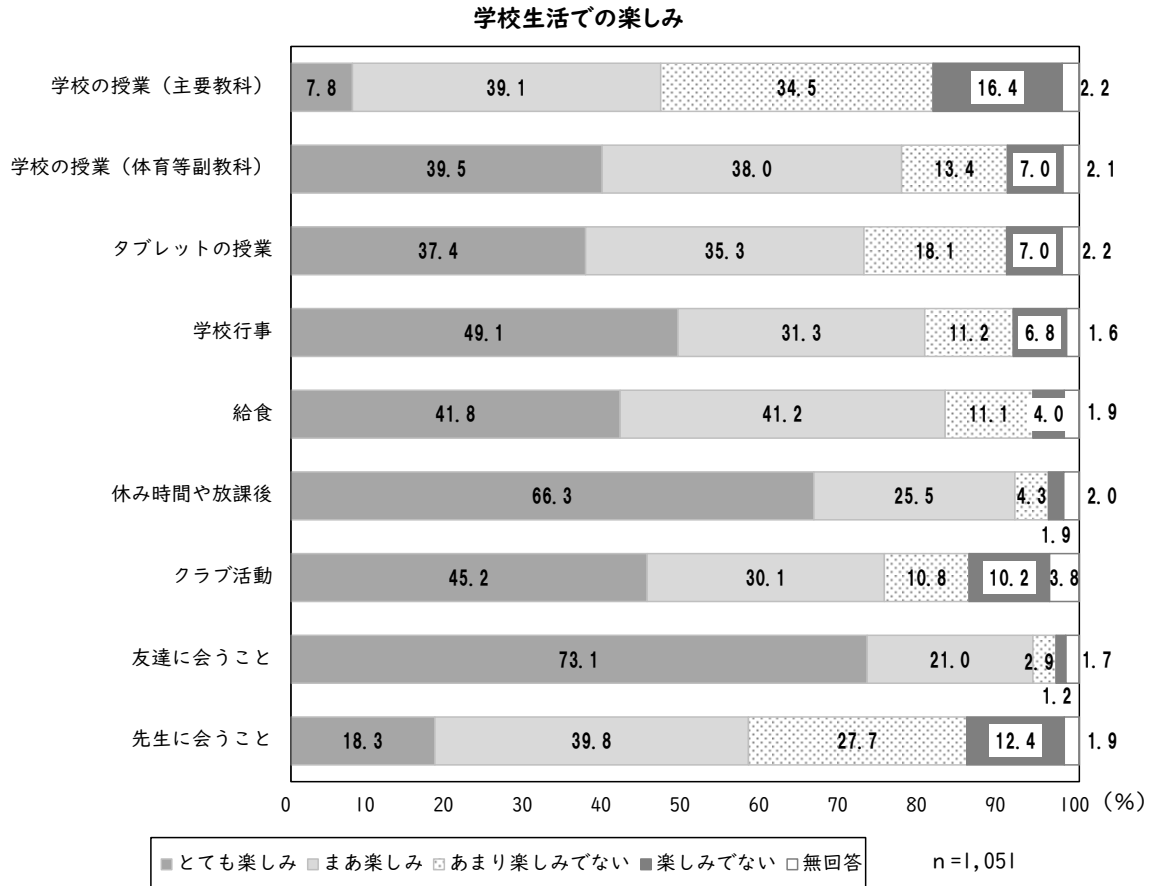
現在の状況については、「高校（高等専門学校を含む）に通っている」が最も多く、「全体」で91.9%、「困難度が高い世帯」で84.1%、「それ以外の世帯」では94.1%となっています。



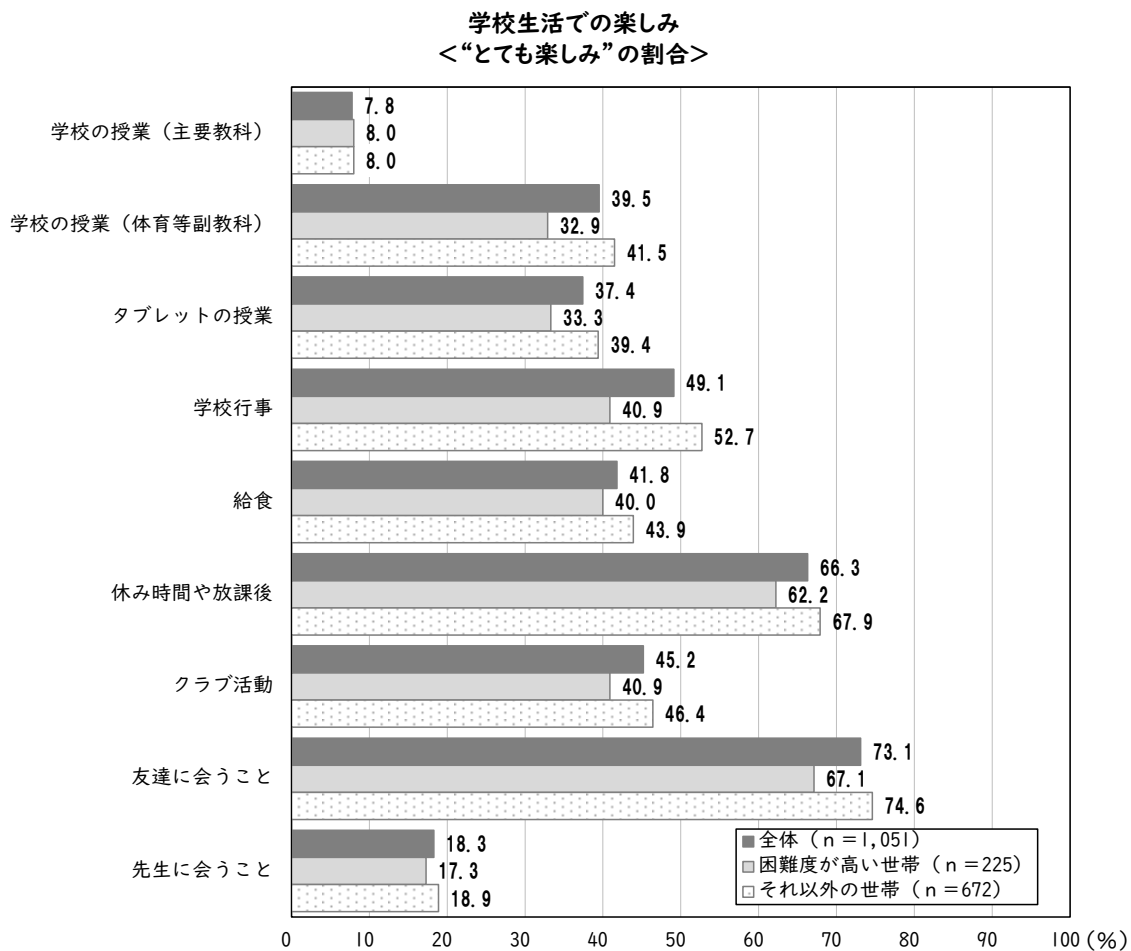
(15) 学校生活での楽しみ(SA)

学校生活での楽しみ(9項目)について、「とても楽しみ」が最も多いのは“友達に会う事”で73.1%、次いで“休み時間や放課後”66.3%、“学校行事”49.1%となっています。

逆に、「楽しみでない」については、“学校の授業(主要教科)”が16.4%で最も多く、次いで“先生に会うこと”12.4%、“クラブ活動”10.2%の順となっています。

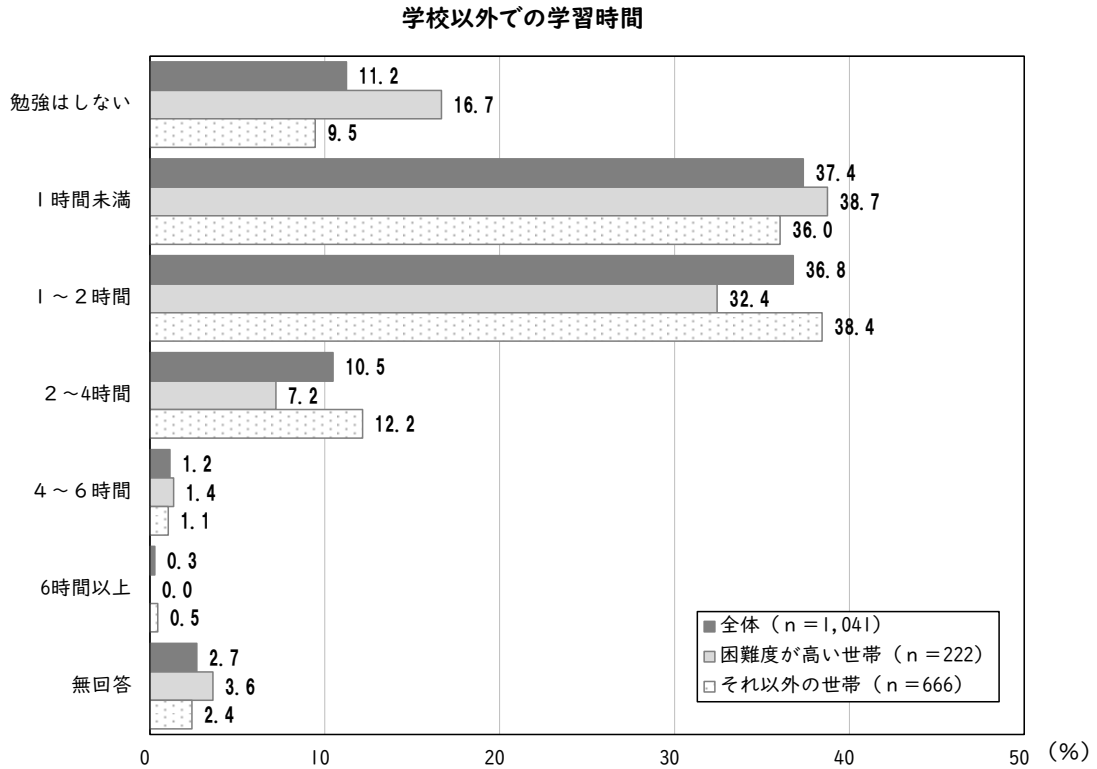


「とても楽しみ」の割合について、“困難度が高い世帯”では“それ以外の世帯”に比べて総じて低く、特に“学校行事”では11.8ポイント低くなっています。



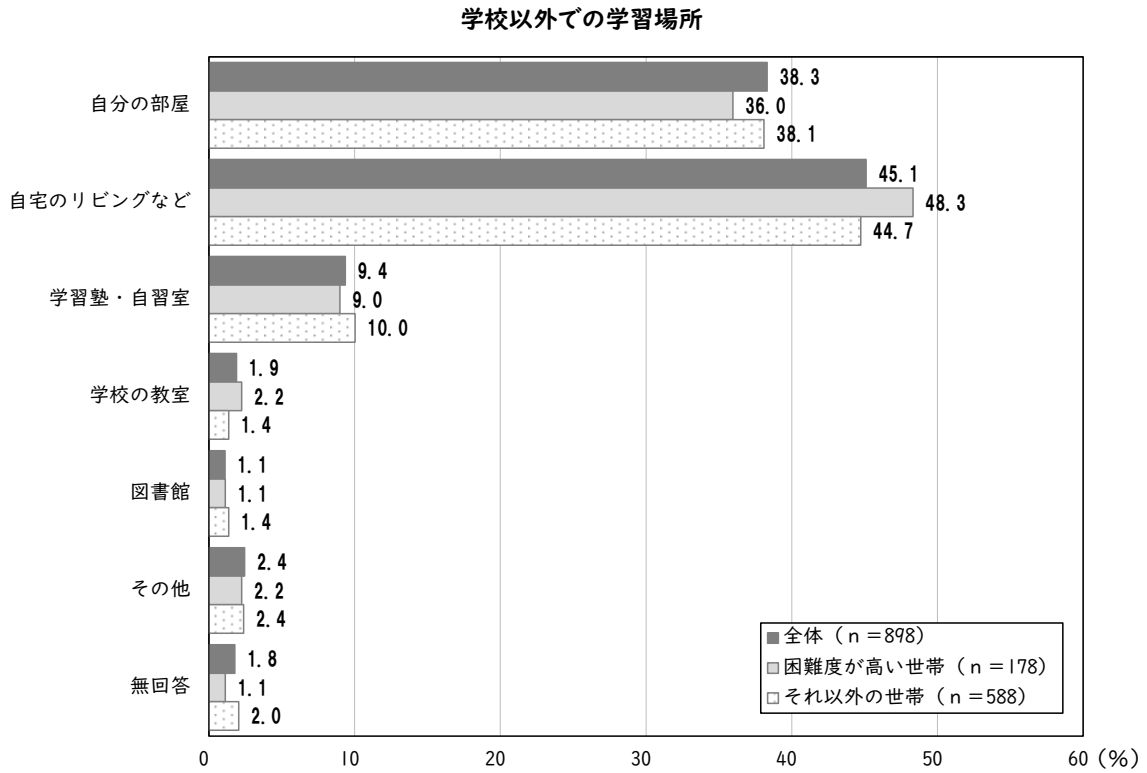
(16) 学校以外での学習時間 (SA)

学校以外での学習時間についてしてみると、“それ以外の世帯”では「1～2時間」が38.4%で最も多いのに対し、“困難度が高い世帯”では「1時間未満」が38.7%で最も多くなっています。また、「勉強はしない」割合が、“困難度が高い世帯”では16.7%と、“それ以外の世帯”に比べて高くなっています。



(17) 学校以外での学習場所 (SA)

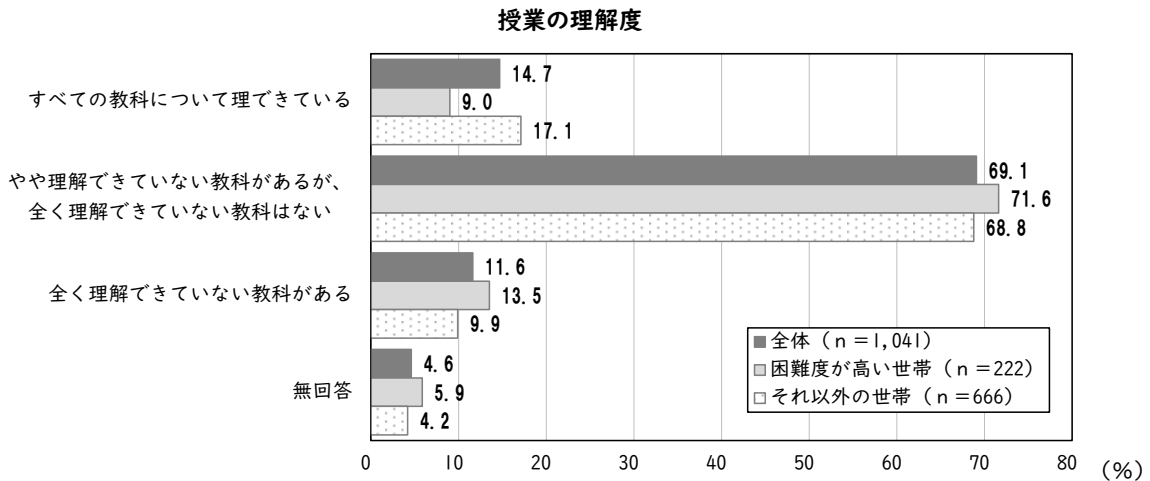
学校以外の学習場所は、「自宅のリビングなど」が最も多く、「困難度が高い世帯」で48.3%、「それ以外の世帯」では44.7%となっています。次いで多いのは、「自分の部屋」で「困難度が高い世帯」36.0%、「それ以外の世帯」38.1%となっています。



(18) 授業の理解度 (SA)

授業の理解度で「すべての教科について理解できている」割合は、“それ以外の世帯”では17.1%であるのに対し、“困難度が高い世帯”では9.0%となっています。

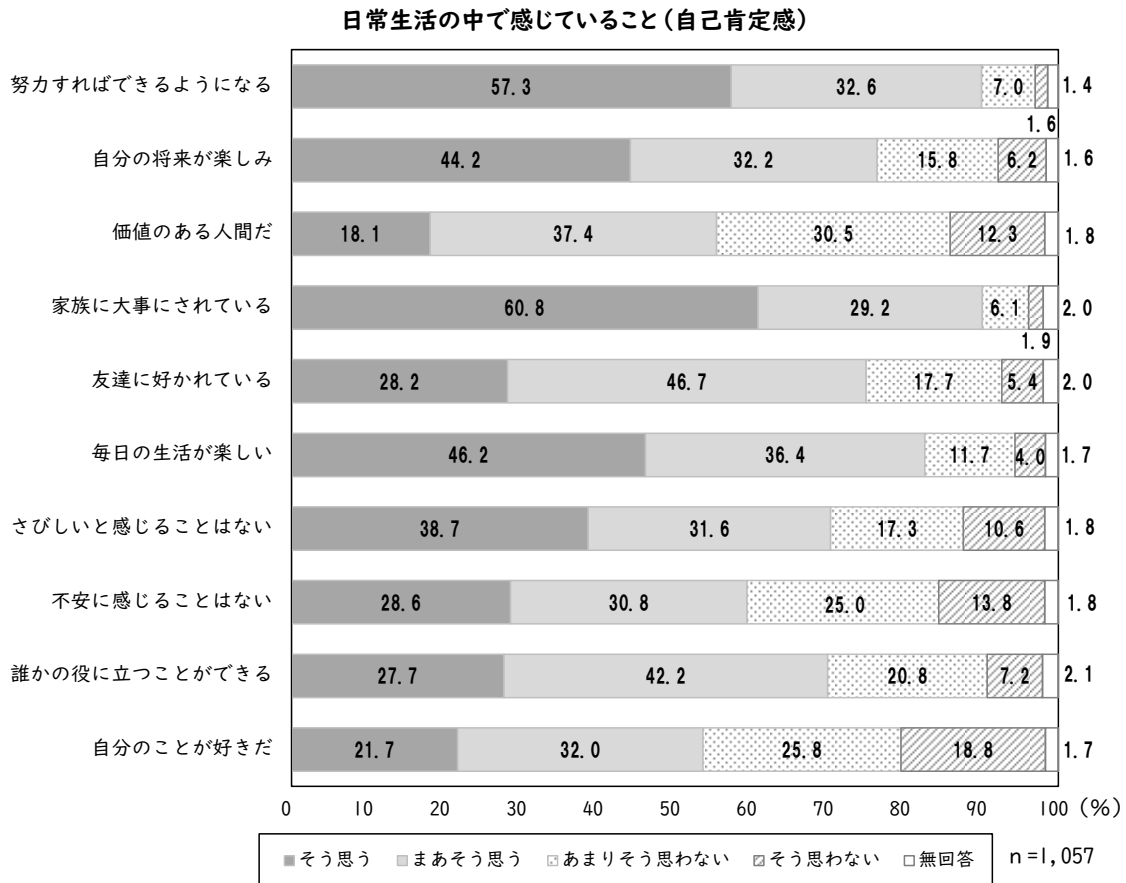
逆に、「全く理解できていない」割合をみると、“それ以外の世帯”9.9%、“困難度が高い世帯”13.5%と、“困難度が高い世帯”の方が高くなっています。



(19) 日常生活の中で感じていること (SA)

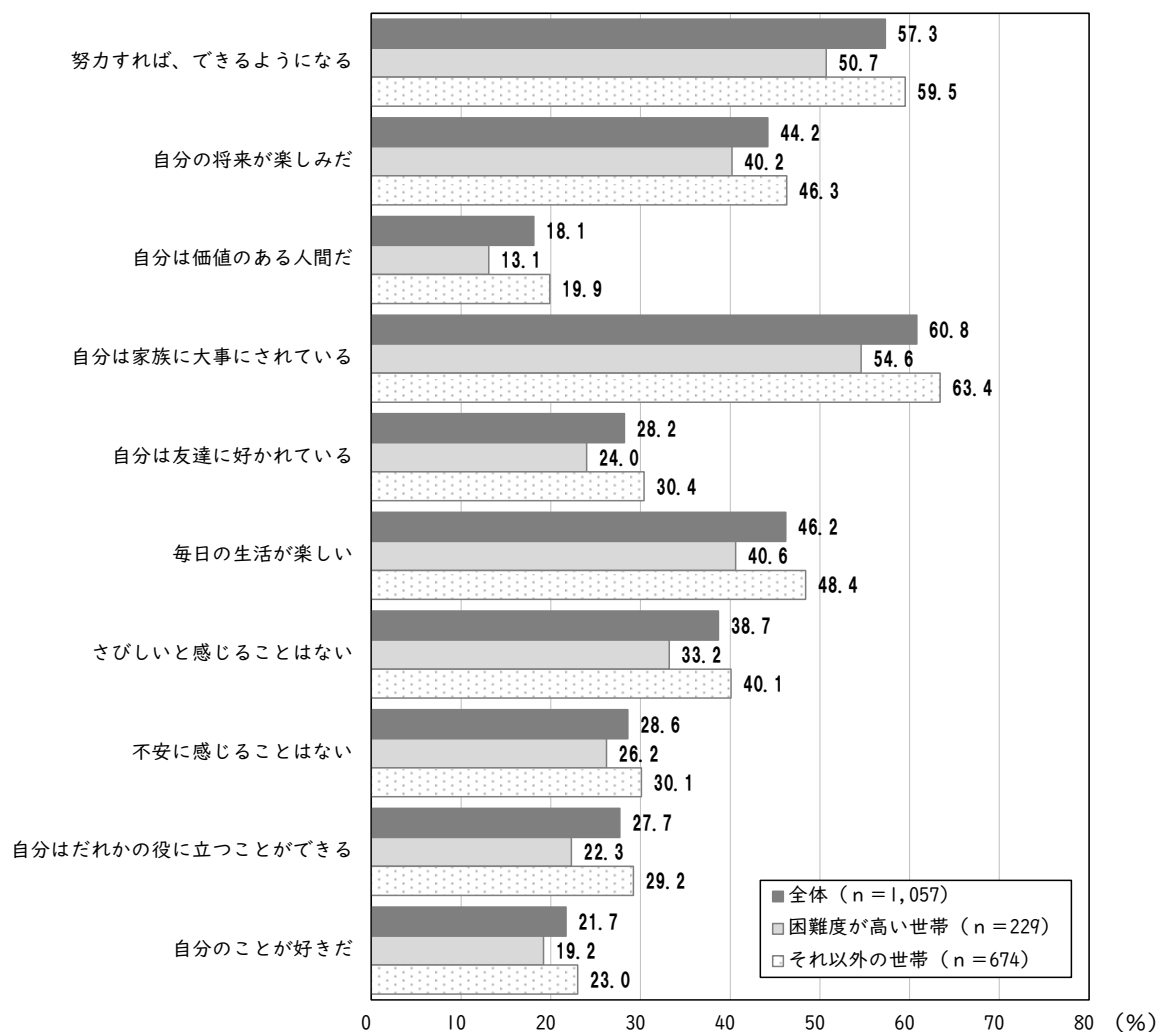
日常生活の中で感じていること（10項目）について、「そう思う」という自己肯定的感想が多かったのは“家族に大事にされている”60.8%、“努力すれば出来るようになる”57.3%、などとなっています。

逆に、「そう思う」が少ないのは、“価値ある人間だ”18.1%、“自分のことが好きだ”21.7%などとなっています。



「そう思う」の割合について、“困難度が高い世帯”の方が“それ以外の世帯”に比べて全ての項目で低くなっていますが、中でも“努力すれば、できるようになる”、“家族に大事にされている”の2項目については“それ以外の世帯”よりも8.8ポイント低くなっています。

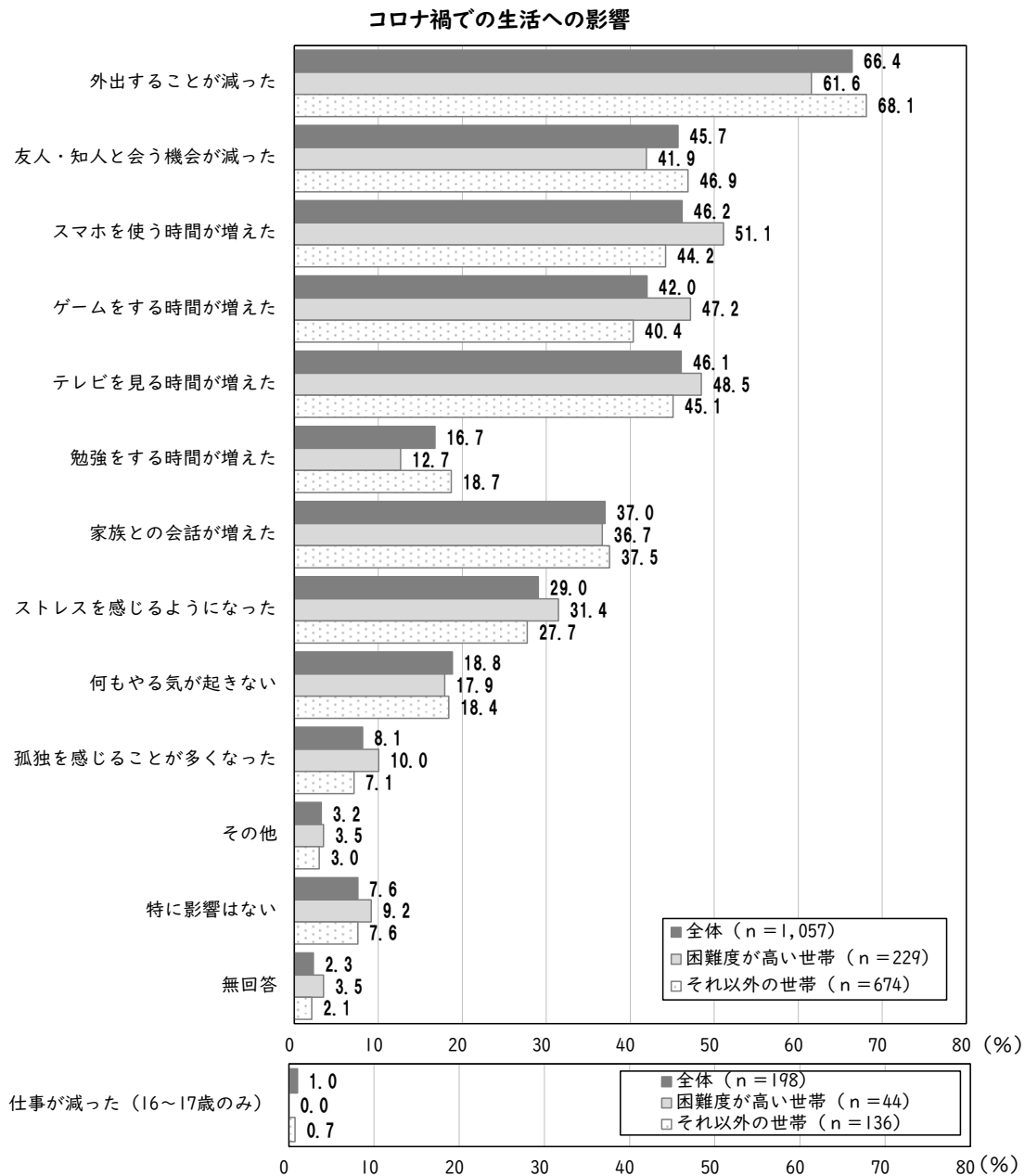
日常生活の中で感じていること(自己肯定感)
 <“そう思う”の割合>



(20) コロナ禍での生活への影響 (MA)

コロナ禍での生活への影響については、「外出することが減った」が最も多く、「困難度が高い世帯」で61.6%、「それ以外の世帯」で68.1%となっています。

次いで、「困難度が高い世帯」では「スマホを使う時間が増えた」51.1%、「テレビを見る時間が増えた」48.5%の順に、「それ以外の世帯」では「友人・知人と会う機会が減った」46.9%、「テレビを見る時間が増えた」45.1%の順となっています。

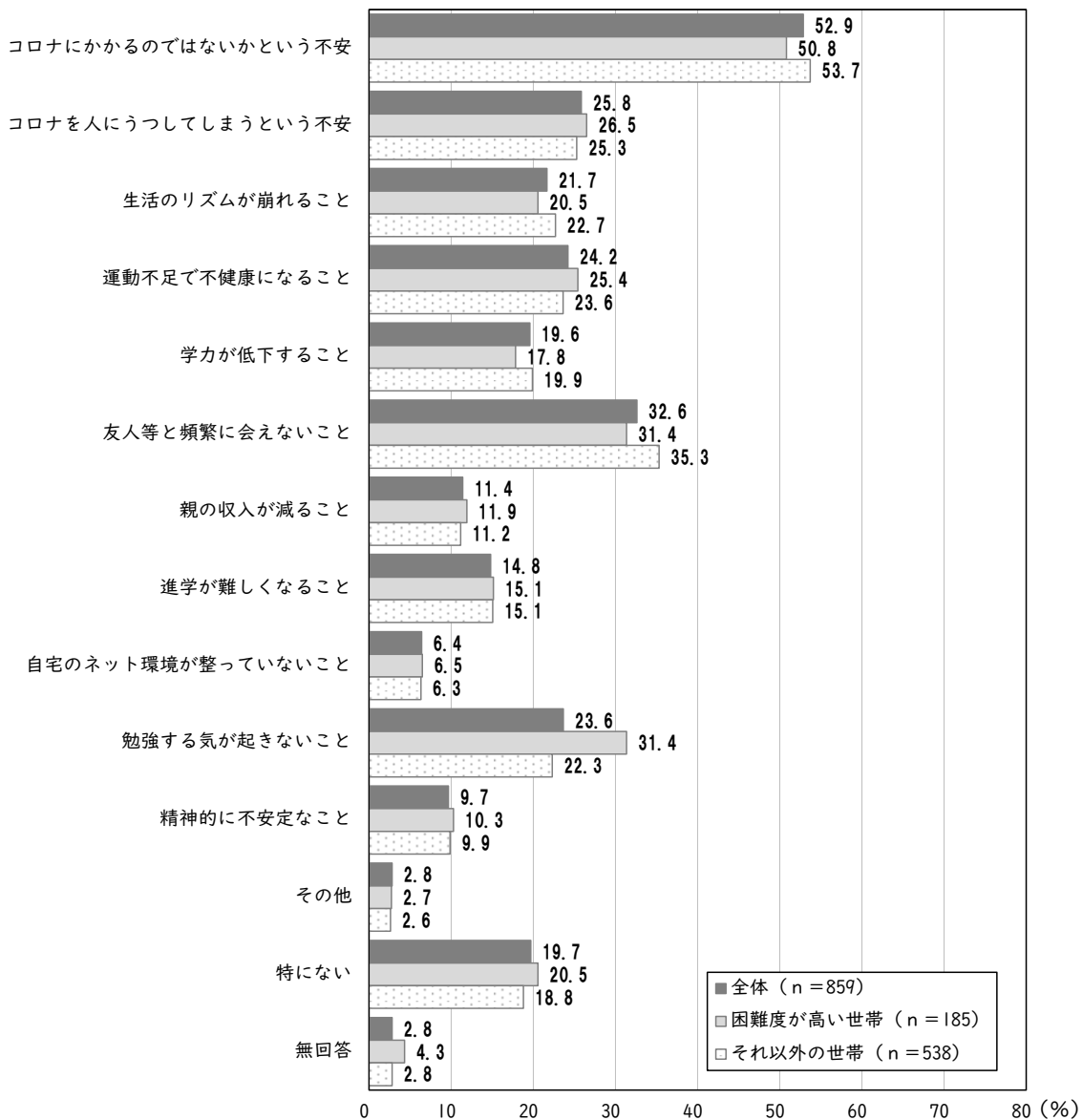


(21) コロナ禍の影響で悩んでいること・困っていること (MA)

小学5年生・中学2年生がコロナ禍の影響で悩んでいること・困っていることは、「コロナにかかるのではないかという不安」が最も多く、“困難度が高い世帯”で50.8%、“それ以外の世帯”では53.7%となっています。

次いで、「友人等と頻繁に会えないこと」が“困難度が高い世帯”31.4%、“それ以外の世帯”35.3%となっていますが、“困難度が高い世帯”では「勉強する気が起きないこと」も31.4%で同率となっています。

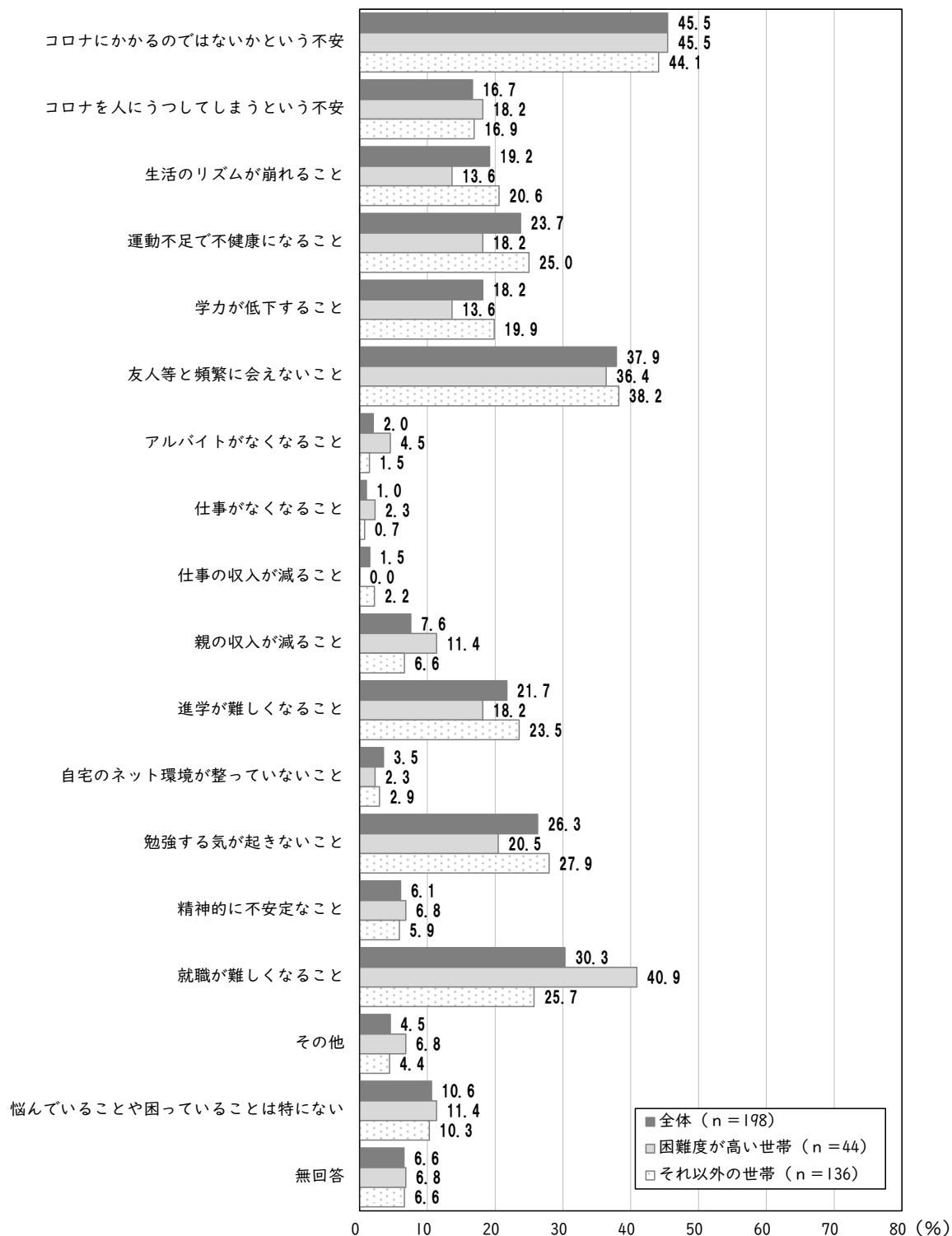
コロナ禍の影響で悩んでいること・困っていること (小学5年生、中学2年生)



16～17歳がコロナ禍の影響で悩んでいること・困っていることは、同じく「コロナにかかるのではないかと不安」が最も多く、「困難度が高い世帯」で45.5%、「それ以外の世帯」では44.1%となっています。

次いで、「それ以外の世帯」では「友人等と頻繁に会えなくなること」が38.2%であるのに対し、「困難度が高い世帯」では「就職が難しくなること」が40.9%となっています。

コロナ禍の影響で悩んでいること・困っていること(16～17歳)



5 親の学歴と子どもの進学に関する分析

(1) 分析に用いた設問と選択肢の読み替え・分類

ここでは、保護者向け調査における3設問（親の最終学歴、将来の進学見通し、見通しの理由）と子ども向け調査における1設問（将来の進学希望）を用いた分析を行っています。

したがって、ここでの集計・分析は、子ども向け調査を実施した小学校5年生及び中学2年生、16～17歳のみをその対象としています。

〔設問選択肢の読み替え・分類〕

分析にあたっては、次のような設問選択肢の読み替え・分類を行っています。

親の最終学歴については、母親・父親それぞれの学歴を“大卒”“大卒以外”に分類した上で、両親の学歴による組み合わせによって、“両親大卒”“いずれかのみ大卒”“いずれも大卒以外”の3タイプに読み替え・分類しています。

親の学歴	分類
中学校卒業	大卒以外
高校中退	
高校卒業	
短大・高専卒業	大卒
大学卒業・大学院修了	
専門学校等卒業	大卒以外
その他	
不明	
無回答	

両親の学歴による分類		父親	
		大卒	その他
母親	大卒	両親大卒	いずれかのみ大卒
	その他	いずれかのみ大卒	いずれも大卒以外

将来の進学見通し及び将来の進学希望については、“高校まで”“大学以外”“大学”“その他・不明”の4タイプに読み替え・分類しています。

進路見通し・進路希望	分類
中学校	高校まで
高校	
高専（高等専門学校）	
短大	大学以外
大学・大学院	大学
専門学校	大学以外
その他	その他・不明
わからない	
無回答	

(2) 両親の学歴と進学の見通し・希望

[両親の学歴と子どもの進学見通し]

両親の学歴と進学見通しの関係についてみると、“両親大卒”“いずれかのみ大卒”では“大学”が最も多く、それぞれ75.9%、54.3%、また、“いずれも大卒以外”では“高校まで”が最も多く38.2%となっています。

子どもの進学見通しについて、その両親の学歴（大卒か否か）が大きく影響している状況がうかがえます。

		親の進学見通し				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
両親の学歴	計 (n=1,057)	100.0%	30.4%	13.9%	30.7%	25.1%
	両親大卒 (n=83)	100.0%	4.8%	4.8%	75.9%	14.5%
	いずれかのみ大卒 (n=199)	100.0%	10.6%	14.1%	54.3%	21.1%
	いずれも大卒以外 (n=775)	100.0%	38.2%	14.8%	19.7%	27.2%

[両親の学歴と子どもの進学希望]

両親の学歴と子どもの進学希望の関係についても、同様に、“両親大卒”“いずれかのみ大卒”では“大学”が最も多くなっていますが、それぞれ53.0%、47.7%と、進学見通しでの値と比べると少なくなっています。“いずれも大卒以外”でも“高校まで”が最も多い状況は同じですが、これも進学見通しと比べると少なく、37.0%となっています。

子どもの進学希望についても、その両親の学歴（大卒か否か）の影響がうかがえますが、影響の度合いは親の考える進学見通しに比べると小さいようです。

		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
両親の学歴	計 (n=1,057)	100.0%	31.6%	22.2%	31.1%	15.0%
	両親大卒 (n=83)	100.0%	15.7%	12.0%	53.0%	19.3%
	いずれかのみ大卒 (n=199)	100.0%	17.1%	18.6%	47.7%	16.6%
	いずれも大卒以外 (n=775)	100.0%	37.0%	24.3%	24.5%	14.2%

(3) 進学見通しと進学希望のマッチング状況

親の考える進学見通しとその子どもの進学希望の関係についてみると、進学見通しが“高校まで”では進学希望も“高校まで”が最も多く17.2%、“大学以外”“大学”についても同様にこのような進学見通しと進学希望の一致の傾向がみられます。“高校まで”“大学以外”“大学”それぞれの一致率の合計は45.1%となっています。

全体		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=1,057)	100.0%	31.6%	22.2%	31.1%	15.0%
	高校まで	30.4%	17.2%	4.7%	3.4%	5.0%
	大学以外	13.9%	3.0%	7.7%	1.5%	1.7%
	大学	30.7%	3.0%	3.8%	20.2%	3.7%
	その他・不明	25.1%	8.3%	6.1%	6.1%	4.6%

ここでは、便宜上、次のように考えることとします。

高校まで<大学以外<大学

見通し=希望 (一致)	見通し<希望	
見通し=希望 (一致)		見通し>希望
見通し>希望		見通し=希望 (一致)

一方で、進学見通し以上の進学を子どもが希望しているケース“見通し<希望”が9.6%、逆に進学見通しほどの進学を希望していないケース“見通し>希望”が9.8%となっています。

こうした状況について、両親の学歴別にみると次のようになっています。

【“両親大卒”の場合】

“両親大卒”の場合でも、進学見通しと進学希望の一致の傾向がみられ、その一致率は54.2%、また、“見通し<希望”は0.0%、“見通し>希望”は14.4%となっています。

子どもの進学希望以上の進学を親が希望しているケース“見通し>希望”の14.4%は、両親の学歴別3タイプの中で最も多くなっています。

両親大卒		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=83)	100.0%	15.7%	12.0%	53.0%	19.3%
	高校まで	4.8%	3.6%	0.0%	0.0%	1.2%
	大学以外	4.8%	1.2%	3.6%	0.0%	0.0%
	大学	75.9%	6.0%	7.2%	47.0%	15.7%
	その他・不明	14.5%	4.8%	1.2%	6.0%	2.4%

【“いずれかのみ大卒”の場合】

“いずれかのみ大卒”の場合も、進学見通しと進学希望の一致の傾向がみられ、その一致率は50.7%、また、“見通し<希望”は4.5%、“見通し>希望”は12.0%となっています。

いずれかのみ大卒		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=199)	100.0%	17.1%	18.6%	47.7%	16.6%
	高校まで	10.6%	4.5%	2.0%	1.0%	3.0%
	大学以外	14.1%	3.0%	7.5%	1.5%	2.0%
	大学	54.3%	3.5%	5.5%	38.7%	6.5%
	その他・不明	21.1%	6.0%	3.5%	6.5%	5.0%

【“いずれも大卒以外”の場合】

“いずれも大卒以外”の場合も、進学見通しと進学希望の一致の傾向がみられ、その一致率は42.5%、また、“見通し<希望”は12.0%、“見通し>希望”は8.8%となっています。

進学見通し以上の進学を子どもが希望しているケース“見通し<希望”の12.0%は、両親の学歴別3タイプの中で最も多くなっています。

いずれも大卒以外		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=775)	100.0%	37.0%	24.3%	24.5%	14.2%
	高校まで	38.2%	21.9%	5.9%	4.4%	5.9%
	大学以外	14.8%	3.2%	8.1%	1.7%	1.8%
	大学	19.7%	2.6%	3.0%	12.5%	1.7%
	その他・不明	27.2%	9.3%	7.2%	5.9%	4.8%

(4) 進学の見通しと見通し理由

親の考える進学の見通しの理由について、進学見通し別に 10%以上の理由を挙げると、“高校まで”では“子どもが希望しているから”が最も多く 43.0%、次いで“子どもの学力から考えた結果”が 24.0%となっています。

“大学以外”では“子どもが希望しているから”が最も多く 61.9%、次いで“子どもの学力から考えた結果”が 10.9%、“その他”が 10.2%、“大学”では“子どもが希望しているから”が 59.0%、“学歴は重要だと思うから”が 20.4%となっています。

進学見通しの理由	計 (n=1,057)	親の進学見通し			
		高校まで (n=334)	大学以外 (n=235)	大学 (n=329)	その他・不明 (n=159)
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子どもが希望しているから	42.6%	43.0%	61.9%	59.0%	11.3%
自分達親もそうであったから	5.9%	9.3%	4.1%	5.9%	2.6%
子どもの学力から考えた結果	13.6%	24.0%	10.9%	9.3%	7.9%
子どもの兄弟姉妹もそうするから	0.7%	0.9%	0.7%	0.9%	0.0%
子どもの仲の良い友達もそうするから	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%
できるだけ早く働いてもらいたいから	0.5%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
家に経済的な余裕がないから	3.9%	9.0%	1.4%	0.0%	3.8%
学歴は重要だと思うから	9.4%	4.7%	8.8%	20.4%	1.9%
その他	13.4%	3.4%	10.2%	2.5%	40.8%
無回答	9.9%	3.7%	2.0%	2.2%	31.3%

(5) 進学の見通し理由と見通し・希望のマッチング状況

進学見通しの理由と見通し・希望のマッチング状況の関係について、見通し理由別にみると、本来は見通しと希望が一致するはずの“子どもが希望しているから”において、一致しているのは67.6%であることがわかります。親は一致しているはずと考えているものの、進学見通しほどの進学を希望していないケース“見通し>希望”が8.4%、逆に、進学見通し以上の進学を子どもが希望しているケース“見通し<希望”が8.4%となっています。

また、“子どもが希望しているから”以外についても、その理由を問わず、すべてにおいて一致が最も多くなっています。

進学見通しの理由 (理由別)	計	進学の見通し・希望のマッチング状況			
		見通し>希望 (不一致)	見通し=希望 (一致)	見通し<希望 (不一致)	不明
計 (n=1,057)	100.0%	9.8%	45.0%	9.6%	35.5%
子どもが希望しているから (n=450)	100.0%	8.4%	67.6%	8.4%	15.6%
自分達親もそうであったから (n=62)	100.0%	12.9%	33.9%	14.5%	38.7%
子どもの学力から考えた結果 (n=144)	100.0%	9.7%	41.0%	17.4%	31.9%
子どもの兄弟姉妹もそうするから (n=7)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
子どもの仲の良い友達もそうするから (n=2)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
できるだけ早く働いてもらいたいから (n=5)	100.0%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%
家に経済的な余裕がないから (n=41)	100.0%	4.9%	36.6%	24.4%	34.1%
学歴は重要だと思うから (n=99)	100.0%	30.3%	38.4%	9.1%	22.2%
その他 (n=142)	100.0%	5.6%	9.9%	5.6%	78.9%
無回答 (n=105)	100.0%	3.8%	14.3%	1.0%	81.0%

マッチング状況別にみると、“見通し>希望”“見通し=希望”“見通し<希望”いずれでも“子どもが希望しているから”という理由が最も多くなっています。

進学見通しの理由 (マッチング状況別)	計 (n=1,057)	進学の見通し・希望のマッチング状況			
		見通し>希望 (n=334)	見通し=希望 (n=235)	見通し<希望 (n=329)	不明 (n=159)
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子どもが希望しているから	42.6%	36.5%	63.9%	37.3%	18.7%
自分達親もそうであったから	5.9%	7.7%	4.4%	8.8%	6.4%
子どもの学力から考えた結果	13.6%	13.5%	12.4%	24.5%	12.3%
子どもの兄弟姉妹もそうするから	0.7%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%
子どもの仲の良い友達もそうするから	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
できるだけ早く働いてもらいたいから	0.5%	0.0%	0.6%	2.0%	0.0%
家に経済的な余裕がないから	3.9%	1.9%	3.2%	9.8%	3.7%
学歴は重要だと思うから	9.4%	28.8%	8.0%	8.8%	5.9%
その他	13.4%	7.7%	2.9%	7.8%	29.9%
無回答	9.9%	3.8%	3.2%	1.0%	22.7%

6 前回調査との主要設問結果比較

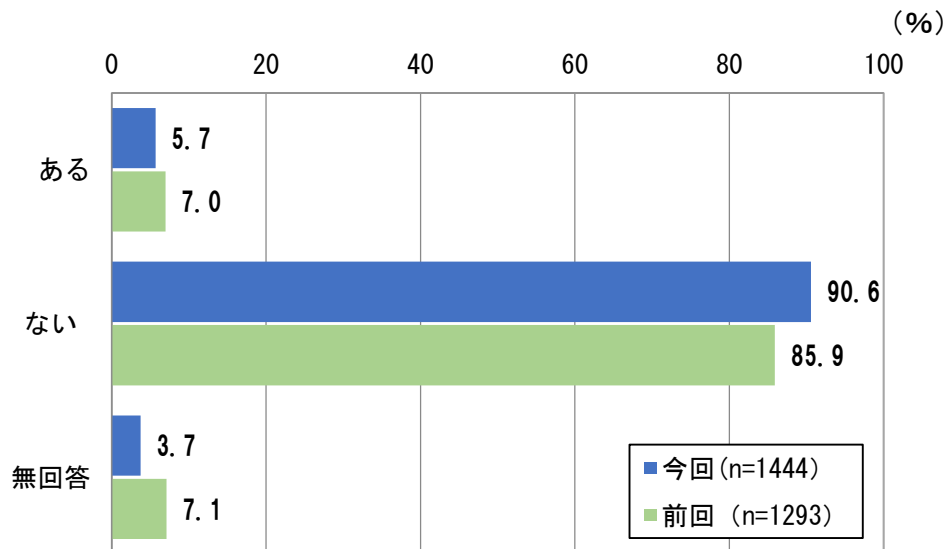
※前回調査とは平成28年実施の「子どもの生活実態調査」のこと

(1) 【保護者向け】受診が必要であるのに受診しなかった経験 (SA)

○受診が必要であるのに受診しなかった経験について、「ある」は5.7%、「ない」が90.6%となっています。

●前回調査と比較すると、「ある」は1.3ポイント減少しています。

子どもの病気や怪我で受診が必要であるのに受診しなかった経験

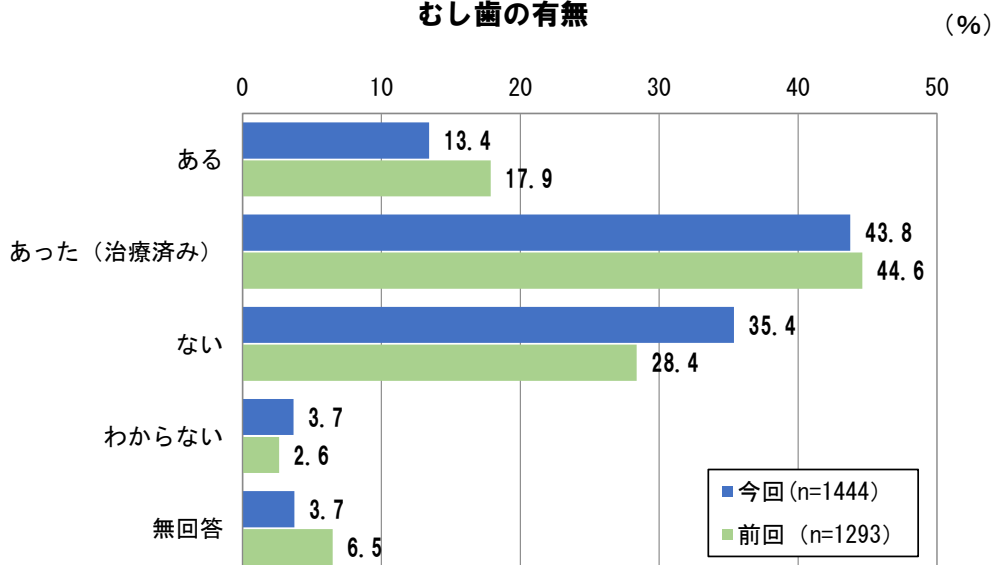


(2) 【保護者向け】むし歯の有無 (SA)

○「あった (治療済み)」が43.8%、「ない」が35.4%、「ある」が13.4%の順となっています。

●前回調査と比較すると、「ある」は4.5ポイント減少、「ない」が7.0ポイント増加しています。

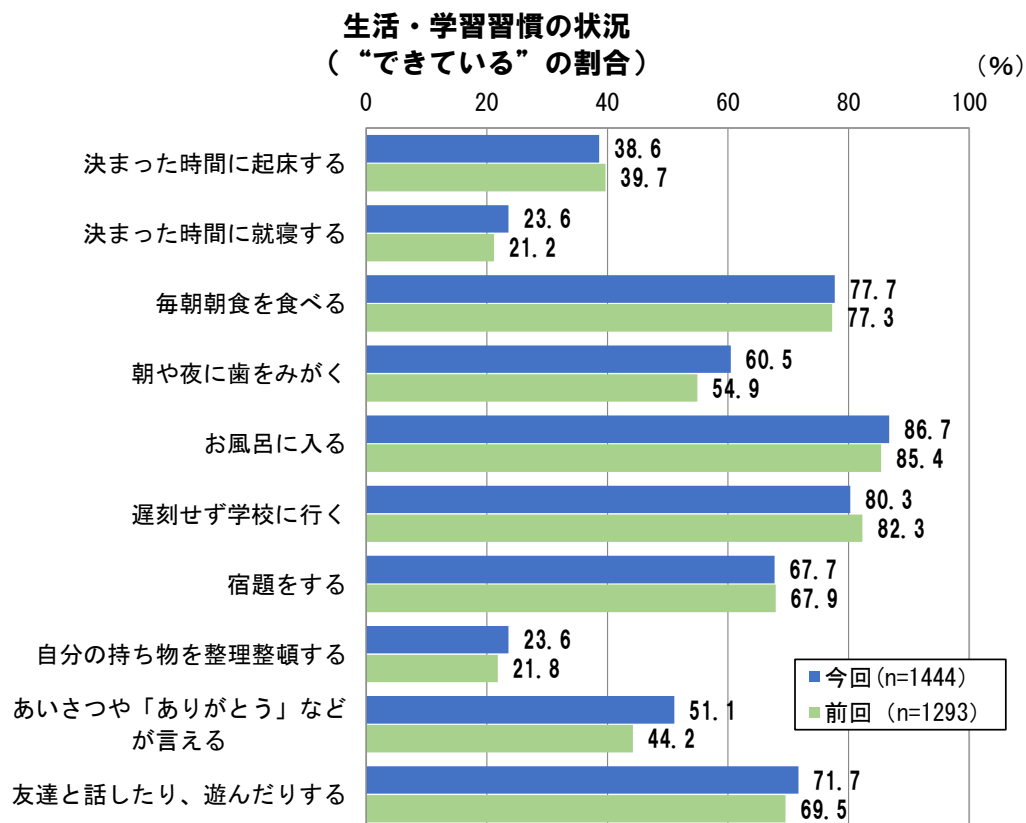
むし歯の有無



(3) 【保護者向け】子どもの生活・学習習慣について(MA)

○生活・学習習慣の状況についてみると、“できている”が多いのは「お風呂に入る」が86.7%、「遅刻せずに学校へ行く」が80.3%などで、これらを含め、10項目中の7項目で“できている”が50%以上となっています。

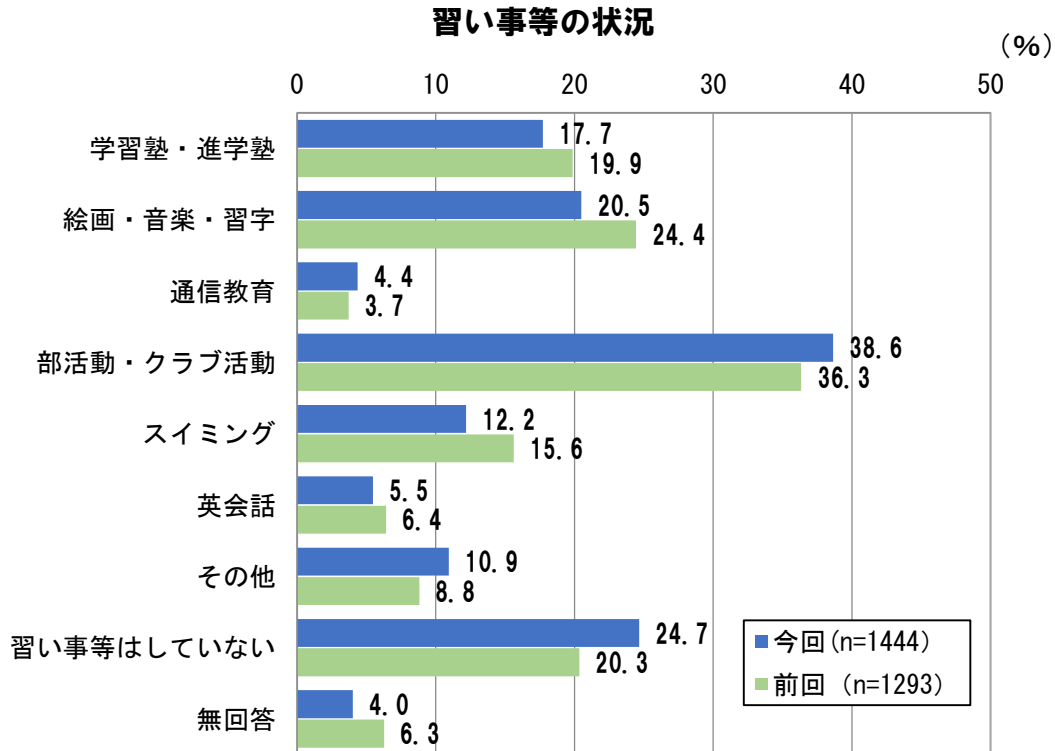
●前回調査と比較すると10項目中7項目で増加しており、中でも「あいさつやありがとうなどが言える」が6.9ポイントと最も増加しています。



(4) 【保護者向け】子どもの習い事等の状況 (MA)

○習い事の状況は、「部活動・クラブ活動」が38.6%で最も高くなっています。

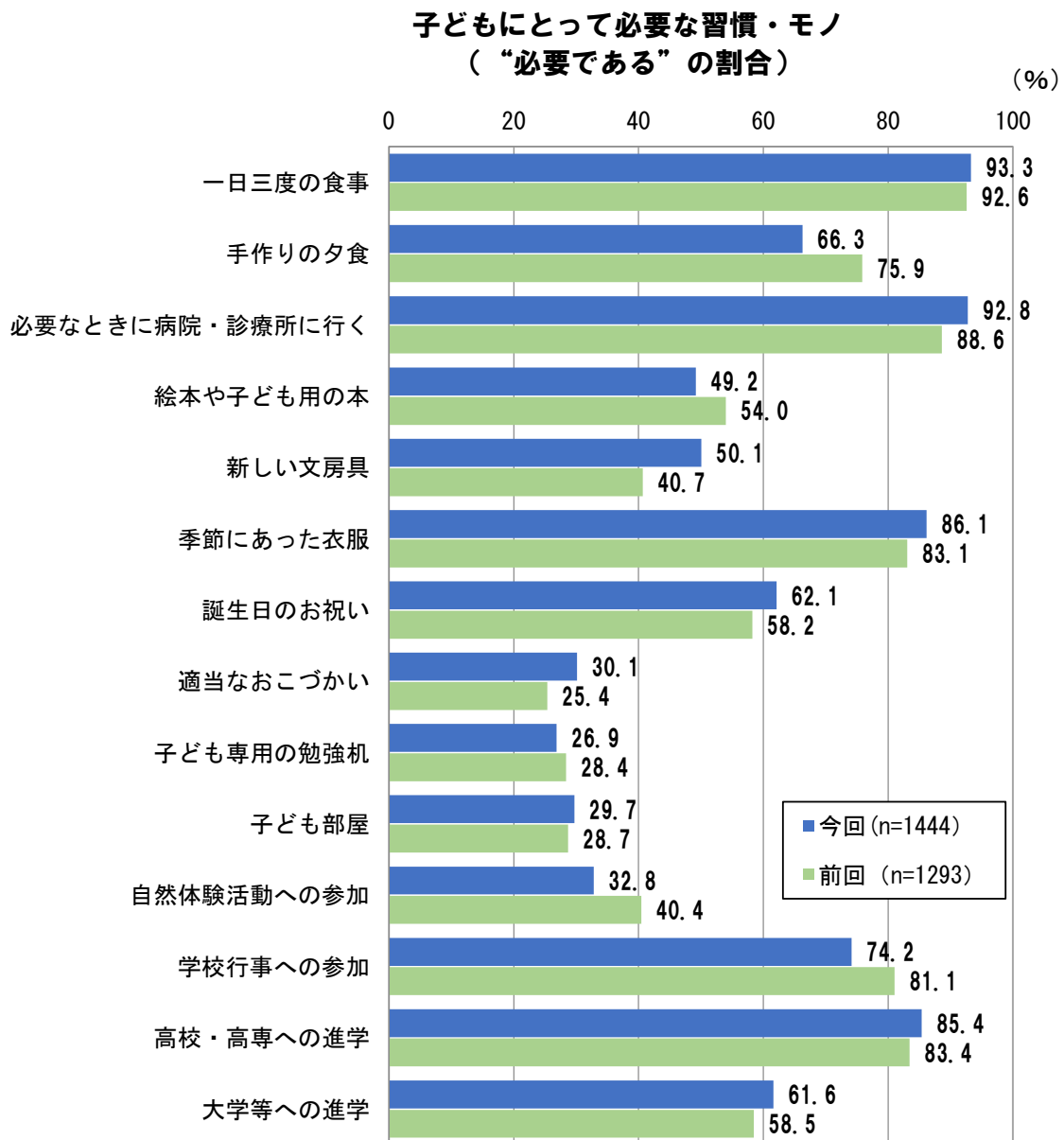
●前回調査と比較すると、「習い事はしていない」が24.7%で、4.4ポイント増加しています。



(5) 【保護者向け】子どもにとって必要な環境・モノ(SA)

○子どもにとって必要な習慣・モノとして“必要である”の割合は、「一日三度の食事」が93.3%で最も高く、次いで「必要なときに病院・診療所に行く」が92.8%、「季節にあった衣服」が86.1%の順となっており、これらの4項目が8割以上となっています。

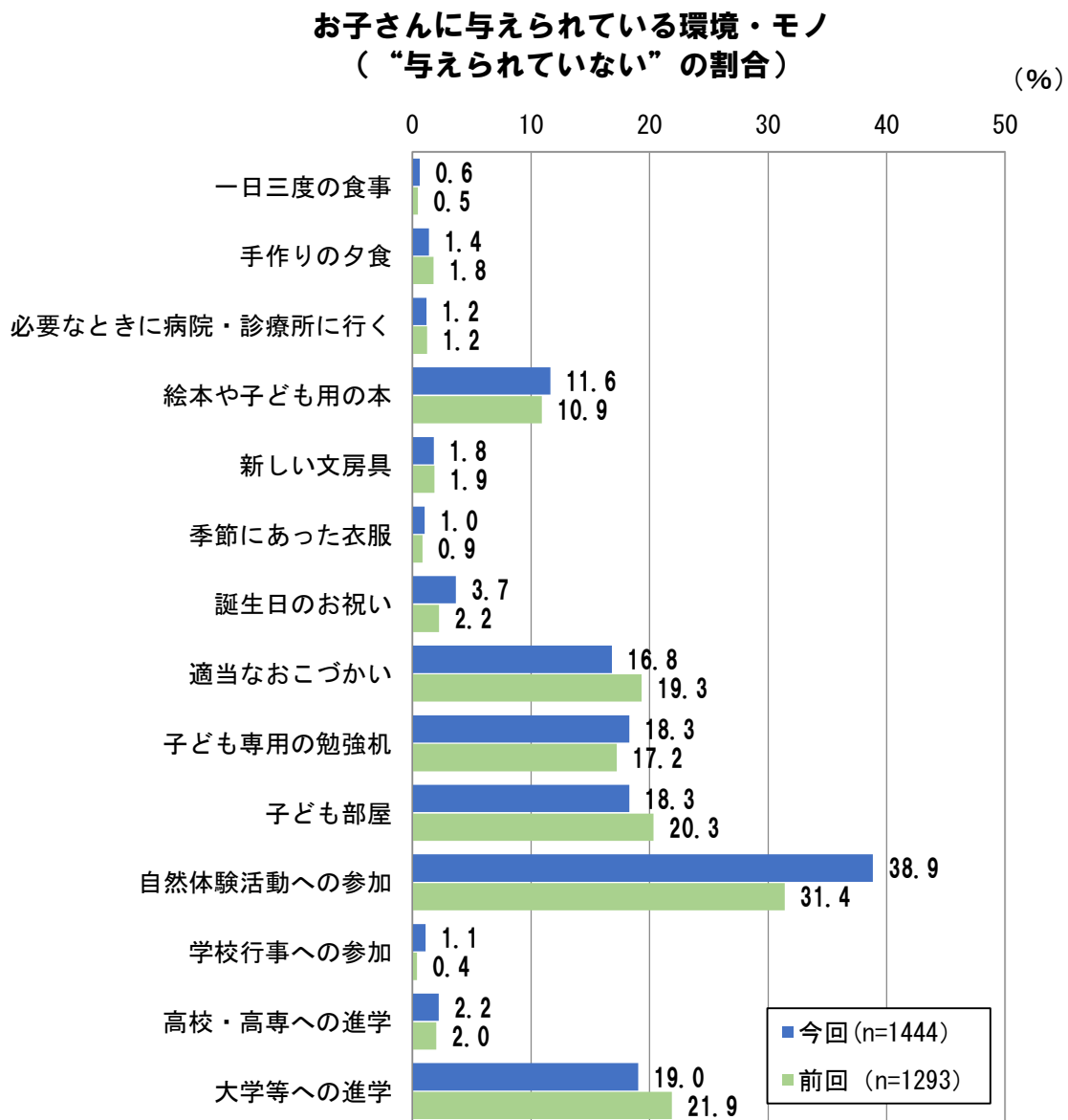
●前回調査と比較して、14項目中9項目が増加しており、「新しい文房具」が9.4ポイントと最も増加、減少した5項目の中では「手作りの夕食」が9.6ポイントと最も減少しています。



(6) 【保護者向け】お子さんに与えられている環境・モノ(SA)

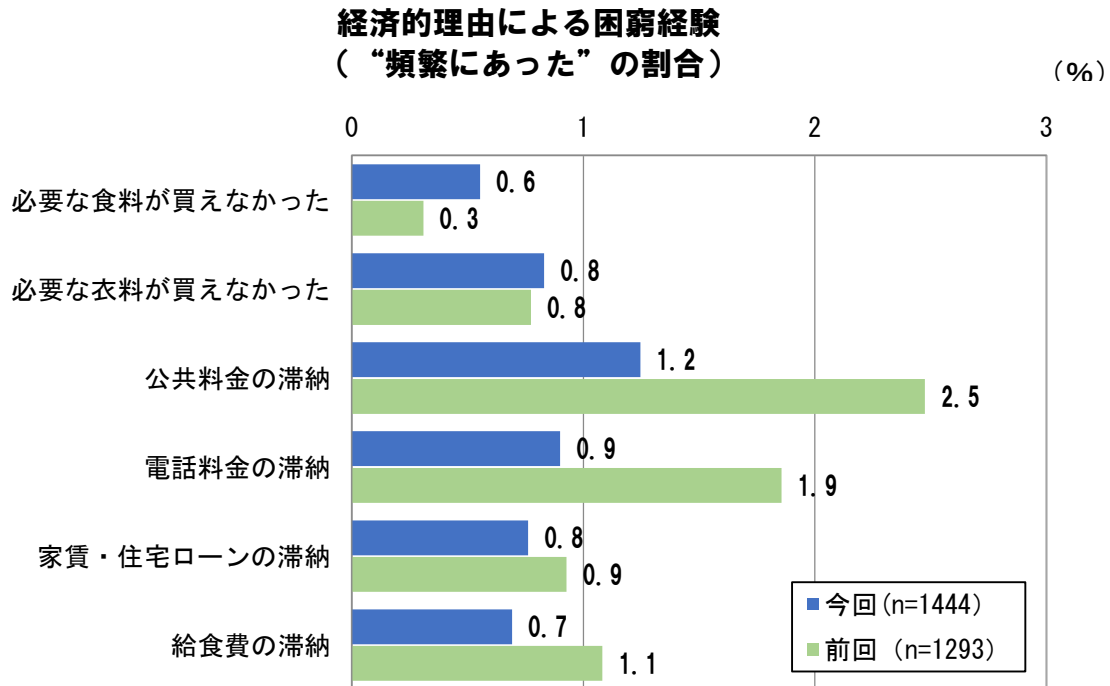
○お子さんに与えられている環境・モノの中で“与えられていない”の割合は、「自然体験活動への参加」が38.9%で最も高く、次いで「大学等への進学」が19.0%、「子ども専用の勉強机」と「子ども部屋」が同率の18.3%となっています。

●前回調査と比較すると、14項目中8項目が増加しており、中でも「自然体験活動への参加」が7.5ポイントと最も増加、減少した6項目の中では「大学等への進学」が2.8ポイントと最も減少しています。



(7) 【保護者向け】経済的理由による困窮経験 (SA)

- 経済的理由による困窮経験について“頻繁にあった”は、「公共料金の滞納」が1.2%で最も高く、次いで「電話料金の滞納」が0.9%、「必要な衣料が買えなかった」と「家賃・住宅ローンの滞納」が同率の0.8%となっています。
- 前回調査と比較すると、6項目中2項目が増加しており「必要な食料が買えなかった」が0.6ポイントと最も増加、減少した4項目の中では「公共料金の滞納」が1.3ポイントと最も減少しています。

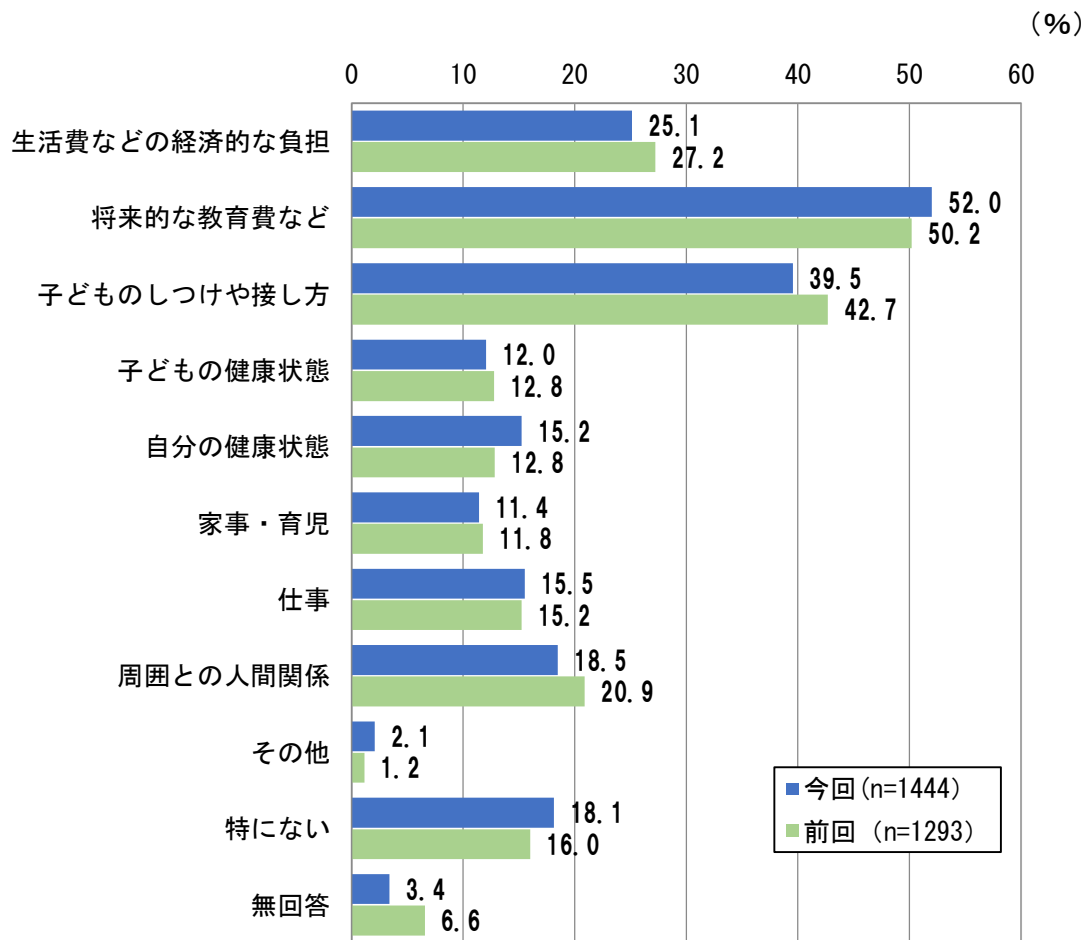


(8) 【保護者向け】子育てなどについての心配や悩み事 (MA)

○子育てなどについての心配や悩み事は、「将来的な教育費など」が52.0%で最も高く、次いで「子どものしつけや接し方」が39.5%、「生活費などの経済的な負担」が25.1%となっています。

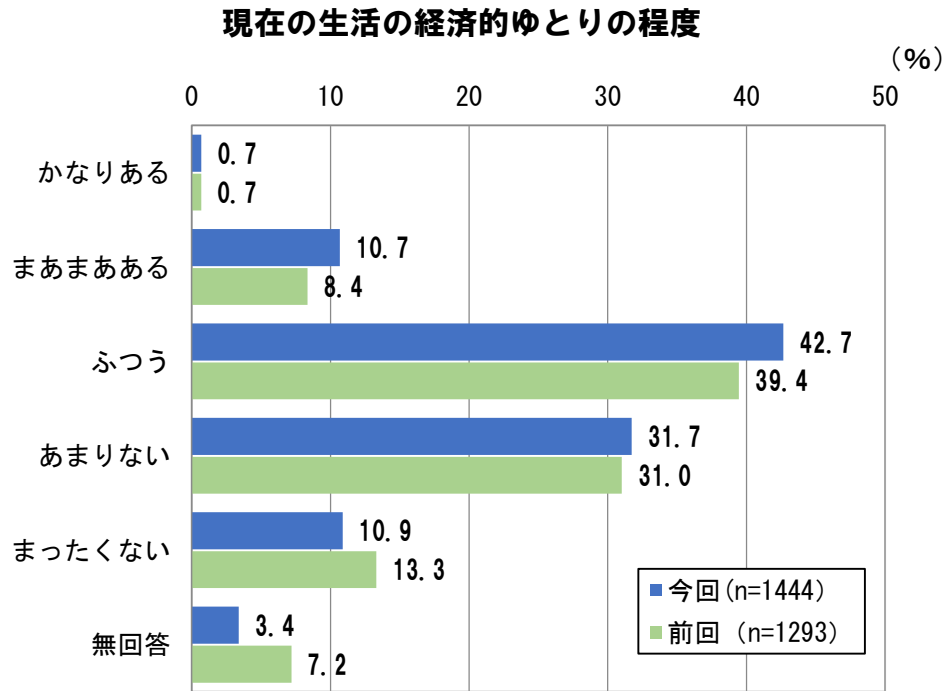
●前回調査と比較すると、10項目中5項目が増加しており、「自分の健康状態」が2.4ポイントと最も増加、減少した5項目の中では「子どものしつけや接し方」が3.1ポイントと最も減少しています。

子育てなどについての心配や悩み事



(9) 【保護者向け】現在の生活の経済的ゆとりの程度 (SA)

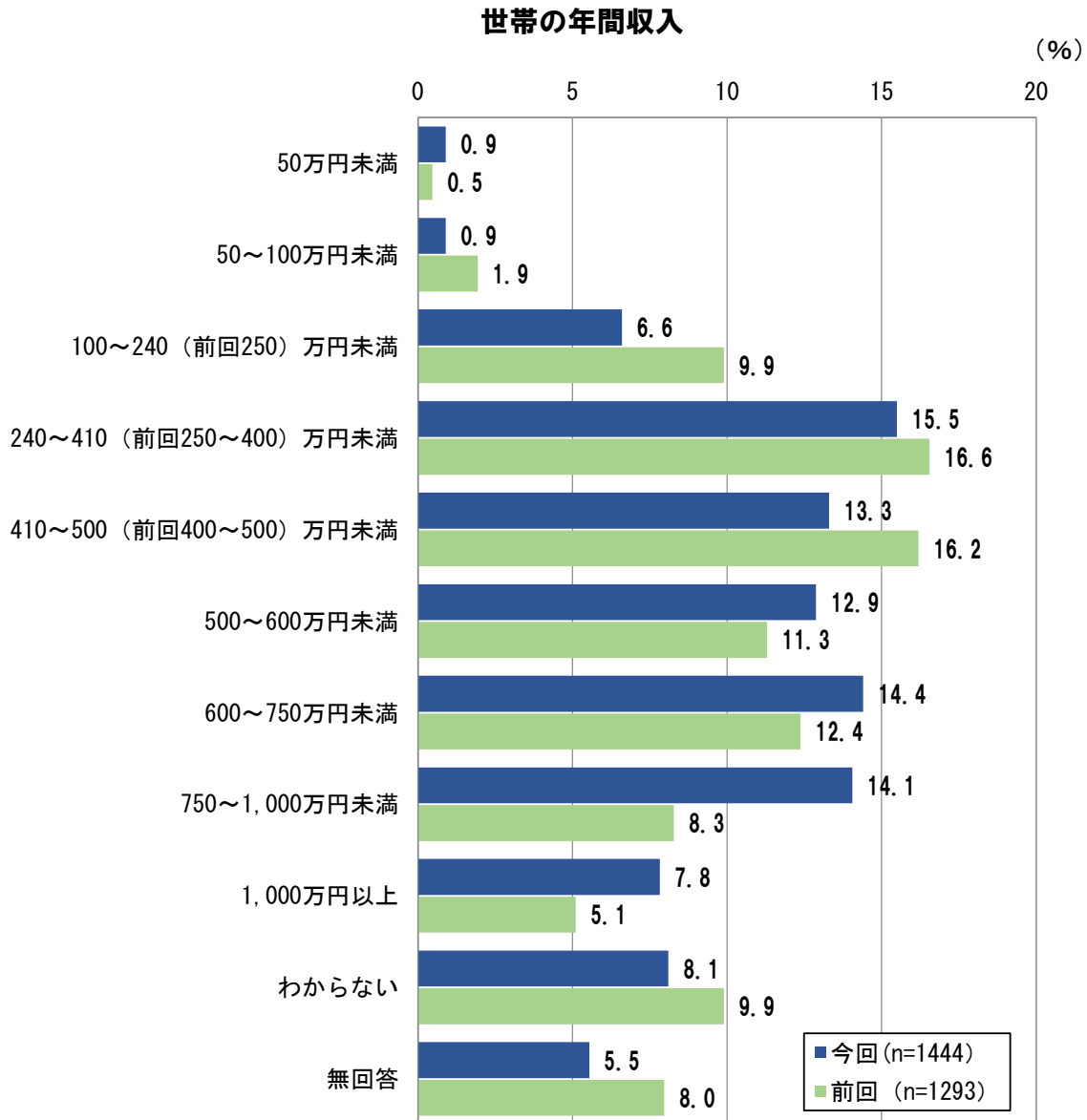
- 現在の生活の経済的ゆとりの程度については、「ふつう」が42.7%で最も高く、次いで「あまりない」が31.7%、「まったくない」が10.9%となっています。
- 前回調査と比較すると、『ゆとりがある』(「かなりある」と「まあまあある」の合計)は11.4%で2.3ポイント増加、『ゆとりがない』(「あまりない」と「まったくない」の合計)は42.6%で1.7ポイント減少となっています。



(10) 【保護者向け】世帯の年間収入 (SA)

○世帯の年間収入については、「240～410万円未満」が15.5%で最も高く、次いで「600～750万円未満」が14.4%、「750～1,000万円未満」が14.1%となっています。

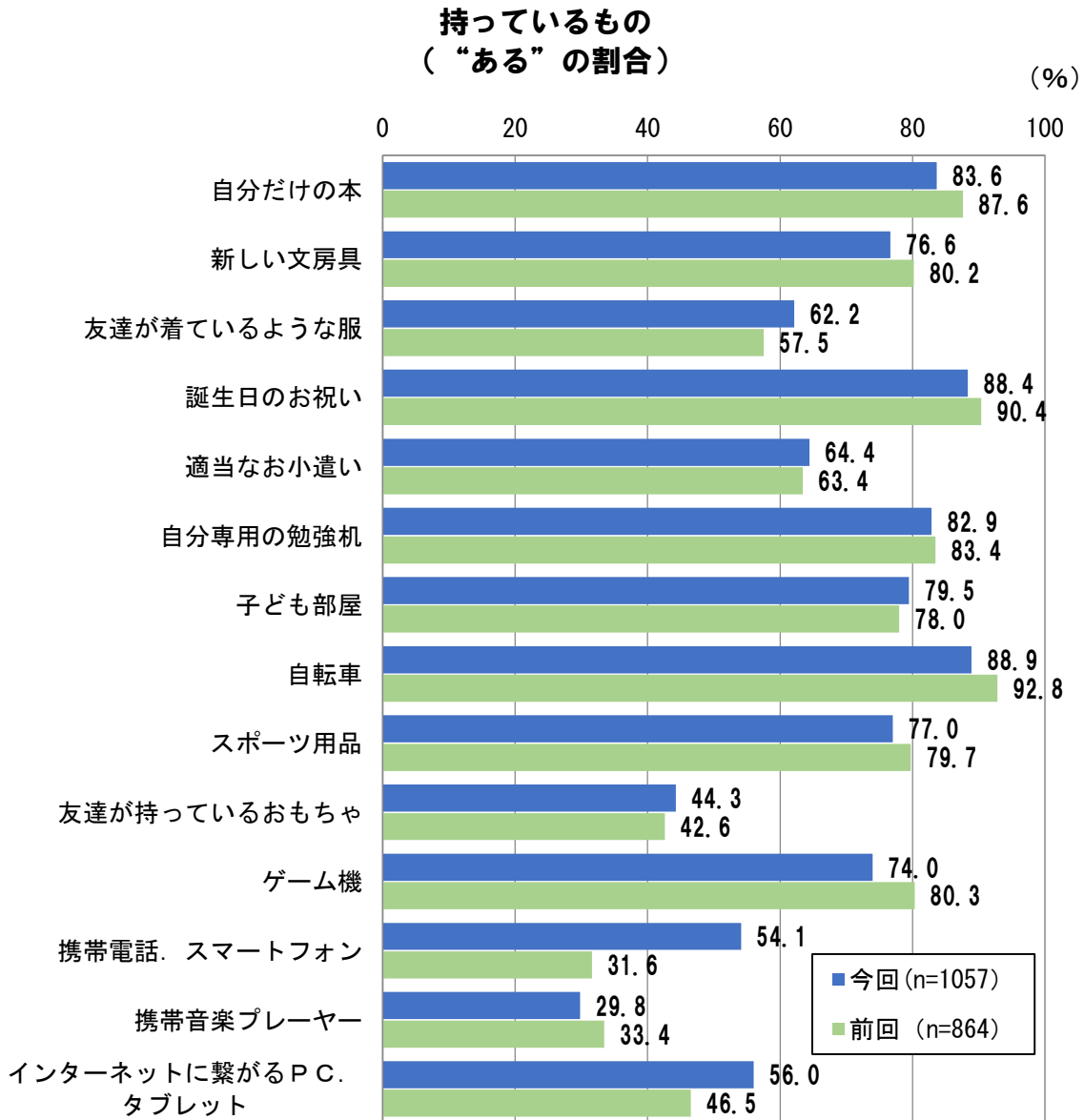
●前回調査と比較すると、『240万円未満（前回250万円未満）』は、今回は8.4%、前回は12.3%で3.9ポイント減少、「750～1,000万円未満」が5.8ポイント増加、「1,000万円以上」が2.7ポイント増加しており、500万円以上の割合の増加が目立っています。



(11)【子ども向け】持っている物(SA)

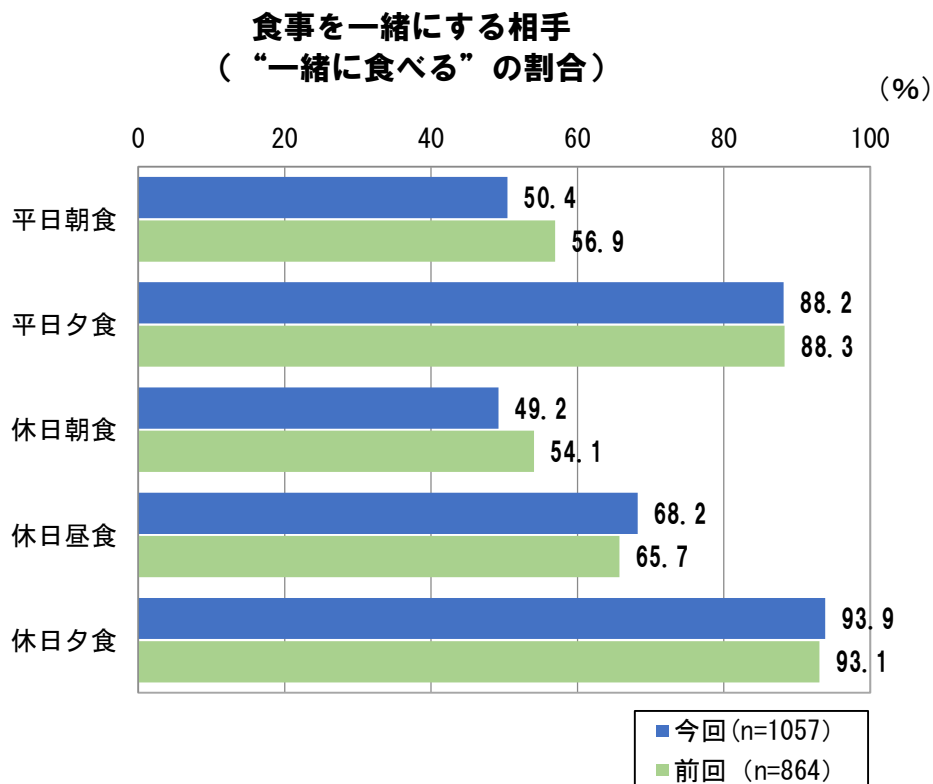
○持っている物について“ある”の割合が最も多いのは「自転車」で88.9%、次いで「誕生日のお祝い」が88.4%、「自分だけの本」が83.6%の順となっています。逆に少ないのは、「携帯音楽プレーヤー」が29.8%、「友達が持っているおもちゃ」が44.3%などとなっています。

●前回調査と比較すると、14項目中6項目が増加しており、「携帯電話、スマートフォン」が22.5ポイントと最も増加、減少した8項目の中では「ゲーム機」が6.3ポイントと最も減少しています。



(12) 【子ども向け】食事を一緒にする相手 (SA)

- 食事を一緒に食べる相手について“家族と一緒に食べる”が最も多い機会は「休日夕食」で93.9%、次いで「平日夕食」が88.2%となっています。
- 前回調査と比較すると、「平日朝食」が6.5ポイント減少、「休日朝食」が4.9ポイント減少と朝食の割合が減少しています。



(13) 【子ども向け】日常生活の中で感じていること (SA)

○日常生活の中で感じていることについて、“そう思う”という肯定的感想が多かったのは「家族に大事にされている」が57.3%で最も高く、次いで「努力すれば出来るようになる」が57.3%、「毎日の生活が楽しい」が46.2%の順となっています。

●前回調査と比較すると、10項目中7項目が増加しており、「家族に大事にされている」が6.9ポイントと最も増加、減少した3項目の中では「自分の将来が楽しみ」が6.4ポイントと最も減少しています。

日常生活の中で感じていること（“そう思う”の割合）

